

令和7年度

教 育 要 項

臨床医学 I

奈良県立医科大学
医学部 医学科

学籍番号

氏名

目 次

建学の精神・理念・ポリシー	3
奈良県立科大学医学部医学科授業科目履修要領	6
奈良県立医科大学医学部医学科 カリキュラム図	20
奈良県立医科大学医学部医学科 カリキュラムツリー	21
奈良県立医科大学医学部医学科 アウトカムに対する到達目標レベル（マイルストーン）	22
奈良県立医科大学医学部医学科 卒業時アウトカム、カリキュラムマップ	23
令和7年度 臨床医学Ⅰ時間割	29
令和7年度 臨床医学Ⅰ反転授業一覧	39
令和7年度 出席確認方法一覧	40
令和7年度 臨床医学Ⅰ試験日程	41
試験に関する諸注意	42
授業科目紹介（臨床医学Ⅰ）	
循環器疾患	44
呼吸器疾患	46
肝・胆・膵疾患	49
消化管・乳腺疾患	51
小児疾患	54
腎疾患・尿路系疾患	56
画像診断・IVR	58
膠原病・アレルギー疾患	60
血液疾患	62
神経疾患	64
移植・再生医学	67
運動器疾患	69
眼疾患	71
精神・行動疾患	73
皮膚疾患	75
耳鼻咽喉疾患	77
東洋医学	79
感染症	80
内分泌代謝栄養疾患	82
口腔疾患	84
周産期医学	86
婦人疾患	88
臨床腫瘍学・放射線治療学	90
麻酔・疼痛管理	92
外傷・救急医学	94

総合診療	96
在宅医療学	98
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	100
法医学	103
病理学実習	105
行動科学Ⅱ	107
臨床手技実習	108
実践的医療倫理Ⅰ	110
共用試験（CBT）	111
共用試験（臨床実習前 OSCE）	112
実務経験のある教員による授業科目一覧	113
地域基盤型医療教育コース	114
研究医養成コース	115
緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ	116
コンソーシアム実習	117
奈良県立医科大学医学部公欠規程	118
奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領	122
出席確認端末（Early Bird）について	123
暴風警報発令時における授業の措置について	124
地震発生等災害時における授業の措置について	125
健康管理	126
奈良県立医科大学・附属病院配置図	128

奈良県立医科大学の「建学の精神」

最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します。

奈良県立医科大学の理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

奈良県立医科大学教育分野の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

- 方針**
1. 良き医療人育成プログラムの実践
 2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
 3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
 4. 学習環境と教育環境の充実

医学科教育目標

奈良県立医科大学は、将来、研究・医療・保健活動を通じて地域社会に貢献し、より広く人類の福祉と医学の発展に寄与できる人材を育成するため、医学・医療に関する基本的な知識、技術、態度・習慣を体得し、独創性と豊かな人間性を涵養し、あわせて生涯学習の基礎をつくることを教育の目標とする。

ディプロマ・ポリシー

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位と時間数を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

1. 倫理観とプロフェッショナリズムの育成、コミュニケーション教育

教養教育では、自律心の向上と倫理学教育に重点を置く。プロフェッショナリズム、コミュニケーション教育に資するため、早期から、高齢者や乳幼児、障害者の施設を見学する機会を持ち、現場で人間的触れ合いを通じて知識だけでなく実践的な医療倫理的素養を培うカリキュラムを配置する。

2. 医学、医療とこれらに関連する領域の知識、技能、態度の習得

医学の基盤となる知識を早期から段階的に積み上げていく教育カリキュラムを配置する。

- ① 教養教育では語学や自然科学の基本を習得し、生命科学を学ぶための基盤を作り上げるカリキュラムを配置する。

- ② 基礎医学では、医学の根幹となる解剖学、生理学、生化学を学び、さらに、発展的な基礎医学知識を獲得できるように段階的なカリキュラムを配置する。
- ③ 臨床医学では、広範な知識と基本的臨床技能を習得できるようなカリキュラムを配置する。知識、技能、態度が共用試験（CBT、臨床実習前OSCE）による全国共通試験でも確認された後に、臨床実習生（医学）として臨床実習に参加させる。
- ④ 臨床実習では、診療参加の実態を確保し、医療面接と診療技法を中心に実践的な教育を行う。また、臨床実習の終了時点で臨床実習後OSCEを実施し、得られた臨床技能、態度の確認を行う。

3. 国際的な視野と科学的探究心の育成

すべての学生に、研究マインドを涵養するべく、リサーチ・クラークシップを実施する。関心の高い学生には、早期から生命科学系の研究に参加できるように、6年一貫の「研究医養成コース」を設けている。海外での実習の機会も設ける。

4. 医療を通じた地域社会への貢献

医療システムについての理解を深めることはもちろんであるが、大学内のみならず、奈良県を中心に地域社会、地域医療と関わりを持つ実体験を通じて、奈良の医療を良くしたいという意欲を高める体験型の教育を行っていく。このための6年一貫の「地域基盤型医療教育コース」を設ける。

アドミッション・ポリシー

<アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)>

理念を踏まえ、地域の医療と世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、次のような資質を持った人を求めています。

<医学部医学科が求める学生像>

1 医師となる自覚が強く、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人

医師に求められる旺盛な科学的探求心、自然および人間・社会についての幅広い知識と向学心、自ら問題を解決しようとする主体性を持った人を求めます。加えて、豊かな人間性、高い倫理観ならびに社会性を有する人を求めます。

2 患者の立場に立って判断し、患者が安心して受診できる医師となれる人

医師には医学的知識とともに、良好な患者・医師関係を築くことができる十分なコミュニケーション能力、他職種と連携しチーム医療をリードできる能力が必要です。医師として自己研鑽ができ、自己の理念を持っているとともに、協調性に優れた人を求めます。

3 将来性豊かで、奈良県だけでなく日本、世界の医学界をリードできる人

地域医療に貢献するとともに、国際的にも活躍できる医師・研究者を育成します。入学後、世界の医学界でも活躍できる意欲と能力を高め、積極的に地域社会および国際社会に貢献できる人を求めます。

<入学者選抜の基本方針>

高等学校等で学習する全ての教科が医学科教育の土台になるため、いずれの入試においても、大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を確認します。

【一般選抜(前期日程及び後期日程)】

本個別学力検査では、医学科の学修に十分対応できる知識とそれを利活用した思考力、判断力及び表現力を確認します。さらに、面接を行い、本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

【学校推薦型選抜】

緊急医師確保枠をはじめ、地域における高度な医療を推進し発展させることを目指す地域枠への入学を希望する者を対象に行います。個別学力検査、面接等で将来、地域医療・医学に貢献しようとする志し及び本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部医学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(教育課程の区分)

第2条 教育課程を次のとおりとする。

- 一 教養教育 第1年次第1学期から第3学期まで
- 二 基礎医学教育
 - ア 基礎医学Ⅰ 第2年次第1学期から第3学期まで
 - イ 基礎医学Ⅱ 第3年次第1学期から第2学期まで
- 三 臨床医学教育
 - ア 臨床医学Ⅰ 第3年次第3学期から第4年次第2学期まで
 - イ 臨床医学Ⅱ 第4年次第3学期から第5年次第1学期まで
 - ウ 臨床医学Ⅲ 第5年次第2学期から第6年次第3学期まで

(科目等)

第3条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、教養教育授業科目表（別表1）、専門教育授業科目表（別表2-1、2-2、3）、臨床実習授業科目表（別表4）及び6年一貫教育授業科目表（別表5）のとおりにする。なお、6年一貫教育授業科目に「良き医療人育成プログラム」、「地域基盤型医療教育プログラム」、「臨床マインド育成プログラム」、「研究マインド育成プログラム」、「臨床英語強化プログラム」及び「地域基盤型医療教育コース」、「研究医養成コース」を設置する。

(履修条件・進級・卒業)

第4条 科目の履修、進級及び卒業の条件は次のとおりとする。なお、進級が認められなかった者については、未修得科目に加えてマイプログラム^{※1}を修得しなければ、進級することができない。ただし、卒業が認められなかった者については、この限りでない。

また、「地域基盤型医療教育コース」及び「研究医養成コース」を履修した者については、別に定めるとおりとする。

※1 マイプログラムとは、自己学習力の向上や個人が関心のある分野での成長促進等を目的として、学生ごとのキャリアデザインに沿った教育を実践するプログラムのことをいう。

一 教養教育

教養教育授業科目（別表1）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得しなければ、基礎医学Ⅰに進級することができない。なお、教養教育において、必修科目38単位及び選択科目9単位以上を修得しなければならない。また、選択科目については、履修登録を指定期間内に行わなければならない。

二 基礎医学教育

ア 基礎医学Ⅰ

専門教育授業科目（別表2-1）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得しなければ基礎医学Ⅱに進級することができない。

イ 基礎医学Ⅱ

専門教育授業科目（別表2-2）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得し、基礎医学知識到達度評価試験（BNAT：Basic science kNowledge Achievement Test）を受験しなければ臨床医学Ⅰに進級することができない。

三 臨床医学教育

ア 臨床医学Ⅰ

専門教育授業科目（別表3）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得し、CBT及び臨床実習前OSCEに合格しなければ臨床医学Ⅱに進級することができない。

イ 臨床医学Ⅱ

臨床実習授業科目表 ローテーション型臨床実習（別表4）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得しなければ進級することができない。

ウ 臨床医学Ⅲ

5年次臨床医学知識到達度評価試験（CNAT：Clinical science kNowledge Achievement Test）を受験し、臨床実習授業科目表 選択型臨床実習（別表4）及び6年一貫教育授業科目（別表5）を修得し、臨床実習後OSCE及び卒業試験（統合問題形式の筆記試験）に合格しなければ卒業することができない。なお、卒業できなかった学生は、6年次の第1学期から再履修し、臨床実習後OSCE及び卒業試験に合格しなければ、卒業することができない。

（単位の計算方法）

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- 一 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。
- 二 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては15時間をもって1単位とすることができる。
- 三 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。

(単位又は授業科目修得の認定)

第6条 授業科目の単位又は修得の認定は試験等により、教室主任又は科目責任者が行う。

(試験)

第7条 定期試験は、期日を定めて行う。

一 定期試験の期間は、あらかじめ公示する。

二 定期試験以外に担当教員が必要と認めたときは、臨時試験を行うことがある。

2 試験は筆答及び口頭又はそのいずれかをもって行う。

3 各科目について、授業時間数の3分の2以上出席^{*2}し、かつ担当教員の承認を得なければ当該科目の定期試験を受けることができない。ただし、公欠を認められた期間は、上記の授業時間数には含めないものとする。補講等が実施された場合は当該期間数に含めるものとする。「奈良県立医科大学医学部公欠規程」参照。

4 疾病その他やむを得ない事由のため、所定の期日に定期試験を受けることができない者は、担当教員の承認を得るとともに、別に定める試験欠席届を学長に提出しなければならない。

欠席届を提出した者については、担当教員が別に期日と方法を定めて追試験を行う。

5 授業科目の単位又は修得の認定についての評価方法は、別に教育要項で定める。

6 成績は、100点法によって表示し、60点以上をもって合格とする。60点未満の者については、原則として再試験を1回行い、合否を判定する。ただし、再試験の成績表示は、60点を上限とする。

7 試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(成績認定、進級判定)

第8条 成績認定及び進級判定は、教養教育協議会、基礎医学教育協議会、臨床医学教育協議会又は教務委員会から提出された成績資料に基づき、成績認定会議で審議を行う。

2 成績認定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター教育教授をもって組織する。

3 成績認定及び進級判定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(卒業認定)

第9条 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定は、教授会議で審議を行い、その結果を受けて卒業判定会議で審議を行う。

2 卒業判定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター教育教授をもって組織する。

3 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が認定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(雑則)

第10条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、平成28年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 平成28年4月1日より前の進級、卒業要件は従前どおりとする。
- 3 第3条(2)第2学年及び(3)第3学年における(ウ)教養教育科目については、平成28年度限りとする。

教養教育授業科目は、第1学年の履修科目とし、平成27年度までに入学した学生に対しては、変更後の教養教育授業科目表(別表1)の代わりに、次のとおり、読み替えを行う。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、平成29年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 平成27年度以前に必修科目が修得できないことによって進級できなかった学生の進級要件は、当該科目の再履修のみとする。

附 則

(施行期日)

この要領は、平成29年5月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、平成30年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 平成27年度以前に必修科目が修得できないことによって進級できなかった学生の進級要件は、当該科目の再履修のみとする。

附 則

(施行期日)

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和元年12月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和2年7月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和2年12月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第4条1項三号イ及びウに規定する5年次臨床医学知識到達度評価試験は、令和2年12月1日以降に臨床実習Ⅰを履修した者に対して適用し、同日前に臨床実習Ⅰを履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第4条1項の進級が認められなかった者に関する規定は、統合臨床講義については、令和3年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に統合臨床講義を履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和3年12月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第7条6項の追試験の成績表示に関する規定は、教養教育及び基礎医学Ⅰについては、令和4年4月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に教養教育又は基礎医学Ⅰを履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和4年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第2条1項三号ア、イ及びウ並びに第7条6項の再試験の成績表示に関する規定は、臨床医学教育については、令和4年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に臨床医学教育を履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和4年12月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第2条1項三号イ及びウ並びに第4条1項三号イ及びウの臨床医学Ⅱ及びⅢの履修内容等に関する規定は、令和4年12月1日以降に臨床医学Ⅱを履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和5年12月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第2条1項三号イ及びウ並びに第4条1項三号イ及びウの臨床医学Ⅱ及びⅢの履修内容等に関する規定は、令和4年12月1日以降に臨床医学Ⅱを履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和6年4月1日から施行する。

※2 3分の2以上出席の考え方について

学則第41条に規定されているとおり、授業に出席することは学生の本分であり、出席不良者（正当の理由がなくて出席常でないもの）は退学、停学、又はけん責（文書注意）のいずれかの懲戒の対象となる。よって、授業時間数の3分の2を出席すれば、それ以上出席しなくてもよいというものではない。

履修要領第7条第3項に定めている「3分の2以上出席」の趣旨は、例えば、傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる出席数の下限を定めているものである。

学則（抜粋）

第41条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基く規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は次の各号の一に該当する者のみに行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

別表1 教養教育 医学科授業科目表

種類	授業科目	選択・必修		授業時間数			単位数	備考
		前期	後期	時間/週	年間週数	計		
1	基礎物理学	◎		2	15	30	2	
	電気と磁気の物理学		△	2	15	30	2	
	熱とエネルギーの物理学		△	2	15	30	2	
	基礎物理学演習	◎		2	15	30	1	
	基礎物理学実験		◎	4	12	48	1	
2	分析化学	◎		2	15	30	2	
	有機化学	◎		2	15	30	2	
	生体分子化学		△	2	15	30	2	
	医用材料化学		△	2	15	30	2	
	基礎化学実験		◎	4	12	48	1	
3	生命科学概論（基礎）	□	□	2	30	60	4	
	生命科学概論（発展）	□	□	2	30	60	4	
	分子生物学		△	2	15	30	2	
	入門生物学		△	2	15	30	2	
	基礎生物学		△	2	15	30	2	
	基礎生物学実験	◎		4	12	48	1	
4	微積分学および線形代数学	◎	◎	2	30	60	4	
	代数学入門		△	2	15	30	2	
	幾何学入門		△	2	15	30	2	
	線形代数学演習	△		2	15	30	1	
	微積分学演習	△		2	15	30	1	
5	生物統計学	◎		2	15	30	2	
	医療情報学		△	2	15	30	2	
6	スポーツ実践Ⅰ	◎		2	15	30	1	
	スポーツ実践Ⅱ		◎	2	15	30	1	
	健康科学	△		2	15	30	2	
7	English for Medical Purposes	◎	◎	4	30	120	4	
8	医療に関わる倫理学Ⅰ	◎		2	15	30	2	医看合同(注3)
	医療に関わる倫理学Ⅱ		△	2	15	30	2	医看合同(注3)
	哲学	△		2	15	30	2	医看合同(注3)
9	アジア文化論 (注1)	◎		2	15	30	1	医看合同(注3)
	西洋文化論 (注2)		◎	2	15	30	1	医看合同(注3)
	異文化論	△		2	15	30	2	医看合同(注3)
10	教育実践論	◎		2	15	30	2	医看合同(注3)
	臨床心理学		◎	2	15	30	2	医看合同(注3)
	社会福祉と医療法規		◎	2	15	30	2	医看合同(注3)
	行動科学Ⅰ		◎	2	15	30	2	
	市民と法		△	2	15	30	2	
11	医学研究入門	△		2	15	30	2	

◎…必修科目、□…選択必修科目、△…選択科目

(注1) 「アジア文化論」：中国文化、韓国文化、インドネシア文化
(注2) 「西洋文化論」：ドイツ文化、フランス文化、アメリカ文化
(注3) 医学看護学合同教育科目：医学科及び看護学科共通科目

別表2-1 基礎医学Ⅰ 専門教育授業科目表

区分	授業科目	主担当講座	授業時間数
講義	解剖学Ⅰ	解剖学第一	47
	解剖学Ⅱ	解剖学第二	45
	発生・再生医学	発生・再生医学	27
	生理学Ⅰ	生理学第一	51
	生理学Ⅱ	生理学第二	51
	生化学	生化学	57
合計			278

区分	授業科目	主担当講座	授業時間数
実習	人体解剖実習	解剖学第一 / 解剖学第二	95
	解剖学Ⅰ実習	解剖学第一	15
	解剖学Ⅱ実習	解剖学第二	18
	生理学Ⅰ実習	生理学第一	42
	生理学Ⅱ実習	生理学第二	42
	生化学実習	生化学	39
合計			251

別表2-2 基礎医学Ⅱ 専門教育授業科目表

区分	授業科目	主担当講座	授業時間数
講義	病理学	分子病理学	42
	病原体・感染防御医学	病原体・感染防御医学	45
	微生物感染症学	微生物感染症学	30
	免疫学	免疫学	45
	薬理学	薬理学	27
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	疫学・予防医学	63
合計			252

区分	授業科目	主担当講座	授業時間数
実習	病理学実習	分子病理学	6
	病原体・感染防御医学実習	病原体・感染防御医学	12
	微生物感染症学実習	微生物感染症学	21
	免疫学実習	免疫学	12
	薬理学実習	薬理学	33
合計			84

別表3 臨床医学I 専門教育授業科目表

授業科目	担当講座		授業時間数
	主担当講座	関係講座	
循環器疾患	循環器内科学	胸部・心臓血管外科学、小児科学、放射線診断・IVR学、薬理学、先天性心疾患センター	26
呼吸器疾患	呼吸器内科学	胸部・心臓血管外科学、小児科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、薬理学	26
肝・胆・膵疾患	消化器内科学	消化器・総合外科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、総合画像診断センター	17
消化管・乳腺疾患	消化器・総合外科学	消化器内科学、小児科学、放射線診断・IVR学、分子病理学、教育開発センター	29
小児疾患	小児科学	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	12
腎疾患・尿路系疾患	泌尿器科学	腎臓内科学、小児科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、透析部、薬理学	29
画像診断・IVR	放射線診断・IVR学	中央放射線部、総合画像診断センター	7
膠原病・アレルギー疾患	腎臓内科学	呼吸器内科学、脳神経内科学、整形外科、小児科学、皮膚科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学	10
血液疾患	血液内科学／輸血部	感染症内科学、小児科学、病理診断学、輸血部	24
神経疾患	脳神経内科学／脳神経外科学	泌尿器科学	33
移植・再生医学	胸部・心臓血管外科学	血液内科学、消化器・総合外科学、眼科学、小児科学、口腔外科学、リハビリテーション医学、形成外科学、透析部、発生・再生医学、免疫学、手の外科学	17
運動器疾患	整形外科	リハビリテーション医学、手の外科学、骨軟部腫瘍制御・機能再建医学、スポーツ医学、玉井進記念四肢外傷センター	16
眼疾患	眼科学	-	14
精神・行動疾患	精神医学	-	24
皮膚疾患	皮膚科学	-	10
耳鼻咽喉疾患	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	放射線診断・IVR学	14
東洋医学	教育開発センター	産婦人科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、麻酔科学、大和漢方医学薬学センター	7
感染症	感染症内科	小児科学、病原体・感染防御医学、微生物感染症学、免疫学、薬理学、前立腺小線源治療学	17
内分泌代謝栄養疾患	糖尿病・内分泌内科学	循環器内科学、腎臓内科学、消化器内科学、脳神経内科学、産婦人科学、眼科学、小児科学、病理診断学	25
口腔疾患	口腔外科学	-	14
周産期医学	産婦人科学	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	19
婦人疾患	産婦人科学	放射線診断・IVR学、病理診断学	12
臨床腫瘍学・放射線治療学	放射線腫瘍医学	呼吸器内科学、消化器・総合外科学、精神医学、放射線診断・IVR学、病理診断学、がんゲノム・腫瘍内科学、免疫学、薬理学、疫学・予防医学、分子病理学、中央臨床検査部、中央放射線部、緩和ケアセンター、医療情報部	26
麻酔・疼痛管理	麻酔科学	薬理学	17
外傷・救急医学	救急医学	脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、玉井進記念四肢外傷センター、集中治療部	18
総合診療	総合医療学	-	10
在宅医療学	総合医療学	-	6
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学	疫学・予防医学、教育開発センター、生命倫理管理室	27
社会フィールド系実習			30
法医学	法医学	-	24
社会フィールド系実習			30
病理学実習	病理診断学	-	21
合 計			611

別表4 臨床実習授業科目表

授業科目	分類	診療科	授業時間数(週)
ローテーション型臨床実習	内科	循環器内科	1
		腎臓内科	1
		呼吸器・アレルギー内科	1
		血液内科、輸血部	1
		感染症内科	1
		消化器・代謝内科、中央内視鏡・超音波部	1
		糖尿病・内分泌内科	1
		脳神経内科、脳卒中センター	1
	外科	消化器外科・小児外科・乳腺外科	1
		心臓血管外科・呼吸器外科、先天性心疾患センター	1
		脳神経外科	1
		整形外科、四肢外傷センター	1
	専門性の高い診療科	歯科口腔外科	1
		眼科	1
		皮膚科、形成外科	1
		泌尿器科、透析部	1
		耳鼻咽喉・頭頸部外科、めまいセンター	1
		放射線・核医学科、総合画像診断センター、IVRセンター	1
		放射線治療科	1
		麻酔科、ペインセンター、中央手術部、緩和ケアセンター	1
		救急科	1
		リハビリテーション科	1
		腫瘍内科	1
		中央臨床検査部／病理診断科	1
合計			24
選択型臨床実習	必修	産婦人科	4
		小児科、NICU	4
		精神科	4
		総合診療科	4
		内科から1診療科	4
		外科から1診療科	4
	選択	選択実習 4週×5ターム	20
	合計		

別表5 6年一貫教育授業科目表

《A 良き医療人育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	医の探求入門 (※注1)	必修	◎						26
2	奈良学 (※注2)	必修	◎						30
3	次世代医療人育成論	必修	◎						30
4	ロールモデルを探す	必修		◎					9
5	VOP講座	必修		◎					9
6	基礎医学ⅠTBL	必修		◎					30
7	基礎医学ⅡTBL	必修			◎				30
8	臨床医学TBL	必修					◎		15
9	私のキャリアパスⅠ	必修			◎				12
10	私のキャリアパスⅡ	必修					◎		7
11	キャリアパス・メンター実習 (※注3)	必修						◎	16
12	行動科学Ⅰ (※注4)	必修	◎						30
13	行動科学Ⅱ	必修				◎			9
14	医療安全学Ⅰ (基礎編)	必修			◎				9
15	医療安全学Ⅱ (臨床編)	必修					◎		18
16	実践的医療倫理Ⅰ	必修				◎			9
17	実践的医療倫理Ⅱ	必修						◎	3
18	チーム医療論	必修					◎		6
19	Never do harm!	必修					◎		15
合 計									313

- (注1) 《D 研究マインド育成プログラム》NO.1と同一授業科目
 (注2) 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO.1と同一授業科目
 (注3) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.8と同一授業科目
 (注4) 教養教育授業科目の必修科目 (別表1参照)

《B 地域基盤型医療教育プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	奈良学 (※注5)	必修	◎						30
2	地域医療実習1	必修			◎				24
3	地域医療実習2	必修						◎	30
4	早期医療体験実習 (※注6)	必修	◎						24
5	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習1 (※注7)	必修	◎	◎	◎	◎			30
6	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習2 (※注8)	必修					◎	◎	10
7	コンソーシアム実習〈地域医療学概論〉 (早稲田大・奈良医大連携講座) (※注9)	必修							24
合 計									172

- (注5) 《A 良き医療人育成プログラム》NO.2と同一授業科目
 (注6) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.3と同一授業科目
 (注7) 1～4年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修
 (注8) 5～6年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修
 (注9) 夏季休暇中に行う集中講義 ※緊急医師確保入学試験枠の学生は、履修が必修

《C 臨床マインド育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	医学・医療入門講義	必修	◎						30
2	デジタル医用工学 (※注10)	必修	◎						8
3	早期医療体験実習 (※注11)	必修	◎						24
4	臨床手技実習入門Ⅰ	必修	◎						22
5	臨床手技実習入門Ⅱ	必修		◎					30
6	臨床手技実習入門Ⅲ	必修			◎				30
7	臨床手技実習	必修				◎			41
8	キャリアパス・メンター実習 (※注12)	必修						◎	16
9	救急車同乗実習	自由		□					—
合 計									201

(注10) 《D 研究マインド育成プログラム》NO. 2と同一授業科目

(注11) 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO. 4と同一授業科目

(注12) 《A 良き医療人育成プログラム》NO. 11と同一授業科目

《D 研究マインド育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	医の探求入門 (※注13)	必修	◎						26
2	デジタル医用工学 (※注14)	必修	◎						8
3	医学研究入門	選択	○						30
4	リサーチ・クラークシップ	必修		◎					252
5	研究医特別メンター実習 (※注15)	必修		◎	◎	◎			—
6	コンソーシアム実習〈医工学と医学〉 (早稲田大・奈良医大連携講座) (※注16)	必修						◎ 夏季休暇中	24
合 計									340

(注13) 《A 良き医療人育成プログラム》NO. 1と同一授業科目

(注14) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO. 2と同一授業科目

(注15) 研究医養成コースの学生は、基礎医学Ⅰ～臨床医学Ⅰでの履修が必修

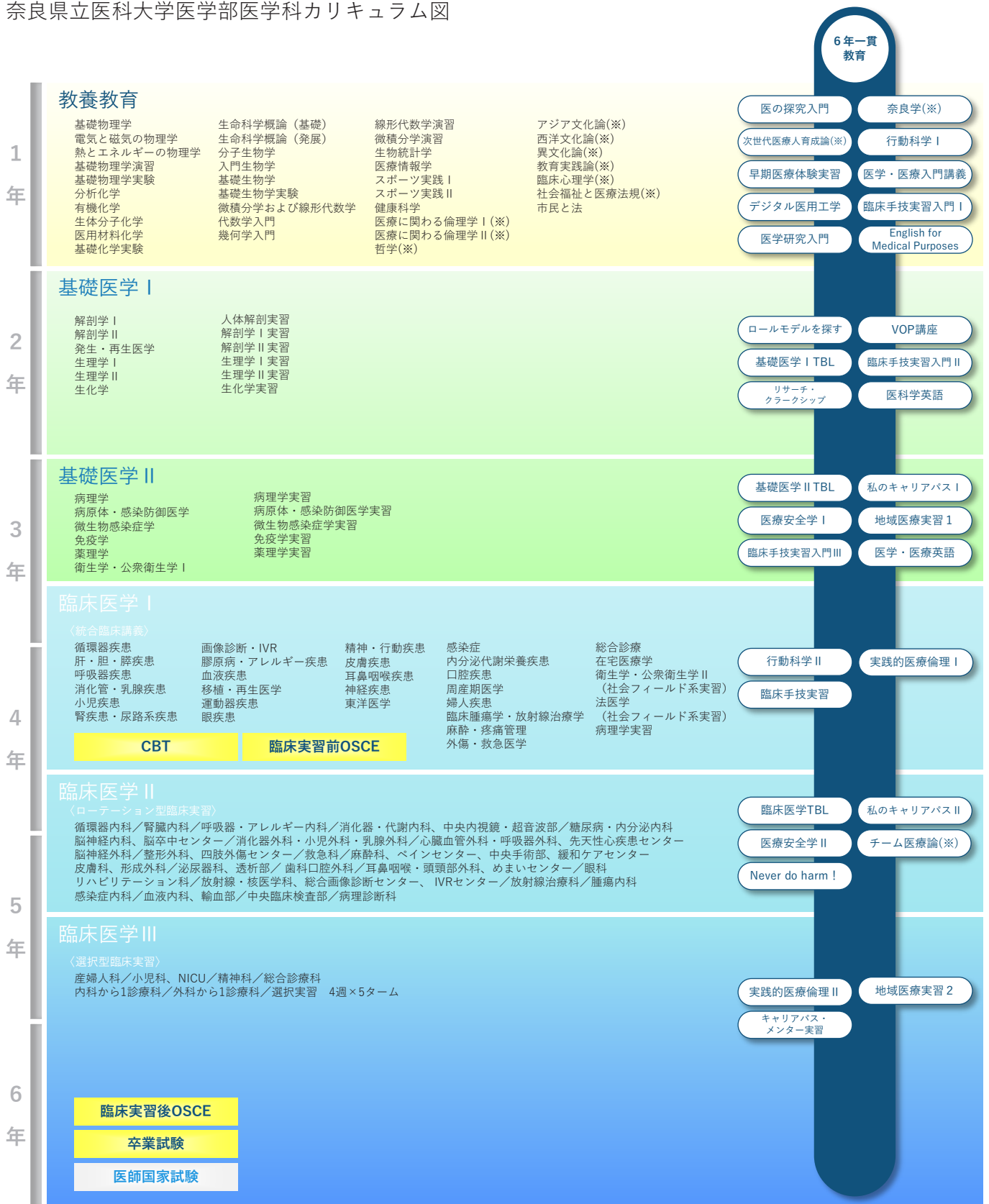
(注16) 夏季休暇中に行う集中講義 ※研究医養成コースの学生は、履修が必修

《E 臨床英語強化プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	English for Medical Purposes (※注17)	必修	◎						120
2	医科学英語	必修		◎					15
3	医学・医療英語	必修			◎				6
合 計									141

(注17) 教養教育授業科目の必修科目 (別表1参照)

No.	授 業 科 目	区 分	教養教育 前期	基礎医学Ⅰ 前期	基礎医学Ⅱ 前期	臨床医学Ⅰ 前期	臨床医学Ⅱ 前期	臨床医学Ⅲ 前期	授業 時間数
4	Advanced English 1a: English for IELTS and TOEFL (speaking, reading)	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
5	Advanced English 1b: English for IELTS and TOEFL (writing, listening)	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
6	Remedial English	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
7	English for Medical Research Purposes	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
8	Advanced medical Vocabulary	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
9	Global Health issues	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
10	Advanced Clinical English I	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
11	Medical Ethics and the Law	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—



ディプロマポリシー

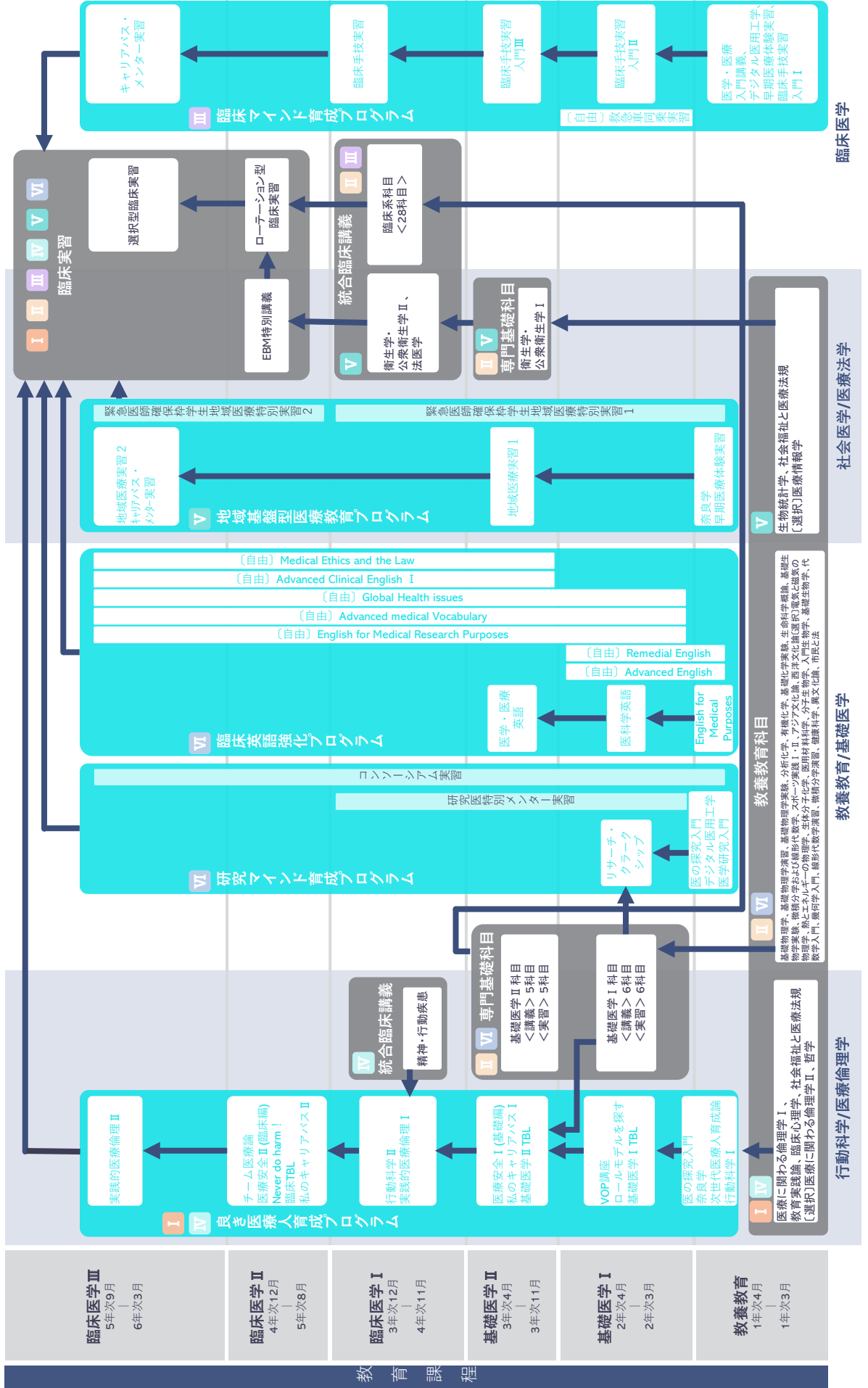
1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

ディプロマ・ポリシー

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実施できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

アウトカム

- I. 倫理観とプロフェッショナルナリズム
- II. 医学とそれに関する領域の知識
- III. 医療の実践
- IV. チームマネジメントとコミュニケーション技能
- V. 医学、医療、保健、社会への貢献
- VI. 国際的視野と科学的探究



アウトカムに対する到達度目標レベル (マイルストーン)

S

Advanced

120%

研修医レベル

A

Applied

100%

卒業時到達レベル

B

Basic

60%

C

Basic

30%

0%

I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。

II 医学とそれに関連する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、自然科学、社会科学など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

III 医療の実践

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い疾患の診断と治療を計画できる。

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

お互いの立場を理解、尊重した人間関係を構築し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

V 医学、医療、保健、社会への貢献

医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

	S Advanced 120% 研修医レベル	A Applied 100% 卒業時到達レベル	B Basic 60%	C Basic 30%	0%
診療の場で修得した知識・技能・態度を實踐できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を實踐できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	
診療の場で修得した知識を問題解決に応用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	
診療の場で実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	
診療の場で修得した知識・技能・態度を實踐できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	
診療の場で修得した知識を問題解決に応用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	
立案した計画を実施・発表できる	課題を認識し、計画立案できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない	

令和7年度 臨床医学I 時間割

講義室：臨床講義棟第1講義室 ※社会フィールド系実習（法医学）は基礎医学棟5階組織実習室

週	月				火				水				木				金																											
	日	AM	PM		日	AM	PM		日	AM	PM		日	AM	PM		日	AM	PM																									
1	12/2	オリエンテーション			12/3	オリエンテーション			12/4	呼吸器疾患1			小児疾患1			12/5	循環器疾患1			消化管・乳腺疾患1			12/6	腎疾患・尿路系疾患2			呼吸器疾患2			腎疾患3														
2	12/9	呼吸器疾患3			肝・胆・膵疾患1			12/10	小児疾患2			消化管・乳腺疾患2			12/11	循環器疾患2			自己学習時間			12/12	消化管・乳腺疾患3			呼吸器疾患4			12/13	小児疾患3			肝・胆・膵疾患2											
3	12/16	消化管・乳腺疾患4			腎疾患・尿路系疾患4			12/17	循環器疾患3			呼吸器疾患5			12/18	消化管・乳腺疾患5			小児疾患4			12/19	肝・胆・膵疾患3			腎疾患・尿路系疾患5			12/20	循環器疾患4			呼吸器疾患6											
4	12/23	腎疾患・尿路系疾患6			消化管・乳腺疾患6			12/24	肝・胆・膵疾患4			循環器疾患5			12/25	呼吸器疾患7			腎疾患・尿路系疾患7			12/26	消化管・乳腺疾患7			循環器疾患6			呼吸器疾患8			自己学習時間												
冬季休暇（12月28日～1月5日）																																												
5	1/6	循環器疾患7			消化管・乳腺疾患8			肝・胆・膵疾患5			1/7	肝・胆・膵疾患6			腎疾患8			画像診断・IVR1			1/8	腎疾患・尿路系疾患9			画像診断・IVR2			1/9	消化管・乳腺疾患9			画像診断・IVR3			1/10	腎疾患9			自己学習時間			循環器疾患8		
6	1/13	成人の日			腎疾患・尿路系疾患10			消化管・乳腺疾患10			1/15	循環器疾患9			呼吸器疾患9			腎疾患11			1/16	腎疾患・尿路系疾患12			呼吸器疾患10			肝・胆・膵疾患6			呼吸器疾患11			1/17	大学入学共通テスト準備									
7	1/20	試験前自己学習時間			試験前自己学習時間			1/21	試験前自己学習時間			1/22	第1ブロック試験						1/23	第1ブロック試験						1/24	試験前自己学習時間																	
8	1/27	試験前自己学習時間			試験前自己学習時間			1/28	第1ブロック試験						1/29	第1ブロック試験						1/30	試験後自己学習時間			神経疾患1			1/31	移植・再生医学1			推薦入学試験準備											
9	2/3	神経疾患2			耳鼻咽喉疾患1			2/4	運動器疾患1			眼疾患1			2/5	精神・行動疾患1			精神・行動疾患2			2/6	血液疾患1			皮膚疾患1			2/7	運動器疾患2			神経疾患3											
10	2/10	血液疾患2			運動器疾患3			2/11	建国記念日						2/12	神経疾患4			血液疾患3			2/13	膠原病・アレルギー1			移植・再生医学2			2/14	眼疾患2			皮膚疾患2											
11	2/17	膠原病・アレルギー2			血液疾患4			2/18	耳鼻咽喉疾患2			移植・再生医学3			2/19	精神・行動疾患3			精神・行動疾患4			2/20	眼疾患3			自己学習時間			2/21	前期入学試験準備														
12	2/24	振替休日			前期入学試験			2/25	前期入学試験						2/26	前期入学試験						2/27	神経疾患5			血液疾患5			2/28	運動器疾患4			膠原病・アレルギー3											
13	3/3	血液疾患6			皮膚疾患3			3/4	神経疾患6			耳鼻咽喉疾患3			3/5	精神・行動疾患5			精神・行動疾患6			3/6	皮膚疾患4			眼疾患4			3/7	移植・再生医学4			眼疾患5											
14	3/10	神経疾患7			血液疾患7			3/11	後期入学試験準備						3/12	後期入学試験						3/13	後期入学試験						3/14	第1ブロック追再試験														
15	3/17	第1ブロック追再試験						3/18	移植・再生医学5			膠原病・アレルギー4			3/19	精神・行動疾患7			精神・行動疾患8			3/20	春分の日						3/21	血液疾患8			神経疾患8											
春季休暇（3月22日～3月31日）																																												
16	4/1	神経疾患9			運動器疾患5			耳鼻咽喉疾患4			4/2	神経疾患10			行動科学Ⅱ1			4/3	東洋医学1			東洋医学2			4/4	行動科学Ⅱ2			行動科学Ⅱ3															
17	4/7	入学式（予定）			東洋医学3			自己学習時間			耳鼻咽喉疾患5			4/8	運動器疾患6			神経疾患11			4/9	移植・再生医学6			血液疾患9			4/10	神経疾患12			耳鼻咽喉疾患6			東洋医学4			4/11	試験前自己学習時間					
18	4/14	試験前自己学習時間			試験前自己学習時間			4/15	試験前自己学習時間			4/16	第2ブロック試験						4/17	第2ブロック試験						4/18	第2ブロック試験																	
19	4/21	試験前自己学習時間			試験前自己学習時間			4/22	試験前自己学習時間			4/23	第2ブロック試験						4/24	第2ブロック試験			健康診断			4/25	試験後自己学習時間																	
20	4/28	臨床腫瘍学・放射線治療学1			法医学1			4/29	昭和の日						4/30	感染症1			外傷・救急医学1			5/1	婦人疾患1			総合診療1			5/2	法医学2			法医学3											
21	5/5	こどもの日			振替休日			5/6	振替休日						5/7	衛生学・公衆衛生学Ⅱ1			臨床腫瘍学・放射線治療学2			5/8	周産期医学1			外傷・救急医学2			5/9	口腔疾患1			内分泌代謝栄養疾患1											
22	5/12	法医学4			婦人疾患2			5/13	感染症2			衛生学・公衆衛生学Ⅱ2			5/14	外傷・救急医学3			総合診療2			5/15	口腔疾患2			自己学習時間			5/16	内分泌代謝栄養疾患2			婦人疾患3											
23	5/19	衛生学・公衆衛生学Ⅱ3			臨床腫瘍学・放射線治療学3			5/20	口腔疾患3			内分泌代謝栄養疾患3			5/21	法医学5			感染症3			5/22	臨床腫瘍学・放射線治療学4			総合診療3			5/23	外傷・救急医学4			総合診療4											
24	5/26	感染症4			周産期医学2			5/27	婦人疾患4			臨床腫瘍学・放射線治療学5			5/28	口腔疾患4			自己学習時間			5/29	内分泌代謝栄養疾患4			臨床腫瘍学・放射線治療学6			5/30	周産期医学3			衛生学・公衆衛生学Ⅱ4											
25	6/2	第2ブロック追再試験						6/3	第2ブロック追再試験						6/4	第2ブロック追再試験						6/5	衛生学・公衆衛生学Ⅱ5			臨床腫瘍学・放射線治療学7			6/6	外傷・救急医学5			感染症5											
26	6/9	法医学6			口腔疾患5			6/10	内分泌代謝栄養疾患5			周産期医学4			6/11	臨床腫瘍学・放射線治療学8			衛生学・公衆衛生学Ⅱ6			6/12	感染症6			在宅医療学1			6/13	自己学習時間			内分泌代謝栄養疾患6											
27	6/16	麻酔・疼痛管理1			臨床腫瘍学・放射線治療学9			6/17	衛生学・公衆衛生学Ⅱ7			自己学習時間			6/18	麻酔・疼痛管理2			法医学7			6/19	内分泌代謝栄養疾患7			外傷・救急医学6			6/20	麻酔・疼痛管理3			自己学習時間											
28	6/23	周産期医学5			衛生学・公衆衛生学Ⅱ8			6/24	内分泌代謝栄養疾患8			麻酔・疼痛管理4			6/25	法医学8			外傷・救急医学7			6/26	麻酔・疼痛管理5			在宅医療学2			6/27	内分泌代謝栄養疾患9			周産期医学6											
29	6/30	自己学習時間			麻酔・疼痛管理6			7/1	周産期医学7			臨床腫瘍学・放射線治療学10			7/2	衛生学・公衆衛生学Ⅱ9			自己学習時間			7/3	自己学習時間			自己学習時間			7/4	自己学習時間			自己学習時間											
30	7/7	自己学習時間			臨床腫瘍学・放射線治療学11			7/8	自己学習時間			自己学習時間			7/9	自己学習時間			自己学習時間			7/10	試験前自己学習時間						7/11	試験前自己学習時間														
31	7/14	試験前自己学習時間			試験前自己学習時間			7/15	第3ブロック試験						7/16	第3ブロック試験						7/17	第3ブロック試験						7/18	試験前自己学習時間														
32	7/21	海の日			試験前自己学習時間			7/22	試験前自己学習時間						7/23	第3ブロック試験						7/24	第3ブロック試験						7/25	第3ブロック試験														
夏季休暇（7月26日～8月24日）																																												
33	8/25	共用試験説明会（予定）			8/26	自己学習時間			8/27	CBT						8/28	CBT						8/29	自己学習時間																				
34	9/1	臨床手技実習1			9/2	臨床手技実習2			9/3	臨床手技実習3						9/4	臨床手技実習4						9/5	臨床手技実習5																				
35	9/8	臨床手技実習6			9/9	臨床手技実習7			9/10	臨床手技実習8						9/11	第3ブロック追再試験						9/12	自己学習時間						9/13, 14	臨床実習前OSCE													
36	9/15	敬老の日			9/16	実践的医療倫理Ⅰ1			9/17	実践的医療倫理Ⅰ2						9/18	第3ブロック追再試験						9/19	第3ブロック追再試験																				
37	9/22	病理学実習1			病理学実習2			9/23	秋分の日						9/24	病理学実習3			病理学実習4			9/25	病理学実習5			病理学実習6			9/26	病理学実習7			病理学実習8											
38	社会フィールド系実習（衛生学・公衆衛生学Ⅱ）（9月29日～10月3日）																																											
39	社会フィールド系実習（法医学）（10月6日～10月10日）																																											
40	10/13	スポーツの日			10/14	CBT再試験						10/15	自己学習時間						10/16	自己学習時間						10/17	自己学習時間						10/18, 19	臨床実習前OSCE予備日										
41	10/20	臨床実習前OSCE再試験			10/21	自己学習時間						10/22	自己学習時間						10/23	社会フィールド系実習 報告会 （衛生学・公衆衛生学Ⅱ）						10/24	大学祭																	
42	10/27	自己学習時間			10/28	自己学習時間						10/29	自己学習時間						10/30	自己学習時間						10/31	自己学習時間																	
43	11/3	文化の日			11/4	自己学習時間						11/5	自己学習時間						11/6	自己学習時間						11/7	自己学習時間																	
進級判定期間（11月10日～11月28日）																																												
12/1	臨床実習前研修（予定）			12/2	白衣授与式（予定）						12/3	臨床実習前研修（予定）						12/4	臨床実習前研修（予定）						12/5	臨床実習前研修（予定）																		

※「自己学習時間」は、休講の補講や事前学習等に充てられる時間帯であり、休講日ではない。

1限目	9:00 ~ 10:00
2限目	10:10 ~ 11:10
3限目	11:20 ~ 12:20
4限目	13:10 ~ 14:10
5限目	14:20 ~ 15:20
6限目	15:30 ~ 16:30

第2ブロックの時間割

週	月				火				水				木				金																		
	日	AM	PM		日	AM	PM		日	AM	PM		日	AM	PM	日	AM	PM																	
9	1/27												1/30	試験前自己学習時間	自己学習時間	悪性脳腫瘍(脳外)	神経因性膀胱(泌尿器)	1/31	移植免疫Ⅰ(免疫)	移植免疫Ⅱ(免疫)	【反転】心移植：概念、適応と術式(胸外)	推薦入学試験準備													
9	2/3	脊椎脊髄疾患(脳外)	機能的脳外科(脳外)	頭部外傷(脳外)	耳鼻咽喉科総論とめまい救急トリアージ(耳鼻)	耳鼻咽喉科から見ためまいの検査と治療(耳鼻)	耳鼻咽喉科と音声言語医学(耳鼻)	2/4	骨軟部腫瘍(整形)	整形外科概論(整形)	整形外科診断学(整形)	解剖、発生・視機能検査(眼科)	斜視弱視、屈折矯正、ロービジョン7(眼科)	外眼筋疾患、眼窩疾患、眼外傷(眼科)	2/5	精神医学の症候学と診断学(精神)	うつ病と双極症(精神)	統合失調症とその他の精神病的障害(精神)	パーソナリティ障害/強迫症(精神)	認知行動療法(精神)	脳と精神症状(精神)	2/6	AA, AIHA, PNH(血内)	感染症と血液疾患(血内)	血液疾患でみられる症候(血内)	授業評価アンケート	皮膚の構造と発疹の見方(皮膚)	自己免疫性水疱症(皮膚)	2/7	脳幹障害と脳神経障害(脳内)	上肢Ⅰ(整形)	上肢Ⅱ(整形)	動脈瘤とくも膜下出血(脳外)	脳出血(脳外)	その他の脳血管障害Ⅰ(脳外)
10	2/10	造血システムと血液疾患の検査総論(血内)	血液疾患の検査各論(血内)	小児の血液疾患(小児)	【反転】リビ・リネン医学と運動器・骨系統疾患(整形)	【反転】足関節疾患(整形)	小児整形(整形)	2/11	建国記念日				2/12	運動ニューロン疾患(脳内)	大脳と高次脳機能(脳内)	自己学習時間	出血性疾患(小児)	血栓性疾患(小児)	血液型(輸血)	2/13	膠原病アレルギー総論(腎内)	耳鼻咽喉科のアレルギー疾患(耳鼻)	膠原病の皮膚病変(皮膚)	整形外科領域における各種移植術の基礎と臨床(整形外科)	多能性幹細胞と組織幹細胞の生物学(発生)	肺移植：概念、適応と術式(胸外)	2/14	網膜疾患Ⅰ(眼科)	網膜疾患Ⅱ(眼科)	緑内障(眼科)	非上皮系腫瘍、血液疾患の皮膚病変(皮膚)	尋麻疹、内臓疾患と皮膚病変(皮膚)	紫外線と皮膚(皮膚)		
11	2/17	関節リウマチと類似疾患の診断と治療Ⅰ(整形)	関節リウマチと類似疾患の診断と治療Ⅱ(整形)	【反転】膠原病の腎病変(腎内)	輸血療法(血内)	貧血の分類、IDA、腎性貧血、二次性貧血(血内)	MDS、ビタミンB12欠乏性貧血(血内)	2/18	聴覚生理と検査法(耳鼻)	難聴疾患とその治療(耳鼻)	口腔・咽頭・唾液腺疾患、顔面神経麻痺(耳鼻)	皮膚移植：概念、適応と術式(整形)	皮膚及び外表面異常における形成再建外科：概論(整形)	自己学習時間	2/19	トラウマ関連障害(精神)	てんかんと精神医学(精神)	リエゾン精神医学(精神)	失語・失読・失行(精神)	認知症と老年期精神医学(精神)	不安症、解離症および身体症状(精神)	2/20	前眼部疾患Ⅰ(眼科)	前眼部疾患Ⅱ(眼科)	眼科再生医療(眼科)	自己学習時間	2/21	前期入学試験準備							
12	2/24	振替休日				2/25	前期入学試験				2/26	前期入学試験				2/27	パーキンソン病(脳内)	頭痛・神経系感染症(脳内)	筋疾患(脳内)	病理学的検査(リンパ節、骨髄)(病診)	リンパ腫総論(病診)	自己学習時間	2/28	股関節疾患(整形)	関節リウマチ(整形)	骨髄炎、骨腫瘍(整形)	薬疹(皮膚)	膠原病の肺病変(呼吸)	自己学習時間						
13	3/3	DIC(血内)	TTP, HUS, APS(血内)	慢性白血病(血内)	角化症・炎症性角化症(皮膚)	湿疹群(皮膚)	上皮系腫瘍(皮膚)	3/4	末梢神経障害(脳内)	神経筋接合部疾患(脳内)	認知症疾患・神経疾患の「リビ」リネン治療(脳内)	伝音難聴と中耳炎(耳鼻)	平衡生理とめまい(耳鼻)	鼻・副鼻腔疾患(耳鼻)	3/5	知的・発達障害と児童精神医学(精神)	摂食障害(精神)	物質関連障害および嗜癖性障害(精神)	法と精神医学(精神)	精神科リハビリテーション(精神)	器質性・症状性精神病(精神)	3/6	自己学習時間	【反転】皮膚疾患まとめ(皮膚)	皮膚科診断学(皮膚)	神経眼科(眼科)	【反転】水晶体、白内障(眼科)	自己学習時間	3/7	腎臓移植：概念、適応と術式(透析)	臓器移植と社会システム(透析)	整形外科領域における再生医療の基礎と臨床(リハ)	脈絡膜、ぶどう膜炎・全身疾患と眼(眼科)	遺伝性眼疾患(眼科)	【反転】まとめ講義(眼科)
14	3/10	てんかんの外科(脳外)	小児脳神経外科(脳外)	水頭症と三叉神経痛(脳外)	感染症治療と予防(感内)	止血機序(輸血)	ITP(輸血)	3/11	後期入学試験準備				3/12	後期入学試験				3/13	後期入学試験				3/14	【追再試験】											
15	3/17	小児疾患	【追再試験】		腎疾患・尿路系疾患	画像診断・IVR		3/18	口腔疾患における移植・再生Ⅰ(口外)	口腔疾患における移植・再生Ⅱ(口外)	小児の造血幹細胞移植(小児)	若年性特発性関節炎(小児)	膠原病と神経症状(脳内)	授業評価アンケート	3/19	生物学的性とジェンダー、性別違和(精神)	薬物療法とニューロモジュレーション(精神)	【反転】自殺予防(精神)	睡眠-覚醒障害(精神)	災害精神医学/産業精神保健(精神)	予防精神医学(精神)	3/20	春分の日				3/21	急性白血病(血内)	MM, WM/LPL(血内)	血栓性疾患(小児)	脳血管内治療(脳外)	脳神経内科概論①(脳内)	脳神経内科概論②(脳内)		
-	春季休暇(3月22日～3月31日)																																		
16	3/31							4/1	脱髄疾患(脳内)	脊髄・脊髄疾患Ⅰ(整形)	脊髄・脊髄疾患Ⅱ(整形)	頭頸部腫瘍総論(耳鼻)	耳下腺・上顎・口腔腫瘍(耳鼻)	咽頭・喉頭腫瘍(耳鼻)	4/2	良性脳腫瘍(脳外)	【反転】神経疾患(脳外)	脳腫瘍の病理(脳外)	行動科学ⅡⅠ(精神)	行動科学ⅡⅡ(精神)	行動科学ⅡⅢ(精神)	4/3	自己学習時間	漢方医学基礎Ⅰ(漢方セン)	漢方医学応用Ⅰ(耳鼻)	漢方医学応用Ⅱ(耳鼻)	漢方医学発展Ⅰ(産婦)	漢方医学発展Ⅱ(麻酔)	4/4	行動科学ⅡⅣ(開発セン)	行動科学ⅡⅤ(開発セン)	行動科学ⅡⅥ(開発セン)	行動科学ⅡⅦ(開発セン)	行動科学ⅡⅧ(開発セン)	行動科学ⅡⅨ(開発セン)
17	4/7	入学式(予定)		漢方医学発展Ⅲ(泌尿器)	自己学習時間	頭頸部の画像診断(放射)	4/8	末梢神経(整形)	膝関節・スポーツ傷害疾患(整形)	人工関節の現況(整形)	不随意運動(脳内)	その他の脳血管障害②(脳外)	その他の脳腫瘍(脳外)	4/9	造血幹細胞移植の臨床(血内)	肝移植、小腸移植、膵島移植：概念、適応と術式(消化)	角膜移植、人工角膜など(眼科)	リンパ腫各論(血内)	骨髄増殖性腫瘍(血内)	自己学習時間	4/10	脊髄小脳変性症・遺伝性疾患(脳内)	脳血管障害①(脳内)	脳血管障害②(脳内)	甲状腺疾患(耳鼻)	【反転】漢方医学GW(漢方セン)	授業評価アンケート	4/11	試験前自己学習時間						
18	4/14	試験前自己学習時間				4/15	試験前自己学習時間				4/16	【本試験】				4/17	【本試験】				4/18	【本試験】													
19	4/21	試験前自己学習時間				4/22	試験前自己学習時間				4/23	【本試験】				4/24	【本試験】				4/25	試験後自己学習時間													

- | | | | |
|-------------|------|---------|---------|
| 膠原病・アレルギー疾患 | 血液疾患 | 神経疾患 | 移植・再生医学 |
| 運動器疾患 | 眼疾患 | 精神・行動疾患 | 皮膚疾患 |
| 耳鼻咽喉疾患 | 東洋医学 | 行動科学Ⅱ | |

自己学習時間： 休講の補講や事前学習等に充てられる時間帯であり、休講日ではない

1限目	9:00 ~ 10:00
2限目	10:10 ~ 11:10
3限目	11:20 ~ 12:20
4限目	13:10 ~ 14:10
5限目	14:20 ~ 15:20
6限目	15:30 ~ 16:30

第3ブロックの時間割

週	月					火					水					木					金															
	日	AM		PM		日	AM		PM			日	AM		PM			日	AM		PM															
20	4/28	悪性腫瘍の診断から治療までの戦略と集学的治療(放腫)	癌の外科学治療の原則(消外)	抗腫瘍薬の分類と概要(薬理)	法医学総論(法医)	早期死体現象(法医)	後期死体現象(法医)	昭和の日					4/30	HIV感染症/AIDS(感内)	消化器・腹腔内感染症(病原性)	ワクチン(感内)	救急医学総論(救急)	急性中毒および環境障害(救急)	急性腹痛(救急)	5/1	女性生殖器の発生、形態、機能、生殖器の先天異常(産婦)	性器脱、更年期障害、骨粗鬆症、婦人科感染症(産婦)	婦人疾患の画像診断 MRIを中心に(放射)	総合診療総論I(総診)	医療面接(総診)	身体診察(総診)	5/2	損傷(純器)(法医)	損傷(純器)(法医)	損傷(純器)(法医)	窒息(絞頸)(法医)	窒息(絞頸)(法医)	窒息(溺死その他)(法医)			
21	5/5	こどもの日					5/6	振替休日					5/7	社会と医療・衛生行政(公衆衛生)	公衆衛生概論、人口動態統計(公衆衛生)	シミュレーション講義(公衆衛生)	薬物療法原則・適用と支持療法(産内)	癌の緩和医療(緩和)	微小環境における腫瘍・宿主相互作用(分病)	5/8	新生児学(NICU)	低出生体重児の特徴(NICU)	胎児超音波診断、妊娠と薬(産婦)	四肢外傷(整形)	循環器不全の病態と治療(胸外)	頭部外傷(脳外)	5/9	歯・口腔の構造・う蝕・歯周病(口腔)	口腔疾患の病理(腫瘍・非腫瘍)(口腔)	唾液腺疾患の病理(産婦)	内分泌学総論(産内)	糖尿病の概念と病型分類・診断(産内)	成長障害、成長ホルモン分泌不全性低身長症(小児)			
22	5/12	嬰兒殺(法医)	児童虐待(法医)	乳幼児突然死症候群(法医)	卵巣機能障害、月経異常、産婦人科漢方医学(産婦)	子宮筋腫・子宮内膜症・子宮内腫瘍(産婦)	不妊症・不育症(産婦)	5/13	中枢神経系感染症・頭頸部感染症(感内)	微生物概論と感染症検査(微生物)	寄生虫疾患(感内)	福祉政策と医療・在宅医療、へき地医療、災害医療(公衆衛生)	精神保健福祉、麻薬・向精神薬(公衆衛生)	医療保険制度(公衆衛生)	5/14	心臓停止(救急)	症候・緊急度判定(救急)	集中治療医学総論(集中治療)	患者中心の医療(総診)	【反転】臨床推論(総診)	自己学習時間	5/15	口腔疾患と全身疾患のかかり(口腔)	唾液腺疾患(口腔)	【反転】顎発育と異常(口腔)	自己学習時間			5/16	視床下部・下垂体(産内)	下垂体前葉疾患(産内)	Ca代謝異常、副甲狀腺疾患(産内)	子宮頸部上皮形成と子宮頸癌(産婦)	子宮内腫瘍増殖症と子宮体癌(産婦)	卵巣腫瘍(産婦)	
23	5/19	感染症対策(公衆衛生)	保健医療政策(公衆衛生)	医療行政と地域医療・病院経営(地域での公立病院の立場から)(公衆衛生)	臨床腫瘍学における病理診断学の役割(病診)	免疫学的腫瘍制御理論と免疫療法(免疫)	放射線治療の原則・適用、放射線の生体への影響・障害(放腫)	5/20	顎関節症・薬剤関連顎関節死(口腔)	歯牙外傷・顎顔面外傷(口腔)	【反転】口腔の先天異常(口腔)	下垂体後葉疾患、SIADH(産内)	糖尿病の治療(産内)	肥満とメタボリックシンドローム、痛風(産内)	5/21	焼死(法医)	凍死・感電死(法医)	内因性死(法医)	抗菌薬化学療法総論(薬理)	小児感染症(小児)	呼吸器感染症(免疫)	5/22	癌の増殖と転移機転(消外)	放射線治療における放射線物理学と治療機器(放腫)	がん検診の意義(中診)	家族志向のケア/EBM(総診)	地域医療・家庭医療(総診)	自己学習時間	5/23	腎不全肝不全の急性期管理(集中治療)	呼吸不全の急性期管理(集中治療)	中枢神経(救急)	総合診療総論2(病院総合診療)(総診)	地域志向のケア(総診)	介護保険・医療制度・プロフェッショナルリズム(総診)	
24	5/26	薬剤耐性菌総論(微生物)	【反転】感染管理(感内)	皮膚軟部組織・骨関節感染症(感内)	性周期と女性生殖内分泌(産婦)	妊娠の成立と維持・妊娠時の母体の変化(産婦)	胎児胎盤ユニット・分娩の三要素(産婦)	5/27	産婦人科領域の病理診断学(病診)	産婦人科領域の病理診断学(病診)	【反転】婦人疾患の現状と展開(産内)	自己学習時間			5/28	口腔潜在的悪性疾患と悪性腫瘍(口腔)	口腔顎顔面再建(口腔)	歯原性腫瘍・歯原性嚢胞(口腔)	自己学習時間			5/29	脂質異常症の診断と治療(産内)	糖尿病と低血糖(小児)	糖尿病性腎症(腎内)	自己学習時間	産婦人科各論(治療全般～放射線治療)：乳癌、皮膚癌(放腫)	産婦人科各論(治療全般～放射線治療)：乳癌、皮膚癌(放腫)	新生児仮死と成熟児の呼吸障害(NICU)	感染・血液疾患(NICU)	産科感染症、母体保護法(産婦)	産業保健(疫学)	産業医(公衆衛生)			
25	6/2	【追再試験】					6/3	【追再試験】					6/4	【追再試験】					6/5	医の倫理、倫理審査委員会(公衆衛生)	医師と患者関係・末期患者への対応(公衆衛生)	国際保健、国際疾病分類と様々な分類(公衆衛生)	産婦人科各論(治療全般～放射線治療)：婦人科、泌尿器(放腫)	化学療法、免疫療法の現状と併用療法(呼内)	【反転】産科全般的～放射線治療(産婦)	【反転】在宅医療と他職種連携(在宅)	【反転】在宅医療と地域医療(在宅)	6/6	骨盤骨折(救急)	外傷学総論(救急)	腹部外傷(救急)	感染症概論(感内)	職業感染、ウイルス感染症(感内)	新興再興感染症、新型コロナウイルス感染症(感内)		
26	6/9	交通外傷(法医)	医事法学(法医)	物体検査(法医)	摂食と嚥下機能(口腔)	口腔疾患まとめ講義(口腔)	自己学習時間	6/10	糖尿病性網膜症(眼科)	副腎1(産内)	副腎2(産内)	正常分娩の機序(産婦)	妊娠初期の異常(産婦)	胎児機能不全、胎児発育遅延、胎児胎盤機能診断法(産婦)	6/11	腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：肺、縦隔(放腫)	サイコオンコロジ(精神)	自己学習時間	小児保健(母子保健・学校保健)(公衆衛生)	実習オリエンテーション(公衆衛生)	6/12	菌血症・敗血症(感内)	性器・尿路感染症(前立腺小線源)	授業評価アンケート	【反転】在宅医療と他職種連携(在宅)	【反転】在宅医療と他職種連携(在宅)	【反転】在宅医療と地域医療(在宅)	6/13	自己学習時間			男性性腺機能低下症(産内)	糖尿病と妊娠(産婦)	重金属代謝異常(消内)		
27	6/16	全身麻酔薬、麻酔鎮痛薬(薬理)	全身麻酔薬、麻酔鎮痛薬(薬理)	局所麻酔薬、筋弛緩薬(薬理)	腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：骨軟部、緩和(放腫)	がんの危険因子と予防(疫学)	自己学習時間	6/17	奈良果の衛生行政(公衆衛生)	医療経営(公衆衛生)	介護保険と地域包括ケアシステム(公衆衛生)	自己学習時間			6/18	麻酔について(麻酔)	伝達麻酔(麻酔)	気道管理(麻酔)	頭部損傷(法医)	中毒(法医)	高齢者虐待(法医)	6/19	自己学習時間	甲状腺機能亢進症(産内)	甲状腺機能低下症(産内)	脊椎外傷(救急)	自己学習時間	術前患者管理(麻酔)	血管確保と安全管理(麻酔)	周術期合併症(麻酔)	自己学習時間					
28	6/23	前置胎盤、常位胎盤早期剥離(産婦)	分娩時期の異常、前期破水、羊水量の異常(産婦)	多胎妊娠、ハイリスカ、妊娠高血圧症候群(産婦)	保健・医療の資源(公衆衛生)	高齢者保健、生活習慣病(公衆衛生)	食品保健、国民栄養(公衆衛生)	6/24	糖尿病性神経症(産内)	脂質異常症と動脈硬化(産内)	内分泌疾患の病理(病診)	小児麻酔・産科麻酔(麻酔)	神経麻酔(麻酔)	心臓血管手術の麻酔(麻酔)	6/25	【反転授業】検案書の書き方(法医)			広範囲熱傷(救急)	自己学習時間	胸部外傷(救急)	6/26	痛みとベインクリニック(麻酔)	心臓蘇生法(法医)	術中モニタリング(麻酔)	在宅医療に携わる在宅医療(在宅)	家族の立場からの在宅医療(在宅)	訪問看護士の立場からの在宅医療(在宅)	6/27	自己学習時間	NET、MEN、APS(産内)	未知の病態に遭遇した時の考え方(産内)	胎位・胎勢の異常、娩出力の異常、常位、遅延分娩、分娩停止(産婦)	産科出血、産道損傷、産科手術学(産婦)	自己学習時間	
29	6/30	自己学習時間			術後疼痛管理(麻酔)	集中治療と急変対応(麻酔)	自己学習時間	7/1	産褥期、出生前診断(産婦)	【反転】産褥期まとめ(産婦)	自己学習時間	腫瘍マーカー(中診)	癌治療におけるIVR(放射)	【反転】局所進行期悪性腫瘍の鑑別、病期診断、治療、有害事象(放腫)	7/2	環境保健(公衆衛生)	【反転授業】まとめ講義(公衆衛生)			自己学習時間			7/3	自己学習時間					7/4	自己学習時間						
30	7/7	自己学習時間			自己学習時間	腫瘍学各論～放射線治療(放腫)：頭頸部、消化管(医情)	授業評価アンケート	自己学習時間					7/8	自己学習時間					7/9	自己学習時間					7/10	試験前自己学習時間					7/11	試験前自己学習時間				
31	7/14	試験前自己学習時間					7/15	【本試験】					7/16	【本試験】					7/17	【本試験】					7/18	試験前自己学習時間										
32	7/21	海の日					7/22	試験前自己学習時間					7/23	【本試験】					7/24	【本試験】					7/25	【本試験】										

- 感染症
- 婦人疾患
- 総合診療

- 内分泌代謝栄養疾患
- 臨床腫瘍学・放射線治療学
- 在宅医療学

- 口腔疾患
- 麻酔・疼痛管理
- 衛生学・公衆衛生学Ⅱ

- 周産期医学
- 外傷・救急医学
- 法医学

1限目	9:00 ~ 10:00
2限目	10:10 ~ 11:10
3限目	11:20 ~ 12:20
4限目	13:10 ~ 14:10
5限目	14:20 ~ 15:20
6限目	15:30 ~ 16:30

自己学習時間： 休講の補講や事前学習等に充てられる時間帯であり、休講日ではない

第4ブロックの時間割

週	月			火			水			木			金		
	日	AM	PM	日	AM	PM	日	AM	PM	日	AM	PM	日	AM	PM
33	8/25	共用試験説明会（予定）		8/26	自己学習時間		8/27	CBT		8/28	CBT		8/29	自己学習時間	
34	9/1	臨床手技実習1		9/2	臨床手技実習2		9/3	臨床手技実習3		9/4	臨床手技実習4		9/5	臨床手技実習5	
35	9/8	臨床手技実習6		9/9	臨床手技実習7		9/10	臨床手技実習8		9/11	【追再試験】 感染症		9/12	自己学習時間	
36	9/15	敬老の日		9/16	実践的医療倫理 I 1		9/17	実践的医療倫理 I 2		9/18	【追再試験】 婦人疾患		9/19	【追再試験】 総合診療・在宅医療学	
37	9/22	病理学実習1	病理学実習2	9/23	秋分の日		9/24	病理学実習3	病理学実習4	9/25	病理学実習5	病理学実習6	9/26	病理学実習7	病理学実習8
38	社会フィールド系実習（衛生学・公衆衛生学Ⅱ）（9月29日～10月3日）														
39	社会フィールド系実習（法医学）（10月6日～10月10日）														
40	10/13	スポーツの日		10/14	CBT再試験		10/15	自己学習時間		10/16	自己学習時間		10/17	自己学習時間	
41	10/20	臨床実習前OSCE再試験		10/21	自己学習時間		10/22	自己学習時間		10/23	社会フィールド系実習 報告会 （衛生学・公衆衛生学Ⅱ）		10/24	大学祭	
42	10/27	自己学習時間		10/28	自己学習時間		10/29	自己学習時間		10/30	自己学習時間		10/31	自己学習時間	
43	11/3	文化の日		11/4	自己学習時間		11/5	自己学習時間		11/6	自己学習時間		11/7	自己学習時間	
-	進級判定期間（11月10日～11月28日）														
-	12/1	臨床実習前研修（予定）		12/2	白衣授与式（予定）		12/3	臨床実習前研修（予定）		12/4	臨床実習前研修（予定）		12/5	臨床実習前研修（予定）	

9/13, 14
臨床実習前OSCE

10/18, 19
臨床実習前OSCE予備日

※「自己学習時間」は、休講の補講や事前学習等に充てられる時間帯であり、休講日ではない。
 ※臨床実習前OSCEが予備日（令和7年10月18日～19日）で実施された場合、再試験は11月10日以降で実施する。

1限目	9:00 ~ 10:00
2限目	10:10 ~ 11:10
3限目	11:20 ~ 12:20
4限目	13:10 ~ 14:10
5限目	14:20 ~ 15:20
6限目	15:30 ~ 16:30

令和7年度 臨床医学Ⅰ 反転授業 一覧

ブロック	実施日	時限	科目名	講義タイトル	担当教員
1	12月18日	6	小児疾患	小児の内分泌疾患	長谷川 真理
	1月8日	4-5	画像診断・IVR	CT診断	山内 哲司
	1月9日	4-5	画像診断・IVR	MRI診断	越智 朋子
	1月14日	5	消化管・乳腺疾患	食道癌の診断と治療	若月 幸平
	1月15日	1	循環器疾患	腫瘍循環器学	中川 仁
	1月16日	6	呼吸器疾患	呼吸器疾患のまとめ	室 繁郎
2	1月31日	3	移植・再生医学	心移植：概念、適応と術式	福場 遼平
	2月10日	5	運動器疾患	足関節疾患	谷口 晃
	2月17日	3	膠原病・アレルギー疾患	膠原病と腎臓	鮫島 謙一
	3月6日	2	皮膚疾患	皮膚疾患まとめ	濱田 健吾
	3月6日	5	眼疾患	水晶体、白内障	西 智
	3月7日	6	眼疾患	まとめ講義	上田 哲生
	3月19日	3	精神疾患	自殺予防	池原 実伸
	4月2日	2	神経疾患	脳神経外科全般まとめ	山田 修一
4月10日	5	東洋医学	漢方医学 グループワーク	三谷和男 若月幸平	
3	5月14日	5	総合医療学	臨床推論	矢田 憲孝
	5月15日	3	口腔疾患	顎発育と異常	川上 正良
	5月20日	3	口腔疾患	口腔の先天異常	山川 延宏
	5月26日	2	感染症	感染管理	今北 菜津子
	5月27日	3	婦人疾患	婦人疾患のまとめ	岩井 加奈
	6月5日	6	臨床腫瘍学・放射線治療学	進行期悪性腫瘍の鑑別、病期診断、治療、有害事象	武田 真幸
	6月12日	4-6	在宅医療学	在宅医療学	吉本 清巳
	6月25日	1-3	法医学	死体検案書の書き方	粕田 承吾
	7月1日	2	周産期医学	周産期のまとめ	市川 麻祐子
	7月1日	6	臨床腫瘍学・放射線治療学	局所進行期悪性腫瘍の鑑別、病期診断、治療、有害事象	磯橋 文明
7月2日	2-3	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	まとめ講義	野田 龍也	
4	9月22～26日	—	病理学実習	病理解剖症例を用いた統合実習	吉澤 明彦

令和7年度 臨床医学 I（専門教育授業科目） 出席確認方法 一覧

以下の方法で科目ごとに出席確認を行う。

なお、定期試験の受験資格要件は、「各科目の授業時間数の3分の2以上出席」であるため、注意すること。

※ EarlyBird使用の有無	1	EarlyBirdのみ使用する
	2	EarlyBirdと他の方法を併用する
	3	EarlyBirdは使用しない

ブロック	授業科目	※	EarlyBird以外の出席確認方法
1	循環器疾患	1	
	肝・胆・膵疾患	1	
	呼吸器疾患	2	随時指名して、質疑応答
	消化管・乳腺疾患	1	
	小児疾患	1	
	腎疾患・尿路系疾患	1	
	画像診断・IVR	2	講義中または講義終了時に小テストを行う。（紙またはweb）
2	膠原病・アレルギー疾患	1	
	血液疾患	1	
	神経疾患	1	
	移植・再生医学	1	
	運動器疾患	1	
	眼疾患	1	
	精神・行動疾患	1	
	皮膚疾患	1	
	耳鼻咽喉疾患	1	
	東洋医学	2	予め座席を指定し、その座席に着席しているか確認する。講義ごとに小テストを行う。
3	感染症	2	2025年5月26日（月）2時限目 感染管理（反転授業）で小テストを行う。
	内分泌代謝栄養疾患	1	
	口腔疾患	1	
	周産期医学	1	
	婦人疾患	1	
	臨床腫瘍学・放射線治療学	1	
	麻酔・疼痛管理	1	
	外傷・救急医学	1	
	総合診療	1	
	在宅医療学	1	
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	2	ランダムに出席カードを配布して出席確認する。
	法医学	1	
4	病理学実習	2	レポート（スケッチなど）提出

令和7年度 臨床医学 I 試験日程

ブ ロ ッ ク	科目名	担当講座(部門)	本試験日程		再試験日程	
			日	時限	日	時限
1	循環器疾患	循環器内科学	1月22日(水)	2	3月14日(金)	1
	呼吸器疾患	呼吸器内科学	1月22日(水)	4	3月14日(金)	3
	肝・胆・膵疾患	消化器内科学	1月23日(木)	2	3月14日(金)	4
	消化管・乳腺疾患	消化器・総合外科学	1月23日(木)	4	3月14日(金)	6
	小児疾患	小児科学	1月28日(火)	2	3月17日(月)	1
	腎疾患・尿路系疾患	泌尿器科学	1月28日(火)	4	3月17日(月)	3
	画像診断・IVR	放射線診断・IVR学	1月29日(水)	2	3月17日(月)	4
2	膠原病・アレルギー疾患	腎臓内科学	4月16日(水)	2	6月2日(月)	1
	血液疾患	血液内科学	4月16日(水)	4	6月4日(水)	4
	神経疾患	脳神経内科学/脳神経外科学	4月17日(木)	2	6月2日(月)	4
	移植・再生医学	胸部・心臓血管外科学	4月17日(木)	4	6月2日(月)	6
	運動器疾患	整形外科	4月18日(金)	2	6月3日(火)	1
	眼疾患	眼科学	4月18日(金)	4	6月3日(火)	3
	精神・行動疾患	精神医学	4月23日(水)	2	6月3日(火)	4
	皮膚疾患	皮膚科学	4月23日(水)	4	6月3日(火)	6
	耳鼻咽喉疾患	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	4月24日(木)	2	6月4日(水)	1
	東洋医学	教育開発センター	4月24日(木)	4	6月4日(水)	3
3	感染症	感染症内科学	7月15日(火)	2	9月11日(木)	1
	内分泌代謝栄養疾患	糖尿病・内分泌内科学	7月25日(金)	4	9月19日(金)	6
	口腔疾患	口腔外科学	7月16日(水)	2	9月11日(木)	4
	周産期医学	産婦人科学	7月16日(水)	4	9月11日(木)	6
	婦人疾患	産婦人科学	7月17日(木)	2	9月18日(木)	1
	臨床腫瘍学・放射線治療学	放射線腫瘍医学	7月17日(木)	4	9月18日(木)	3
	麻酔・疼痛管理	麻酔科学	7月23日(水)	2	9月18日(木)	4
	外傷・救急医学	救急医学	7月23日(水)	4	9月18日(木)	6
	総合診療・在宅医療学	総合医療学	7月24日(木)	2	9月19日(金)	1
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学	7月24日(木)	4	9月19日(金)	3
	法医学	法医学	7月25日(金)	2	9月19日(金)	4

試験に関する諸注意

1 試験の注意事項

- ① 学生証不携帯の場合は、受験不可のため、教育支援課で仮学生証の発行を受けること。
- ② 携帯電話、スマートフォン、タブレット、アップルウォッチ等の電子通信機器の使用は禁止のため、電源を切りカバンの中へ入れること。試験中にこれらの機器の音声やアラームが聞こえた場合、カバンの中に入っているも不正行為とみなす。
- ③ 机の上には、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴムなど）、時刻表示機能のみの時計、メガネ、学生証、特別に持込を許可された物以外は置かないこと。
- ④ その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んではいけません。
- ⑤ 試験中に質問がある場合は挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
- ⑥ 試験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑦ 次の場合、当該試験は無効とする。
 - ・ 答案を提出しない場合
 - ・ 学籍番号・氏名等の記入がない場合
 - ・ 試験監督者の指示に従わない場合
- ⑧ やむを得ず欠席する場合は、試験開始までに教育支援課に連絡を入れること。無断欠席した場合は、追再試験の受験資格を失う。

2 遅刻・退室等について

- ① 試験開始後、入室限度時刻を超過した遅刻者は受験できない。
※遅刻し、かつ、学生証を忘れた場合は、仮学生証の発行を終えて試験室へ入室した時間が入室限度時間内かどうかで受験の可否が判断される。
- ② 公共交通機関の遅延で遅刻した学生については、別途協議のうえ対応する。
- ③ 試験開始後、入室限度時刻までは退出できない。
- ④ 一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤ 体調不良・トイレ等で一時退室した場合、試験時間の延長は行わない。

3 不正行為について

- (1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。
 - ア 書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
 - イ 他人の答案をのぞき見たり、答案を見せ合うこと。
 - ウ 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
 - エ 机などに解答に役立つメモ等を残すこと。
 - オ その他、前記行為に類する行為
- (2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。
- (3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

4 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

授業科目紹介

(臨床医学Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
彦惣 俊吾			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：循環器内科学 関連担当講座：胸部・心臓血管外科学、小児科学、先天性心疾患センター、放射線診断・IVR学、薬理学
概要	1) 循環器疾患の病態を理解するために、必要な検査(身体所見、心電図、心エコー図)を理解すると共に、心臓・血管の発生解剖、病理、生理を理解する。 2) 各循環器疾患の成因の理解と、診断法、治療法(内科的、外科的)を理解し、ベッドサイド学習における必要な医療能力を修得する。 3) 循環器疾患治療薬の原理、作用を理解する。
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 □循環器疾患の解剖、病態生理を理解できる。 □循環器疾患の検査法、診断法、治療法を理解し説明することができる。 □循環器疾患の治療薬についてその薬理学を理解し説明することができる。 III 医療の実践 患者の病歴、主訴、身体所見から診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 循環器内科における多職種チームの役割を理解し、説明することができる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 循環器疾患に影響を及ぼす生活習慣病の予防や健康増進について説明することができる。 VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドをもち、基礎・臨床・社会的な視点から循環器疾患に対して望まれる研究を理解し説明することができる。
評価方法	定期試験(90%) ≪ II、III、IV、V、VI ≫ 受講態度(10%) ≪ I ≫ 《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載
授業計画	【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 令和 6年12月5日(木) 1時限目 心エコー図 (循環器内科学：中田康紀先生) 【D-5-2)-②】 2時限目 心電図 (循環器内科学：中田康紀先生) 【D-5-1)-③, D-5-2)-①, D-5-2)-③】 3時限目 心機能の基礎と心不全の病態 (循環器内科学：彦惣俊吾先生) 【D-5-4)-①(1)-①, D-5-1)-①②③⑪, D-5-3)-②⑨⑩, D-5-4)-①(1)-②, D-5-4)-①(1)-③, D-5-4)-①(1)-④, D-5-4)-①(1)-⑤】 令和 6年12月11日(水) 1時限目 心筋梗塞 (循環器内科学：上田友哉先生) 【D-5-4)-②(3)④⑥】 2時限目 先天性心疾患 (小児科：辻井信之先生) 【D-5-1)-①, D-5-1)-⑤, D-5-2)-⑥, D-5-3)-④, D-5-4)-⑥(1)-①】 3時限目 先天性心疾患の外科治療 (先天性心疾患センター：山岸正明先生) 【D-5-3)-④, D-5-3)-⑤, D-5-4)-①(1)-②, D-5-4)-⑥(1)-①】 令和 6年12月17日(火) 1時限目 心筋症 (循環器内科学：尾上健児先生) 【D-5-1)-②, D-5-2)-②④⑤⑥, D-5-3)-②④⑥⑨⑪⑫, D-5-4)-⑤(1)-①②⑦】 2時限目 弁膜症 (循環器内科学：渡邊真言先生) 【D-5-4)-④(1)-①】 3時限目 虚血性心疾患の非薬物治療 (循環器内科学：渡邊真言先生) 【D-5-4)-②(6)-①】 令和 6年12月20日(金) 1時限目 虚血性心疾患の外科的治療 (胸部・心臓血管外科学：細野光治先生) 【D-5-1)-①, D-5-2)-⑤, D-5-3)-⑤⑪⑫, D-5-4)-②(1)-①②③④⑤⑥, F-1-5)-①, F-1-15)-①, F-1-16)-①, F-2-9)-①(1)-⑥】 2時限目 弁膜症・心臓腫瘍の外科的治療 (胸部・心臓血管外科学：細野光治先生) 【D-5-4)-④(1)-①, ⑤(7)-⑦】 令和 6年12月24日(火) 4時限目 全身病と心臓 (循環器内科学：尾上健児先生) 【D-5-1)-②, D-5-2)-②④⑤⑥, D-5-3)-②④⑥⑨⑪⑫, D-5-4)-⑤(1)-①②⑦】

	<p>5時限目 不整脈（1） (循環器内科学：西田 卓先生) 【D-5-1)-③, D-5-3)-⑥⑧⑬⑭, D-5-4)-①⑤⑥】</p> <p>6時限目 不整脈（2） (循環器内科学：西田 卓先生) 【D-5-3)-⑥⑧⑬⑭, D-5-4)-②③④⑤⑥】</p> <p>令和 6年12月26日（木）</p> <p>4時限目 心不全の診断と治療 (循環器内科学：彦惣俊吾先生) 【D-5-1)-④⑬⑭, D-5-3)-②④⑤⑨⑩⑪⑰, D-5-4)-①)-②③】</p> <p>5時限目 抗不整脈薬 (薬理学：吉栖正典先生) 【D-5-1)-③, D-5-2)-①, D-5-3)-⑳, D-5-4)-③)-①②③⑤⑥, D-1)-①)-⑧, D-1-3)-⑤, D-5-4)-⑧)-①】</p> <p>6時限目 血管疾患の画像診断とI V R（画像下治療） (放射線医学：市橋成夫先生) 【D-5-4)-⑦、F-2-5】</p> <p>令和 7年 1月 6日（月）</p> <p>1時限目 狭心症 (循環器内科学：橋本行弘先生) 【D-5-4)-②】</p> <p>2時限目 高血圧 (循環器内科学：中川 仁先生) 【D-5-4)-⑨)-①, D-5-4)-⑨)-② D-5-4)-⑨)-⑥】</p> <p>3時限目 循環器画像診断 (循環器内科学：妹尾絢子先生) 【PS-02-06-01, PS-02-06-03, PS-02-06-05】</p> <p>令和 7年 1月10日（金）</p> <p>4時限目 脂質異常症治療薬 (薬理学：吉栖正典先生) 【D-5-1)-⑥⑦, D-5-4)-①②③④, D-12-4)-⑥)-①②】</p> <p>5時限目 降圧薬 (薬理学：吉栖正典先生) 【D-5-1)-⑬⑭, D-5-4)-⑨)-①②③④⑤⑥, D-8-1)-⑦, D-8-4)-③)-①②】</p> <p>6時限目 虚血性心疾患治療薬・抗血小板薬 (循環器内科学：上田友哉先生) 【D-1)-①)-⑧, D-5-1)-①⑥⑧, D-5-2)-③④⑤, D-5-3)-⑤⑪⑫⑳, D-5-4)-②)-①②③⑤⑥】</p> <p>令和 7年 1月15日（水）</p> <p>1時限目 腫瘍循環器学（反転授業） (循環器内科学：中川 仁先生) 【D-5-4)-⑤)-②③】</p> <p>2時限目 重症心不全の外科的治療 (胸部・心臓血管外科学：武輪能明先生) 【C-4-4, D-5-4)-①, D-5-4)-⑤】</p> <p>3時限目 大動脈・末梢血管疾患の外科的治療 (胸部・心臓血管外科学：殿村 玲先生) 【D-5-4)-⑦)-①②③④】</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	<p>循環器内科学：内科学 第12版 矢崎 義雄・小室 一成（朝倉書店） Robbins Basic Pathology, 10th Edition (Elsevier) ルービン病理学 臨床医学への基盤（鈴木利光、他 監訳）（西村書店）</p> <p>胸部・心臓血管外科学：Cardiac Surgery kirklin/Barratt-Boyes 先天性心疾患：臨床発達心臓病学 高尾篤良、他、編（中外医学社）</p> <p>薬理学：Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 13th Edition. (McGraw-Hill) カッツング・薬理学（原書8版）（丸善） New薬理学（南江堂） カラー 新しい薬理学（西村書店）</p>
参考書	<p>循環器内科学：Braunwald's Heart Disease - Textbook of Cardiovascular Medicine P.Libby, R.O.Bonow, D.L.Mann, et al. (eds.) (ELSEVIER) Fuster & Hurst's the Heart, 15th ed. V.Fuster, J.Narula, P.Vaughnava et al. (eds.) (Mcgraw-Hill)</p>
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
室 繁郎			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：呼吸器内科学講座 関連担当講座：胸部・心臓血管外科学、小児科学、放射線診断・IVR学、薬理学、病理診断学
概要	呼吸器疾患患者の診療の基本を理解するために、呼吸器疾患の病態、診断法、治療法を習得する。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □呼吸器疾患の主訴、症候、病態生理を理解できる。 □呼吸器疾患の診察、検査法、診断法、治療法を理解し活用することができる。 □呼吸器疾患の治療薬についてその薬理学を理解し、活用することができる。</p> <p>III 医療の実践 呼吸器症状から臨床類論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 呼吸器疾患における多職種チームの役割を理解し、コミュニケーションを築き、連携する重要性を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 呼吸器系の疾病予防や健康増進について説明することができる</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、呼吸器系の気象疾患や難病に対してアプローチすることができる</p>
評価方法	<p>■定期試験（90％）《Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ、Ⅵ》 ■受講態度（10％）《Ⅰ、Ⅳ》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>2024年 12月4日(水)</p> <p>①限目 呼吸器疾患の総論（解剖，機能，症候群）（呼吸器内科学講座：室 繁郎） 【D-6-1）①～⑧、D-6-3）-(2)①～⑤、D-6-4）-(7)-②】</p> <p>②限目 慢性閉塞性肺疾患（COPD）（呼吸器内科学講座：室 繁郎） 【D-6-4）-(3)①・②】</p> <p>③限目 小児の気管支喘息（小児科学講座：荻原健一） 【D-6-4）-(3)③】</p> <p>12月6日(金)</p> <p>④限目 全身性疾患と肺病変（呼吸器内科学講座：長 敬翁） 【D-6-4）-(3)④、E-4-3）-(2)①～④、E-4-3）-(3)①～③、E-4-3）-(4)①～④、E-4-3）-(5)①～③】</p> <p>⑤限目 肺血栓塞栓症と肺高血圧（奈良県総合医療センター：伊藤武文） 【D-6-4）-(4)①・③・④】</p> <p>12月9日(月)</p> <p>①限目 良性肺疾患の外科治療（胸部・心臓血管外科学講座：川口剛史） 【D-6-4）-(8)④】</p> <p>②限目 呼吸器領域の画像診断(1)（放射線診断・IVR学講座：丸上亜希） 【D-6-2）①】</p> <p>③限目 呼吸器領域の画像診断(2)（放射線診断・IVR学講座：丸上亜希） 【D-6-2）①】</p> <p>12月12日(木)</p>

④限目
呼吸器診療における病歴と身体所見の重要性 (西和医療センター：中村孝人)
【D-6-3)-(2)①～⑤、F-1-13)～18)、F-3-1)①～④】

⑤限目
肺癌の診断と治療 (呼吸器内科学講座：本津茂人)
【D-6-2)②、D-6-4)-(9)①～③】

⑥限目
肺癌の外科治療 (胸部・心臓血管外科学講座：澤端章好)
【D-6-4)-(9)①～③】

12月17日(火)

④限目
気管支喘息 (呼吸器内科学講座：吉川雅則)
【D-6-3)-(1)①、D-6-4)-(3)③】

⑤限目
肺結核と非結核性抗酸菌症 (呼吸器内科学講座：坂口和宏)
【D-6-4)-(2)③・④】

⑥限目
呼吸器疾患の診察法 (済生会吹田病院：長 澄人)
【F-3-5)-(4)①・②】

12月20日(金)

④限目
肉芽腫性・アレルギー性肺疾患 (南奈良総合医療センター：甲斐吉郎)
【D-6-4)-(5)①～③、D-6-4)-(7)④・⑤】

⑤限目
睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病 (呼吸器内科学講座：山内基雄)
【D-6-4)-(6)①～③】

⑥限目
酸素療法と人工呼吸管理・ARDS (呼吸器内科学講座：山内基雄)
【D-6-4)-(1)①・②、D-6-4)-(4)②】

12月25日(水)

①限目
呼吸器疾患(病理) (1) (病理診断学講座：吉澤明彦)
【D-6-4)-(9)①】

②限目
呼吸器疾患(病理) (2) (病理診断学講座：吉澤明彦)
【D-6-4)-(9)①】

③限目
職業性肺疾患 (済生会中和病院：徳山 猛)
【D-6-4)-(3)⑦】

12月27日(金)

①限目
呼吸器病治療薬(1) (薬理学講座：吉栖正典)
【E-3-3)④、F-2-8)④】

②限目
呼吸器病治療薬(2) (薬理学講座：吉栖正典)
【E-3-3)④、F-2-8)④】

2025年

1月15日(水)

④限目
胸膜疾患 (呼吸器内科学講座：谷村和哉)
【D-6-4)-(2)⑦、D-6-4)-(8)①～③、D-6-4)-(9)④】

⑤限目
間質性肺疾患 (呼吸器内科学講座：山本佳史)
【D-6-4)-(3)④⑥、D-6-4)-(5)④】

1月16日(木)

④限目
呼吸器感染症の診断と治療 (奈良医療センター：玉置伸二)
【D-6-4)-(2)①・②・⑤、D-6-4)-(3)-⑤、D-6-4)-(7)①】

⑥限目
呼吸器疾患のまとめ【反転授業】 (呼吸器内科学講座：室 繁郎)
【D-6-1)①～⑧、D-6-3)-(2)①～⑤、D-6-4)-(3)①・②】

授業外学修 (事前
学修・事後学修)

なし

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 呼吸器内科・外科学 監修 伊達洋至 平井豊博 メディカルレビュー社 ・病気がみえる vol.4 改訂第3版 医療情報科学研究所
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸調節のしくみ ベッドサイドへの応用 川上義和 編 文光堂 ・呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル 呼吸ケア・リハビリテーション学会 編 ・図解 呼吸器内科学テキスト 長瀬隆英, 永田泰自 編 中外医学社 ・チャートで学ぶ病態生理学 川上義和 編 中外医学社 ・内科鑑別診断学 杉本恒明, 小俣政男 編 朝倉書店 ・臨床医が知っておきたい呼吸器病理の見かたのコツ 河端 美則 編 羊土社 ・標準小児科学 第8版 内山 聖 監修 医学書院 ・胸部のCT 村田喜代史 編 メディカルサイエンスインターナショナル ・新版 胸部単純X線診断 画臓の成り立ちと読影の進め方 林邦昭, 中田肇 編 秀潤社 ・呼吸器外科学 正岡 昭 監修、藤井義敬 編 南山堂 ・肺切除術一局所解剖と手術手技— 荒井他嘉司・塩沢正俊 著 朝倉書店 ・Nelson : Textbook of pediatrics (20th ed.) Robert M ・カラー 新しい薬理学 西村書店 ・New薬理学 改定第7版 南江堂 ・Goodman&Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th Edition. (McGraw-Hill) 訳本あり ・カッツング薬理学エッセンシャル 原書第12版 丸善
学生へのメッセージ等	<p>医師として診療に必要な呼吸器に関する生理学、病態、解剖を理解することにより、疾患が症状・予後等に関連するメカニズムが把握できる。これらを通じて、患者さんへの共感が生じ、個々の症例に応じたアセスメント・検査計画・治療戦略の立案が可能となるよう、学習してほしい。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
吉治 仁志			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：消化器内科学 関連担当講座：消化器・総合外科学、放射線診断・IVR学、病理診断学
概要	肝臓・胆道・膵臓疾患について幅広く理解するために、肝・胆・膵の機能及び肝・胆・膵疾患の病態、疫学、診断および治療法を学習する
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医としてふさわしい行動や倫理観を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □消化器疾患の病態生理を理解し説明することができる。 □消化器疾患の診断法や治療法を理解し説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 □消化器疾患における検査の意義、適応、禁忌について理解し説明することができる。 □消化器疾患の臨床推論により必要な検査を選択し、診断結果から適切な治療計画を立てることができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 各種医療専門職について理解し、チームリーダー及びメンバーとして役割を果たす態度を示せる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 消化器疾患の予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 消化器疾患について、体系的な文献検索ができ、問題点を抽出しリサーチマインドを持って解決に向けたアプローチができる。</p>
評価方法	<p>■受講態度 (5%) 《 I, IV 》 ■定期試験 (95%) 《 I, II, III, IV, V, VI 》 本試験日：2025年1月23日 (木) 2時限目 再試験日：2025年3月14日 (金) 4時間目</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>2024年12月9日 (月) 4時限目 肝疾患のみかた考えかた (消化器内科学：吉治仁志) 【D-7-1)-(6)、D-7-3)-(1)-①, ②、D-7-3)-(2)-①】 内容：症候からどう考えるか、黄疸の鑑別、基礎から臨床へ</p> <p>5時限目 肝胆膵のIVR (放射線・核医学科：田中 利洋) 【D-7-4)-(8)-⑨、D-7-4)-(5)-⑧】 内容：動脈塞栓術、動注療法、ドレナージ術、アブレーション</p> <p>6時限目 急性肝炎、急性肝不全 (消化器内科学：西村 典久) 【D-7-4)-(5)-②, ③】 内容：肝機能検査、急性肝炎、急性肝不全、ウイルス肝炎のABC</p> <p>2024年12月13日 (金) 4時限目 膵疾患の診断、急性膵炎 (消化器内科学：美登路 昭) 【D-7-4)-(6)-①, ③】 内容：急性膵炎の原因・病態生理・症候・診断・治療、重症急性膵炎</p> <p>5時限目 胆道疾患の診断、内視鏡的治療 (消化器内科学：美登路 昭) 【D-7-4)-(4)-①, ②, ③, ④、D-7-1)-(8)】 内容：超音波診断、胆嚢・胆管造影、CT、MRCP、ERCP、EST、EPBD、総胆管拡張症、膵胆管合流異常、胆石症、胆嚢炎、肝管炎</p> <p>6時限目 ウイルス性・自己免疫性肝疾患・慢性肝疾患 (消化器内科学：浪崎 正) 【D-7-2)-①, ②、D-7-4)-(5)-①, ②, ⑨, ⑩, ⑪】 内容：非アルコール性脂肪肝炎の病像と診断</p> <p>2024年12月19日 (木) 1時限目 胆嚢・胆管癌 (消化器・総合外科：安田 里司) 【D-7-4)-(4)、D-7-4)-(8)-⑧】 内容：手術適応疾患、術前肝機能・評価・術式、術後管理</p> <p>2時限目 肝・胆・膵疾患の病理1 (病理診断学：森田 剛平) 【D-7-2)-⑤】 3時限目 肝・胆・膵疾患の病理2 (病理診断学：森田 剛平) 【D-7-2)-⑤】</p> <p>2024年12月24日 (火)</p> <p>【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>

	<p>1時限目 臍腫瘍 (消化器・総合外科：庄 雅之) 【D-7-4)-(8)-⑩, ⑪】 内容：臍腫瘍の病理・診断・治療</p> <p>2時限目 原発性肝細胞癌 (消化器内科学：佐藤 慎哉) 【D-7-4)-(8)-⑨、D-7-2)-②】 内容：疫学、病態、診断、治療</p> <p>3時限目 アルコール性・薬物性肝障害 (消化器内科学：佐藤 慎哉) 【D-7-4)-(5)-⑥, ⑦】 内容：アルコール性障害・薬物性肝障害の病態・診断・治療</p> <p>2025年1月6日 (月) 6時限目 肝臓疾患の外科治療 (群馬大学 総合外科学講座 肝胆膵外科学分野：調 憲) 【D-7-4)-(8)-⑨】 内容：手術適応疾患、術前肝機能・評価・術式、術後管理</p> <p>2025年1月7日 (火) 1時限目 肝胆膵の画像診断 (1) (放射線・核医学科：南口 貴世介) 【D-7-2)-③】 内容：肝の画像診断 超音波検査、CT、MRI、PET</p> <p>2時限目 肝胆膵の画像診断 (2) (総合画像診断センター：太地 良佑) 【D-7-2)-③】 内容：胆膵の画像診断 超音波検査、CT、MRI、PET</p> <p>2025年1月10日 (金) 2時限目 肝硬変・肝硬変合併症の病態と治療 (消化器内科学：鍛冶 孝祐) 【D-7-4)-(5)-④, ⑤、D-7-3)-(1)-⑥】 内容：日常の管理、門脈圧亢進症、肝性脳症、腹水</p> <p>2025年1月16日 (木) 5時限目 慢性膵炎 (消化器内科学：北川 洸) 【D-7-4)-(6)-②, ③、D-7-1)-⑨】 内容：慢性膵炎の原因・病態生理・症候・診断・合併症・治療</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	
テキスト	<p>教科書： 杉本恒明・小俣政男 総編集 内科学 朝倉書店発行 高久史磨・尾形悦郎・黒川清・矢崎義雄 監修 新臨床内科学 医学書院発行 高橋陸正 編 必修放射線科医学 南江堂 出月康夫、古瀬 彰、杉町圭蔵 編 NEW外科学 南江堂</p>
参考書	<p>参考書： Sherlock: Diseases of the Liver and Biliary System. Blackwell. Schiff, Sorrell, Maddrey: Diseases of the Liver. J.B. Lippincott 吉川公彦、荒井保明 監修 I V Rのすべて メジカルビュー社 幕内雅敏、高山忠利 編 肝臓外科の要点と盲点 文光堂</p>
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
庄 雅之			
添付ファイル			

全担当教員	科目担当講座：消化器・総合外科学 関連担当講座：消化器内科学、小児科学、放射線診断・IVR学、分子病理学
概要	消化管疾患は、内科、外科、小児科、病理診断、画像診断といった横断的な知識の習得が必要である。当コースでは、臨床実習に必要な消化管疾患の知識の習得及び活用を目標とし、系統的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □消化管・乳腺疾患の病態生理を理解し活用することができる。 □消化管・乳腺疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 □各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 消化管・乳腺症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 消化器疾患・乳腺疾患における多職種チームの役割を理解し、説明することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 消化管・乳腺系の疾病予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、消化管・乳腺系の希少疾患や難病に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■受講態度 (10%) 《I, IV》 ■小テスト (20%) 《II, V》 ■定期試験 (70%) 《II, III, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>
授業計画	<p>2024年12月5日(木)</p> <p>4時限目 小児の食道・胃・十二指腸疾患 (消化器・総合外科学：洲尾 昌伍) 食道閉鎖症の病態・病型を理解し、術前管理、診断、手術および術後合併症とその予防や治療について述べる。 肥厚性幽門狭窄症について病態を理解し、術前管理、診断、手術および術後合併症とその予防や治療について述べる。 【D-7-4)-(2)-⑧】</p> <p>5時限目 消化管ポリポーシス (消化器・総合外科学：小山 文一) 消化管ポリポーシスについて解説する。 Lynch症候群について解説する。 【D-7-4)-(3)-⑧】</p> <p>6時限目 消化器内視鏡検査の基本 (消化器内科学：美登路 昭) 消化器内視鏡検査から得た情報をもとに主な疾患 (隆起性病変、陥凹病変、平坦病変) の鑑別ができる。 【D-7-2)-(④、D-7-4)-(2)-③】</p> <p>2024年12月10日(火)</p> <p>4時限目 胃炎と機能性ディスペプシア (消化器内科学：美登路 昭) 急性胃炎 (急性胃粘膜病変を含む)、慢性胃炎、機能性ディスペプシア (functional dyspepsia<FD>)の疾患概念、治療法を概説できる。 【D-7-4)-(2)-④, ⑤, ⑦】</p> <p>5時限目 Helicobacter pylori 感染症と胃潰瘍、十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍) (消化器内科学：美登路 昭) Helicobacter pylori 感染症の診断を説明できる。Helicobacter pylori 感染症が関連する消化器疾患を理解し、除菌治療の有用性を説明できる。 胃潰瘍、十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍) の病因、症候、時相分類と治療を説明できる。 【D-7-4)-(2)-①, ②】</p> <p>6時限目 消化管の希少がん (教育開発センター：若月 幸平) 消化管カルチノイドを含めた消化管神経内分泌腫瘍 (neuroendocrine tumor <NET>) について述べる。 消化管間質腫瘍 (gastrointestinal stromal tumor <GIST>) について述べる。</p>

腹膜中皮腫について述べる。
【D-7-4)-(3)-⑩、⑰、D-7-4)-(8)-⑫】

2024年12月12日(木)

- 1時限目 乳房の腫瘍(良性・悪性)(消化器・総合外科学:赤堀 宇広)
乳房の良性腫瘍の種類、乳がんの危険因子、症候、診断、治療、予後に関して述べる。
【D-11-1)-(①、②、③、D-11-4)-(1)-①、②、D-11-4)-(2)-①、E-3-5)-⑩】
- 2時限目 小児の小腸大腸疾患(消化器・総合外科学:洲尾 昌伍)
腸回転異常症および中腸軸捻転について病態を理解し、診断・手術および術後合併症について述べる。
鎖肛の病態・病型を理解し、術前管理、診断、手術および術後合併症とその予防や治療について述べる。
ヒルシュスプルング病の病態・病型を理解し、術前管理、診断、手術および術後合併症とその予防や治療について述べる。
急性虫垂炎の症状や診察、検査および手術や術後合併症について述べる。
【D-7-4)-(3)-①、②、⑨】
- 3時限目 炎症性腸疾患および機能性消化管障害の診断と治療(消化器・総合外科学:小山 文一)
炎症性腸疾患の病態把握に始まり、その鑑別診断および適切な治療法選択のあり方について解説する。
併せて機能性消化管障害の疾患像に関する理解が深まるように概説する。
【D-7-4)-(3)-③、⑤】

2024年12月16日(月)

- 1時限目 腸管憩室症・薬剤性腸炎・虚血性大腸炎・上腸間膜動脈閉塞症(消化器・総合外科学:高木 忠隆)
腸管憩室症(大腸憩室炎と大腸憩室出血)、薬物性腸炎、虚血性大腸炎、上腸間膜動脈閉塞症について、解説する。
【D-7-4)-(3)-⑥、⑦、⑬、⑮】
- 2時限目 良性食道疾患(消化器内科学:佐藤 慎哉)
胃食道逆流症(gastroesophageal reflux disease <GERD>)と逆流性食道炎の病態生理などを説明できる。
Mallory-Weiss 症候群の病態などについて説明できる。
【D-7-4)-(1)-②、③】
- 3時限目 食道・胃静脈瘤の診断と治療(消化器内科学:佐藤 慎哉)
食道・胃静脈瘤の病態生理を理解する。また、内視鏡分類や緊急・予防時の治療法を個別に説明できる。
【D-7-4)-(1)-①】

2024年12月18日(水)

- 1時限目 消化管画像診断の適応と読影の基本(放射線診断・IVR学:伊藤 高広)
消化管疾患について、各種画像検査の適応と意義および正常・異常所見の基本的読影法について説明する。
【D-7-2)-③】
- 2時限目 胃癌の画像診断(放射線診断・IVR学:伊藤 高広)
胃癌について、画像検査の適応と意義および正常・異常所見の基本的読影法について説明する。
【D-7-4)-(8)-④】
- 3時限目 乳房腫瘍に対する診断と検査(消化器・総合外科学:横谷 倫世)
乳房腫瘍に対する視触診、画像診断、細胞・組織診を概説する。
【D-11-2)①、②、D-11-3)】

2024年12月23日(月)

- 4時限目 胃癌の診断と治療(消化器・総合外科学:松本 壮平)
胃癌の疫学、病理、症候、肉眼分類と進行度分類を説明できる。
胃癌の診断法を列挙し、所見とその意義を説明できる。
胃癌の進行度に応じた治療を概説できる。
【D-7-4)-(8)-③、④、⑤】
- 5時限目 腸閉塞・肛門疾患・腹膜炎の診断と治療(消化器・総合外科学:中出 裕士)
腸閉塞、肛門疾患、急性出血性直腸潰瘍、腹膜炎の診断と治療について述べる。
【D-7-4)-(3)-②、④、⑭、D-7-4)-(7)-①】
- 6時限目 大腸癌の診断・薬物療法(消化器・総合外科学:岩佐 陽介)
大腸癌の診断と全身化学療法につき解説する。
【D-7-4)-(8)-⑥、⑦】

2024年12月26日(木)

- 1時限目 小児の消化器疾患(小児科学:古川 晶子)
小児期に代表的な消化器疾患の一つである腸重積症と感染性腸炎について模擬症例検討を加えながら、病態・診断・治療法を述べる。
【D-7-4)-(3)-⑩、⑫】
- 2時限目 小児の腸炎・消化不良症(小児科学:古川 晶子)
小児科医療の現場で最もよく経験する疾患である腸炎、下痢症、便秘症について総論的に述べる。
【D-7-4)-(3)-⑪】
- 3時限目 腹壁・鼠径部ヘルニアの診断と外科治療(消化器・総合外科学:松尾 泰子)

	<p>腹壁・鼠径部ヘルニアの概念、病態、手術治療につき解説する。 【D-7-4)-(7)-②, ③】</p> <p>2025年1月6日(月) 4時限目 大腸癌の内視鏡・手術治療(消化器・総合外科学:岩佐 陽介) 大腸癌の内視鏡的治療、手術治療につき解説する。 【D-7-4)-(8)-⑥, ⑦】</p> <p>5時限目 胃癌の外科治療(消化器・総合外科学:松本 壮平) 胃切除の適応と術式について説明できる。 胃切除後症候群の病態を理解し、その対応を概説できる。 【D-7-4)-(2)-⑥、F-2-9)-(1)-⑥】</p> <p>2025年1月9日(木) 1時限目 食道癌の外科治療(慶應義塾大学:北川 雄光) 食道切除の適応と術式について説明できる。 【D-7-4)-(8)-①, ②, F-2-9)-(1)-⑥】</p> <p>2時限目 炎症性腸疾患の外科治療効果(消化器・総合外科学:小山 文一) 炎症性腸疾患の外科治療について解説する。感染性腸炎を列挙し、鑑別法を解説する。 【D-7-4)-(3)-③, ⑫】</p> <p>3時限目 周術期の全身管理(消化器・総合外科学:長井 美奈子) 術前・術後管理について述べる。 術後合併症の予防と治療について説明できる。 【F-2-9)-(1)-⑥、F-2-9)-(2)-①, ③, ④, ⑤, ⑦, ⑧, ⑨】</p> <p>2025年1月14日(火) 4時限目 消化管癌の病理(分子病理学:緒方 瑠衣子) 食道・胃・大腸の病理学的特徴を理解し、説明できる。 【D-7-4)-(8)-①, ③, ⑥】</p> <p>5時限目 食道癌の診断と治療【反転授業】(教育開発センター:若月 幸平) 食道癌の病理所見、肉眼分類と進行度分類について述べる。 食道癌の症候、診断、治療と予後について述べる。 【D-7-4)-(8)-①, ②】</p> <p>6時限目 消化管の臨床解剖と生理(消化器・総合外科学:國重 智裕) 消化管の臨床的な解剖と生理について説明できる。 【D-7-1)-①, ③, ④, ⑦, ⑩, ⑪, ⑫】</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	反転授業の前には事前学習を行ってこよう。
テキスト	<p>1) 消化器外科学、一般外科学、小児外科学 教科書:標準外科学(医学書院)、標準小児外科、系統小児外科学 参考書: 潰瘍性大腸炎・クローン病 診断基準・治療指針 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(鈴木班) 令和元年度分担研究報告書 炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン2016</p> <p>2) 消化器内科学 教科書:食道・胃静脈瘤 改訂第3版 (日本メディカルセンター) 参考書:IBDを日常診療で診る 日比紀文、久松理一(羊土社) 臨床食道学 (南江堂)</p> <p>3) 放射線診断・IVR学 参考書・教科書: 放射線医学 消化器 画像診断・IVR 廣田省三、村上桌道(金芳堂) 胃X線診断の考え方と進め方(第2版) 吉田裕司、市川平三郎(医学書院) 上部消化管内視鏡 スタンダードテキスト 櫻井幸弘、多賀須幸男(医学書院)</p> <p>4) 小児科学 教科書:ネルソン小児科学 原著第19版</p> <p>5) 分子病理学 教科書・参考書:特になし</p>
参考書	
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
野上 恵嗣			
添付ファイル			

全担当教員	野上 恵嗣、荻原 建一、石原 卓、石川 智朗、榊原 崇文、長谷川 真理、辻井 信之、古川 晶子、利根川 仁、濱田 匡章（八尾市立病院小児科部長）
概要	小児科は単一臓器に関わる診療科ではなく、子ども全体を対象とする診療科である。小児科学講座では、知識としての小児科学だけではなく、実際に小児医療の現場で必要な基本的実践能力の修得を目指している。そこで、当講座では、日本小児科学会が提唱する「小児科専門医の医師像」を基盤に、学部学生に必要な到達目標を設定し、実践的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 子どもの総合医、育児・健康支援者、子どもの代弁者、学識・研究者、医療のプロフェッショナルとしてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □小児の特性（バイタルサイン等）、小児疾患の特性（先天的素因等）、小児疾患の病態生理を理解し活用することができる。 □小児疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 □各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 小児特有の症状・訴えから臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 患児-保護者-医療者関係を理解することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 □子どもの保護者と協力して、子どもの発育・発達を総合的に支援できる。 □多職種（看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー等）によるチーム医療を実践できる。 □小児疾患に関わる社会的な問題（小児保健、虐待等）を理解し、説明できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、小児科で遭遇する稀有な難治疾患や確定診断のついていない疾患へアプローチできる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《I》</p> <p>■ 小テスト (10%) 《II、III、V、VI》</p> <p>■ 定期試験 (80%) 《II、III、IV、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>
授業計画	<p>2024年12月4日（水）</p> <p>4時限目 小児の栄養と成長・発達（小児科：榊原 崇文） 【D-12-4)-(8)-①、E-7-2)-①②③、E-7-3)-①②⑤⑦、F-2-11)-(4)⑤、F-3-5)-(8)-⑤】</p> <p>5時限目 小児の神経疾患（小児科：榊原 崇文） 【D-2-3)-②、D-2-4)-(7)-①、D-2-4)-(9)-①、E-7-3)-⑧、F-1-8)-①②③】</p> <p>6時限目 小児科学入門（小児科：野上 恵嗣） 【E-7-2)-①④、E-7-3)-⑥⑦、E-7-4)-①③、F-3-5)-(8)⑥⑦】</p> <p>2024年12月10日（火）</p> <p>1時限目 小児の腫瘍性疾患（小児科：石原 卓） 【D-12-4)-(10)-③】</p> <p>2時限目 小児の免疫機構・免疫不全症（小児科：石原 卓） 【C-3-2)-(4)-②、E-4-3)-(7)-①、E-7-3)-③】</p> <p>3時限目 先天異常・遺伝病（総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門：利根川 仁） 【C-4-1)-②③、E-1-1)-①②③④⑤⑥⑦⑧】</p> <p>2024年12月13日（金）</p> <p>1時限目 小児の食物アレルギー（八尾市立病院小児科部長：濱田 匡章） 【C-3-2)-(4)-④、E-4-3)-(6)-②③】</p> <p>2時限目 小児の呼吸器疾患（小児科：荻原 建一） 【D-6-4)-(3)-③、E-7-3)-⑦、F-1-13)-①②③、F-1-15)-①②③】</p> <p>3時限目 小児の循環器疾患（小児科：辻井 信之） 【D-5-4)-(3)①②③④⑤⑥、D-5-4)-(6)①、E-4-3)-(5)-③、F-1-17)-①②③】</p> <p>2024年12月18日（水）</p> <p>4時限目 小児の発熱・発疹性疾患（小児科：野上 恵嗣）</p>

	<p>【D-1-3)-①、E-2-4)-(1)-②③④⑦、E-2-4)-(2)-②、E-7-3)-⑦、F-1-1)-①②③、F-1-12)-①②③】</p> <p>5時限目 小児の黄疸 (小児科：野上 恵嗣) 【D-1-3)-③、E-7-1)-⑦、E-7-3)-⑦、F-1-24)-①②③】</p> <p>6時限目 小児の内分泌疾患【反転授業】 (小児科：長谷川 真理) 【D-12-4)-(2)-①②③、D-12-4)-(4)-④、E-7-4)-①】</p> <p>注意：小児科各論の内容に関しては、他の領域別講義でも講義をおこなう。</p> <p>内分泌：成長障害・成長ホルモン分泌不全性低身長、糖原病と低血糖 (小児科：野上 恵嗣、長谷川 真理) 感染症：小児感染症・予防接種 (小児科：大西 智子) 消化器：小児の腸炎・消化不良症、小児の消化器疾患 (小児科：古川 晶子) 呼吸器：小児の気管支喘息 (小児科：荻原 建一) 血液：小児の血液疾患、出血性疾患、血栓性疾患 (小児科：野上 恵嗣、石原 卓) 循環器：先天性心疾患 (小児科：辻井 信之) 腎・尿路系：小児における腎疾患、溶血性尿毒症症候群 (小児科：石川 智朗) 膠原病、アレルギー：若年性特発性関節炎 (小児科：石川 智朗) 移植・再生医学：小児の造血幹細胞移植 (小児科：石原 卓)</p> <p>など</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前資料の熟読、小テスト
テキスト	特に指定しない
参考書	NELSON: Textbook of Pediatrics (21th edition) (SAUNDERS) 内山 聖 他：標準小児科学 第8版 (医学書院) 加藤 裕久 他：ベッドサイドの小児の診かた (南山堂) 小児内科編集委員会 他：小児疾患診療のための病態生理1、2、3 (東京医学社)
学生へのメッセージ等	医師として最低限必要な小児科領域の疾患及び小児期特有の発達を加味した治療の重要性を理解し、知識を習得してほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
藤本 清秀			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：泌尿器科学 関連担当講座：腎臓内科学、透析部、小児科学、放射線科、病理診断学、薬理学
概要	腎・尿路等の後腹膜臓器ならびに男性性器の先天性および後天性疾患の正確な知識を得るために、臓器の発生、局所解剖、機能および疾患の病態を理解する必要がある。また、プライマリ・ケアとしての腎臓・泌尿器領域疾患に対する科学的な診断・治療指針をたてるために腎臓内科および泌尿器科領域疾患にみられる身体所見を正確に把握し、系統的な検査法とEBMに基づいた治療に関する知識を習得しなければならない。当コースでは、臨床実習に対する十分な準備を整えられるよう系統的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 積極的に講義に出席し、自己研鑽に努めることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □腎疾患・尿路系疾患の病態生理を理解し活用できる。 □腎疾患・尿路系疾患の診断法や治療法を理解し活用できる。 □各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明できる。</p> <p>III 医療の実践 頻度の高い腎疾患・尿路系疾患の診断と治療に臨床検査の結果を解釈し、EBMに基づいた治療を選択できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 患者、患者家族、医療チームのメンバーとのコミュニケーションにより情報収集を行うための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 頻度の高い腎疾患・尿路系疾患に対する公的医療保険制度の適用を説明できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 腎疾患・尿路系疾患のうち未解決の臨床的な問題を認識し、解決に向けて行われている最新の研究について説明できる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (5%) 《I》 ■ 定期試験 (95%) 《II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>本試験予定：2025年1月28日（火）4時限目 再試験予定：2025年3月17日（月）3時限目</p>
授業計画	<p>2024年12月3日（火） 5時限目 小児における腎疾患 (小児科学：石川智朗) 【D-8-4)-(2)-①～⑤】</p> <p>6時限目 溶血性尿毒症症候群 (小児科学：石川智朗) 【D-1-4)-(2)-⑤, ⑦】</p> <p>2024年12月6日（金） 2時限目 腎疾患総論 (腎臓内科学：鶴屋和彦) 【D-8-1)-①～⑦、D-8-2)-②、D-8-3)-(3)-①～③】</p> <p>3時限目 慢性腎臓病および慢性腎不全 (腎臓内科学：鶴屋和彦) 【D-8-4)-(1)-②～⑥、D-8-4)-(3)-①, ②】</p> <p>6時限目 精巣腫瘍/後腹膜腫瘍 (泌尿器科学：中井 靖) 【D-9-1)-③④⑤、D-9-3)-(1)-②、D-9-4)-(3)-②、D-12-4)-(4)-①, ②】</p> <p>2024年12月16日（月） 4時限目 腎・尿路上皮疾患の病理 (病理診断学：藤井智美) 【D-8-4)-(9)-①, ②、E-3-5)-⑧】</p> <p>5時限目 男性生殖器疾患の病理 (病理診断学：藤井智美) 【D-9-4)-(3)-①, ②、D-12-4)-(4)-①～④、E-3-5)-⑨, ⑩】</p> <p>6時限目 腎炎の病理 (病理診断学：藤井智美) 【D-8-4)-(2)-①～③、D-8-4)-(3)-①、D-8-4)-(5)-①、D-8-4)-(6)-①～⑤】</p> <p>2024年12月19日（木） 4時限目 間質性腎炎 (腎臓内科学：赤井靖宏) 【D-8-4)-(5)-①, ②】</p> <p>5時限目 ネフローゼ症候群 (腎臓内科学：赤井靖宏) 【D-8-4)-(2)-③, ⑤】</p>

	<p>6時限目 血液浄化・腎移植 (透析部：米田龍生) 【D-8-4)-(1)-②, ⑤, ⑥、F-2-13)-⑥～⑧】</p> <p>2024年12月23日 (月)</p> <p>1時限目 尿路結石症/尿路性器感染症 (泌尿器科学：大西健太) 【D-8-4)-(7)-②、D-8-4)-(8)-①、D-9-3)-(2)-①②③】</p> <p>2時限目 腎と酸塩基平衡 (腎臓内科学：江里口雅裕) 【D-8-1)-⑥、D-8-3)-(2)-①, ②、D-8-4)-(4)】</p> <p>3時限目 尿細管機能障害 (腎臓内科学：江里口雅裕) 【D-8-1)-⑤、D-8-3)-(1)-①～④、D-8-4)-(5)】</p> <p>2024年12月25日 (水)</p> <p>4～6時限目 [特別講義] 腎生理・利尿薬 (香川大学医学部薬理学講座教授 西山 成 先生) 【D-8-1)-③～⑤、D-8-2)-②】</p> <p>2025年1月7日 (火)</p> <p>3時限目 急性腎障害 (腎臓内科学：岡本恵介) 【D-8-4)-(1)-①】</p> <p>2025年1月8日 (水)</p> <p>1時限目 男性下部尿路症状/前立腺肥大症【反転授業】 (泌尿器科学：後藤大輔) 【D-8-2)-④、D-8-4)-(8)-②、D-9-4)-(1)-②】</p> <p>2時限目 女性下部尿路症状/骨盤臓器脱 (泌尿器科学：後藤大輔) 【D-9-3)-(1)-①、D-9-3)-(4)-④、D-9-4)-(1)-①】</p> <p>3時限目 腎・尿路の画像診断 (放射線科：立入哲也) 【D-8-2)-①、D-9-2)-(1)-①】</p> <p>2025年1月10日 (金)</p> <p>1時限目 小児泌尿器科 (泌尿器科学：森澤洋介) 【D-8-4)-(7)-①、D-9-1)-②、D-9-4)-(1)-③】</p> <p>2025年1月14日 (火)</p> <p>1時限目 膀胱癌 (泌尿器科学：藤本清秀) 【D-8-4)-(9)-②】</p> <p>2時限目 上部尿路癌/尿道癌/陰茎癌 (泌尿器科学：三宅牧人) 【D-8-4)-(9)-②】</p> <p>3時限目 前立腺癌 (泌尿器科学：田中宣道) 【D-9-4)-(3)-①、E-3-5)-⑨】</p> <p>2025年1月15日 (水)</p> <p>6時限目 腎腫瘍/副腎腫瘍 (泌尿器科学：堀 俊太) 【D-8-4)-(9)-①】</p> <p>2025年1月16日 (木)</p> <p>1時限目 原発性糸球体疾患の分類と組織像 (腎臓内科学：鮫島謙一) 【D-8-2)-③、D-8-4)-(2)-①～③, ⑤】</p> <p>2時限目 続発性糸球体疾患の分類と組織像 (腎臓内科学：鮫島謙一) 【D-8-4)-(2)-①、D-8-4)-(6)-①～⑤】</p> <p>3時限目 急速進行性腎炎症候群 (腎臓内科学：鮫島謙一) 【D-8-4)-(2)-④、D-8-4)-(6)-④】</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	
テキスト	泌尿器科学：標準泌尿器科学 第9版 (医学書院) 小児科学：小児腎臓病学 改訂第2版 (診断と治療社) 病理診断学：解明 病理学 第3版 (医歯薬出版)
参考書	泌尿器科学：ベッドサイド泌尿器科学 改訂第4版 (南江堂) 腎臓内科学：Disease of The Kidney (Little Brown) 小児科学：Pediatric Nephrology Volume1 7th ed (SPRINGER-VERLAG) 病理診断学：組織病理アトラス 第6版 (文光堂) 薬理学：Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 13th Edition (MCGRAW-HILL EDUCATION) カッソング・薬理学 原書10版 (丸善出版) New薬理学 改訂第7版 (南江堂) カラー 新しい薬理学 (西村書店)
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
田中 利洋			
添付ファイル			

全担当教員	<p>コース担当講座：放射線診断・IVR学（責任者：田中利洋） 教授：田中利洋 准教授：西尾福英之、市橋成夫 講師：岩越真一 非常勤講師：穴井洋 助教：越智朋子 関連担当講座：中央放射線部 講師：伊藤高広 助教：佐藤健司 関連担当講座：総合画像診断センター 病院教授：丸上永晃 講師：宮坂俊輝 助教：丸上亜希、山内哲司、太地良佑</p>
概要	<p>1) 臨床における放射線診断の位置づけと価値を理解するために、診断学の基礎を理論的に把握する。 2) IVR(Interventional Radiology:放射線診断技術の治療的応用) の役割を習得する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 放射線医学の基本的事項と画像診断とIVRの意義を理解し、説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 画像診断とIVRの適応を理解し、疾患に対する適切な診断・治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 画像診断とIVRの実践におけるチームマネジメントとコミュニケーションをとるための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 画像診断とIVRが疾病予防や健康増進について果たす役割を説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、画像診断とIVRを通じて国際的視野を持って医療と医学研究を考えることができる。</p>
評価方法	<p>■受講態度 (10%) 《I, IV》 ■小テスト (20%) 《II, III, V, VI》 ■定期試験 (70%) 《II, III, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>*対応するコアカリ項目は旧・平成28年度版を適用しています。（新：令和4年版）</p> <p>2025年1月7日（火）</p> <p>4 時限目 画像診断・IVR 総論（放射線診断・IVR学講座：田中 利洋） 旧【E-6-1)①②⑥⑦、E-6-2)①②④⑤、E-6-3)①②】 【F-2-5)①②④⑤】 新【PS-03-04-05、PS-03-04-24、PS-03-06-01~07】 【CS-02-03-01~05, 07、CS-02-04-16】</p> <p>5 時限目 超音波診断（総合画像診断センター：丸上 永晃） 旧【F-2-7)①-⑦】 新【PS-03-04-05】 【CS-02-03-01~05, 07、CS-02-04-18】</p> <p>6 時限目 IVR（放射線診断・IVR学講座：市橋 成夫） 旧【E-6-2)①②④⑤】 【F-2-5)④⑤】 新【PS-03-04-24、PS-03-06-06, 07】 【CS-02-04-16】</p> <p>2025年1月8日（水）（*4限目は反転授業のための自習）</p> <p>4, 5 時限目 CT 診断【反転授業】（総合画像診断センター：山内 哲司） 旧【E-6-2)①②④⑤】 【F-2-5)①②④】 新【PS-03-04-05、PS-03-06-06, 07】 【CS-02-03-01~05, 07】</p> <p>6時限目 X 線診断（中央放射線部：伊藤 高広） 旧【E-6-2)①②④⑤】 【F-2-5)①②④】 新【PS-03-04-05、PS-03-06-06, 07】 【CS-02-03-01~05, 07】</p> <p>2025年1月9日（木）（*4限目は反転授業のための自習）</p>

	<p>4, 5時限目 MRI 診断【反転授業】（放射線診断・IVR学講座：越智 朋子） 旧【E-6-1)⑤】【F-2-5)①②④】 新【PS-03-04-05、PS-03-06-05, 06, 07】【CS-02-03-01~05, 07】</p> <p>6 時限目 核医学診断（総合画像診断センター：宮坂 俊輝） 旧【E-6-2)①②④⑤、E-6-3)①②】【F-2-5)①②④】 新【PS-03-04-05、PS-03-06-06, 07】【CS-02-03-01 05, 07】</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	<p>教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準放射線医学 第7版 編集 西谷弘 遠藤啓吾 松井修 伊東久夫 医学書院 ・画像診断コンパクトナビ—医学生・研修医必携第4版 著 百島 祐貴 医学教育出版社
参考書	<p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IVRのすべて 監修 吉川公彦 荒井保明，編集 田中利洋 市橋成夫 メジカルビュー社 ・これから始めるIVR 編集 山上卓士 メジカルビュー社 ・IVRマニュアル第3版 編集 山上亨一郎 中塚誠之 杉本幸司 田中利洋 山本晃 医学書院 ・はじめての超音波検査 第2版 編集 森秀明 平井都始子 文光堂 ・わかりやすい核医学 第2版 編集 玉木長良 平田健司 真鍋治 文光堂 ・CT診断 一問一答 編 村上卓道 編著 神田知紀 秀潤社 ・MRI 一問一答 編 平井俊範 工藤與亮 堀正明 秀潤社 ・Meyers' Dynamic Radiology of the Abdomen, 6th ed. - Normal & Pathologic Anatomy (M. A. Meyers, C. Charnsangavej & M. Oliphant, SPRINGER-VERLAG) ・Essentials of Osborn's Brain- Fundamental Guide for Residents & Fellows (A. G. Osborn, ELSEVIER) ・Felson's principles of Chest Roentgenology (L. R. Goodman, ELSEVIER)
学生へのメッセージ等	<p>画像診断やIVRは様々な分野の診療に関わるため、学習は避けて通れません。講義は反転授業などを取り入れ、学生が身に着くように工夫しています。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	—	必修
担当教員			
鶴屋 和彦			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：腎臓内科学 関連担当講座：腎臓内科学、呼吸器内科学、整形外科、脳神経内科学、小児科学、皮膚科学、耳鼻咽喉科学、
概要	膠原病・アレルギー疾患では、免疫システムに関する知識を体系的に習得することが必要である。膠原病とアレルギー疾患は免疫システムの異常により引き起こされ、多臓器に障害を呈する。当コースでは、臨床実習で必要な免疫システムの知識、膠原病、アレルギー疾患の知識の習得および活用を目標とし、系統的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □免疫システムを理解し活用することができる。 □膠原病の病態、診断法、および治療法を理解し活用することができる。 □アレルギー疾患の病態、診断法、および治療法を理解し活用することができる。</p> <p>III 医療の実践 全身症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 多職種間の連携について理解し、医療チームの一員としての役割とそのための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 免疫系の疾患予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、消化器系の気象疾患や難病に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (40%) 《 I 》</p> <p>■ 定期試験 (60%) 《 II, III, IV, V, VI 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年2月13日 (木)</p> <p>1時限目 タイトル：膠原病アレルギー疾患 総論 【E-4-3)-(2)-④, E-4-3)-(3)-②, E-4-3)-(4)-②, E-4-3)-(4)-④, E-4-3)-(5)-①, E-4-3)-(5)-②】 担当科：腎臓内科学 鮫島 謙一 内 容：膠原病領域のアレルギー疾患の病態・診断・治療</p> <p>2時限目 タイトル：耳鼻咽喉科のアレルギー疾患 【E-4-3)-(6)-①, E-4-3)-(6)-②, E-4-3)-(6)-③】 担当科：耳鼻咽喉科 阪上雅治 内 容：耳鼻咽喉科領域のアレルギー疾患の病態・診断・治療</p> <p>3時限目 タイトル：膠原病の皮膚病変 【E-4-2)-④, E-4-3)-(1)-③, E-4-3)-(3)-②, E-4-3)-(4)-①, E-4-3)-(4)-②, E-4-3)-(5)-①, E-4-3)-(5)-②, E-4-3)-(5)-③】 担当科：皮膚科学 小川 浩平 内 容：膠原病に認められる皮膚病変の病態・診断・治療</p> <p>2025年2月17日 (月)</p> <p>1時限目 タイトル：関節リウマチと類似疾患の診断と治療1 【E-4-2)-⑩, E-4-3)-(1)-②, E-4-3)-(2)-①, E-4-3)-(2)-②】 担当科：整形外科 原 良太 内 容：整形外科の観点から、関節リウマチの診断および治療を概説1</p> <p>2時限目 タイトル：関節リウマチと類似疾患の診断と治療2 【E-4-2)-⑩, E-4-3)-(1)-②, E-4-3)-(2)-①, E-4-3)-(2)-②】 担当科：整形外科 原 良太 内 容：整形外科の観点から、関節リウマチの診断および治療を概説2</p> <p>3時限目 タイトル：膠原病の腎病変【反転授業】 【E-4-2)-⑩, E-4-3)-(3)-①②, E-4-3)-(4)-①④, E-4-3)-(5)-①】 担当科：腎臓内科学 鮫島 謙一 内 容：膠原病に合併する腎病変についての病理学的診断・治療</p>

	<p>2025年2月28日(金) 4時限目 タイトル：薬疹 【E-4-2)-(4), E-4-3)-(6)-①, E-4-3)-(6)-②, D-3-4)-(4)-①, D-3-4)-(4)-②】 担当科：皮膚科学 浅田 秀夫 内 容：皮膚科領域のアレルギー疾患の病態・診断・治療</p> <p>5時限目 タイトル：膠原病の肺病変 【E-4-2)-(8), E-4-2)-(9), E-4-3)-(2)-①, E-4-3)-(3)-②, E-4-3)-(4)-①, E-4-3)-(4)-②, E-4-3)-(4)-④, E-4-3)-(5)-①】 担当科：呼吸器内科学 友田 恒一 内 容：膠原病に合併する肺病変の症候・診断・治療</p> <p>2025年3月18日(火) 4時限目 タイトル：若年性特発性関節炎 【E-4-2)-(2), E-4-2)-(11), E-4-3)-(1)-②, E-4-3)-(1)-③, E-4-3)-(2)-④】 担当科：小児科学 石川 智朗 内 容：小児期に発症する膠原病の病態・診断・治療</p> <p>5時限目 タイトル：膠原病と神経症状 【E-4-3)-(2)-④, E-4-3)-(3)-②, E-4-3)-(4)-②, E-4-3)-(4)-④, E-4-3)-(5)-①, E-4-3)-(5)-②】 担当科：脳神経内科学 江浦 信之 内 容：膠原病に合併する神経病変の症候・病態・治療</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	杉本恒明 編 内科学(第9版) 朝倉書店 阿部敏明 他 小児科学新生児テキスト(第3版) 診断と治療社 平山恵造 編 臨床神経内科学 南山堂 Rowland L. P. ed. Merritt's Textbook of Neurology 瀧川雅浩 監修 標準皮膚科学(第10版) 医学書院 清水宏 著 あたらしい皮膚学(第3版) 中山書店 安田隆 他 編 臨床腎臓内科学 南山堂
参考書	上野征夫 著 リウマチ・膠原病診療ビジュアルテキスト 医学書院 Roitt Roitt's Essential Immunology. Blackwell Science Nelson Textbook of pediatrics (16th ed.) Saunders 月刊眼科診療プラクティス56巻 眼アレルギーの診療 文光堂 最新内科学大系(第78巻 皮膚の疾患) 中山書店 宮川幸子編 カラーアトラス「皮膚病変から診る膠原病」 全日本病院出版界 宮地良樹、竹原和彦編 膠原病・皮膚から内臓へ 診断と治療社
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
松本 雅則			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：血液内科学講座 関連担当講座：輸血部、小児科学、感染症内科学、病理診断学
概要	血液疾患は血球減少や血球増加、止血凝固異常をきたす良性疾患から、悪性疾患まで多岐にわたる。治療の進歩は著しく、造血器腫瘍では外科的治療を行わず化学療法や同種造血幹細胞移植で治癒が望め、血栓止血領域でも新たな治療薬が開発されている領域である。当コースでは、臨床実習に必要な血液疾患の知識の周知および活用を目標とし、実践的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を理解することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □血液疾患の病態生理を理解し活用することができる。 □血液疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 □各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 血液データから臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 他職種の医療従事者とのコミュニケーションやチーム医療の大切さを理解できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 血液系の疾病予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、血液系の希少疾患や難病に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	■定期試験（100%）《I, II, III, IV, V, VI》
《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載	
授業計画	<p>2025年2月6日(木)</p> <p>1時限目 赤血球系疾患2(再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、PNH) (血液内科学講座：長谷川 淳) 【D-1-4)-(1)③・④】</p> <p>2時限目 感染症と血液疾患(ATL、伝染性単核球症、血球貪食症候群) (血液内科学講座：長谷川 淳) 【D-1-4)-(4)⑤】 【E-2-4)-(1)⑦・⑨】</p> <p>3時限目 血液疾患でみられる症候 (血液内科学講座：森岡 友佳里) 【D-1-3)①～⑦】</p> <p>2025年2月10日(月)</p> <p>1時限目 造血システムと血液疾患の検査総論 (奈良県総合医療センター：中村 文彦) 【-】</p> <p>2時限目 血液疾患の検査各論(骨髄検査、染色体検査、フローサイトメトリー) (奈良県総合医療センター：中村 文彦) 【D-1-2)②】 【F-2-3)⑨・⑩】</p> <p>3時限目 小児の血液疾患(急性白血病)(小児) (小児科学講座：石原 卓) 【D-1-4)-(4)①・⑥】</p> <p>2025年2月12日(水)</p> <p>3時限目 出血性疾患(血友病、ビタミンK欠乏症)(小児) (小児科学講座：野上 恵嗣) 【D-1-4)-(2)③】</p> <p>6時限目 血液型 (輸血部：酒井 和哉) 【F-2-13)②】</p> <p>2025年2月17日(月)</p> <p>4時限目 輸血療法 (血液内科学講座：松本 雅則) 【F-2-13)①・③・④】</p> <p>5時限目 赤血球性疾患1(貧血の分類、鉄欠乏性貧血、腎性貧血、二次性貧血)</p>
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	

	<p>(血液内科学講座：久保 政之) 【D-1-4)-(1)①・②】</p> <p>6時限目 赤血球性疾患 3 (MDS、ビタミンB12欠乏性貧血) (血液内科学講座：久保 政之) 【D-1-4)-(4)④】 【D-12-4)-(8)①】</p> <p>2025年2月27日(木)</p> <p>4時限目 血液疾患の病理学的検査(リンパ節、骨髄) (日本バプテスト病院：中峯 寛和) 【D-1-2)②】</p> <p>5時限目 白血球系疾患 4、リンパ腫総論 (日本バプテスト病院：中峯 寛和) 【D-1-4)-(4)⑧】</p> <p>2025年3月3日(月)</p> <p>1時限目 血小板減少性疾患 2 (DIC) (血液内科学講座：松本 雅則) 【D-1-4)-(2)④】</p> <p>2時限目 血小板減少性疾患 3 (TTP、HUS) 抗リン脂質抗体症候群 (血液内科学講座：松本 雅則) 【D-1-4)-(2)⑤・⑦】 【E-4-3)-(3)③】</p> <p>3時限目 白血球系疾患 2、慢性白血病(CML, CLL) (血液内科学講座：森岡 友佳里) 【D-1-4)-(4)③】</p> <p>2025年3月10日(月)</p> <p>4時限目 血液疾患の治療による白血球減少時の感染症治療と予防 (感染症内科学講座：笠原 敬) 【-】</p> <p>5時間目 止血機序(血小板の機能、凝固、線溶の機序) (輸血部：酒井 和哉) 【D-1-1)⑧】</p> <p>6時限目 血小板減少性疾患 1 (ITP) (輸血部：酒井 和哉) 【D-1-4)-(2)②】</p> <p>2025年3月21日(金)</p> <p>1時限目 白血球系疾患 1、急性白血病(AML、ALL) (奈良県総合医療センター：八木 秀男) 【D-1-4)-(4)①・②】</p> <p>2時限目 白血球系疾患 5、多発性骨髄腫、原発性マクログロブリン血症(血漿タンパクの種類) (奈良県総合医療センター：八木 秀男) 【D-1-4)-(4)⑨】 【D-1-1)⑤】</p> <p>3時限目 血栓性疾患(プロテインC・S、アンチトロンビン欠乏症)(小児) (小児科学講座：野上 恵嗣) 【D-1-4)-(2)⑦】</p> <p>2025年4月9日(水)</p> <p>4時限目 白血球系疾患 6、リンパ腫各論 (血液内科学講座：田中 晴之) 【D-1-4)-(4)⑧】</p> <p>5時限目 白血球系疾患 3、骨髄増殖性腫瘍 (血液内科学講座：久保 政之) 【D-1-4)-(4)⑦】</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	教科書： 内科学 第12版 第V巻：血液・造血器 矢崎義雄、小室一成 編 朝倉書店
参考書	参考書： 血液内科学 ・血液専門医テキスト 改訂第4版 日本血液学会 編 南江堂 ・造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版 日本血液学会 編 金原出版 ・血液形態アトラス 矢富裕、増田亜希子、常名政弘 著 医学書院 ・Wintrobe's Clinical Hematology 15th edition WOLTERS KLUWER ・Williams Hematology 10th edition McGraw-Hill ・小児血液・腫瘍学 改訂第2版 日本小児血液・がん学会 編 診断と治療社 輸血学 ・最新・輸血学テキスト 大坂顯通 著 中外医学社 内科学 ・内科学書 改訂第9版 Vol.6 血液・造血器疾患 南学正臣 編 中山書店 ・Harrison's Principles of Internal Medicine 21th edition McGraw-Hill
学生へのメッセージ等	貧血から造血幹細胞移植まで、様々な疾患を診るのが血液内科です。血液検査、画像データ、病理検査、遺伝子検査などから診断を導き出し、エビデンスに基づいた治療法で患者さんの治癒を目指しています。講義では血液疾患の病態・検査・治療の基礎を学んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
杉江 和馬、中川 一郎			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：脳神経外科学、脳神経内科学 関連担当講座：泌尿器科学		
概要	1) 神経疾患に関する正確な知識を得るために、神経系の発生、局所解剖、病態生理、神経症候学を理解する。 2) 主要な神経疾患の適切な診断と治療方針の決定ができる能力を獲得するために、系統的な神経診察法・補助検査法と、E BMに基づく治療法を理解し修得する。		
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 神経疾患の病態生理を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 神経疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。 III 医療の実践 神経症状から臨床推論により診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 疾患の診断と治療を通じてインフォームドコンセントの必要性とリスクマネジメントの重要性を示すことができる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 神経系の疾病予防や健康増進について説明することができる。 VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、神経系の希少疾患や難病に対してアプローチすることができる。		
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度 (5%) 《I》 <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (95%) 《II, III, IV, V, VI》 <small>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</small>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
<input checked="" type="checkbox"/> 内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	1 2025年1月30日 (木) 5限目 悪性脳腫瘍 【D-2-4-10-1】		脳神経外科 松田良介
	2 2025年1月30日 (木) 6限目 神経因性膀胱 【D-8-4-8-3】		泌尿器科 後藤大輔
	3 2025年2月3日 (月) 1限目 脊椎脊髄疾患 【D-2-1-2-1~3】		脳神経外科 竹島靖浩
	4 2025年2月3日 (月) 2限目 機能的脳外科 【D-2-4-7-1】		脳神経外科 佐々木亮太
	5 2025年2月3日 (月) 3限目 頭部外傷 【D-2-4-4-1~3】		脳神経外科 古家一洋平
	6 2025年2月7日 (金) 1限目 脳幹障害と脳神経障害 【D-2-1-3-1~3、D-2-1-5-1~3、D-2-1-6-1~2】		脳神経内科 桐山敬生
	7 2025年2月7日 (金) 4限目 くも膜下出血 【D-2-4-1-1~2】		脳神経外科 中瀬健太
	8 2025年2月7日 (金) 5限目 脳出血 【D-2-4-1-1~2】		脳神経外科 山田修一
	9 2025年2月7日 (金) 6限目 その他の脳血管障害 【D-2-4-1-1~2】		脳神経外科 木次将史
	10 2025年2月12日 (水) 1限目		脳神経内科 七浦仁紀

	運動ニューロン疾患 【D-2-4-2-4】		
11	2025年2月12日（水） 2限目 大脳と高次脳機能 【D-2-1-4-1～3、D-2-3-3】		脳神経内科 七浦仁紀
12	2025年2月27日（木） 1限目 パーキンソン病 【D-2-4-2-3】		脳神経内科 形岡博史
13	2025年2月27日（木） 2限目 頭痛・神経系感染症 【D-2-4-8-1】		脳神経内科 形岡博史
14	2025年2月27日（木） 3限目 筋疾患 【D-2-4-6-2～3、D-2-2-2】		脳神経内科 江浦信之
15	2025年3月4日（火） 1限目 末梢神経障害 【D-2-4-5-1～3】		脳神経内科 泉哲石
16	2025年3月4日（火） 2限目 神経筋接合部疾患 【D-2-4-6-1】		脳神経内科 小林恭代
17	2025年3月4日（火） 3限目 認知症疾患・神経疾患のリハビリテーション治療 【D-2-4-2-1、D-2-3-2-1、D-2-4-1-2】		脳神経内科 小林恭代
18	2025年3月10日（月） 1限目 てんかんの外科 【D-2-4-7-1】		脳神経外科 佐々木亮太
19	2025年3月10日（月） 2限目 小児脳神経外科 【E-7-1～3-1～10】		脳神経外科 朴永鉄
20	2025年3月10日（月） 3限目 水頭症と三叉神経痛 【D-2-4-9-2、D-2-4-5-4】		脳神経外科 金泰均
21	2025年3月21日（金） 4限目 脳血管内治療 【D-2-4-1-1～2】		脳神経外科 中川一郎
22	2025年3月21日（金） 5限目 脳神経内科概論① 【D-2-1-1-1～5】		脳神経内科 杉江和馬
23	2025年3月21日（金） 6限目 脳神経内科概論② 【D-2-1-1-1～5】		脳神経内科 杉江和馬
24	2025年4月1日（火） 1限目 脱髄疾患 【D-2-4-3-2】		脳神経内科 桐山敬生
25	2025年4月2日（水） 1限目 良性脳腫瘍 【D-2-4-10-1】		脳神経外科 西村文彦
26	2025年4月2日（水） 2限目 神経疾患 反転授業		脳神経外科 山田修一
27	2025年4月2日（水） 3限目 脳腫瘍の病理 【D-2-4-10-1】		脳神経外科 中村光利（外部）
28	2025年4月8日（火） 4限目 不随意運動 【D-2-3-1-1～3】		脳神経内科 泉哲石
29	2025年4月8日（火） 5限目 その他の脳血管障害2 【D-2-4-1-1～2】		脳神経外科 横山昇平
30	2025年4月8日（火） 6限目 その他の脳腫瘍 【D-2-4-10-1】		脳神経外科 松岡龍太
31	2025年4月10日（木） 1限目 脊髄小脳変性症・遺伝性疾患 【D-2-4-2-5、E-1-1-1～2】		脳神経内科 江浦信之
32	2025年4月10日（木） 2限目 脳血管障害①		脳神経内科 斎藤こずえ

	【D-2-4-1-1~2】		
	33	2025年4月10日（木） 3限目 脳血管障害② 【D-2-4-1-1~2】	脳神経内科 斎藤こずえ
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	脳神経内科：医学生・研修医のための脳神経内科 改訂4版（神田 隆 著 中外医学社） 神経内科ハンドブック 第5版（水野 美邦 編集 医学書院） ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版（田崎 義昭、斎藤 佳雄 著 南山堂） 脳神経外科：標準脳神経外科（山浦 晶、田中隆一、児玉南海雄 共著 医学書院） 病気が見える7 脳・神経（医療情報科学研究所） 組織病理アトラス（小池盛雄 他 編分光堂） 泌尿器科：Text 泌尿器科学、New 泌尿器科学		
参考書	脳神経内科：特に指定しない。症例からよく学び、関連の書物文献を良く読むこと。 脳神経外科：同上		
学生へのメッセージ等	教科書だけでは学べない内容も多く講義しますので、必ず出席するようにしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
細野 光治			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：胸部・心臓血管外科学 関連担当講座：血液内科学、消化器・総合外科学、整形外科、リハビリテーション医学、眼科学、小児科学、形成外科、免疫学、透析部、口腔外科学、発生・再生医学
概要	移植・再生医学は、細胞・組織および臓器の移植、細胞・組織の再生分化、そして、生体適合性素材にある人工器官・人工臓器の技術を個別的あるいは統合的に応用し、不可逆的あるいは一過性障害を有する疾患に対する細胞・組織・器官の修復、再生と置換制御をめざす医学・医療といえる。そこで、達成すべき学習目標を下記に挙げる。 ① 移植・再生医学について、講義、症例をとおして理解し説明できる ② 移植・再生医療に関する基礎的技能を臨床実習により習得する ③ 移植・再生医療の対象患者に対する治療方法の有効性と危険性を理解する ④ 移植の免疫学的分類、臓器（肝臓、腎臓、心臓、肺、皮膚、骨髄、角膜）移植における免疫学的特徴を理解する
目標	I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる II 医学とそれに関する領域の知識 □輸血・造血幹細胞移植、臓器・組織移植、生体材料・人工臓器の病態生理を理解し、活用することができる □輸血・造血幹細胞移植、臓器・組織移植、生体材料・人工臓器にかかる診断法や治療法を理解し、活用することができる □各病態の治療法やその成績を病態別に説明することができる III 医療の実践 移植・再生医療に関連した状態から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立てることができる IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 移植・再生医学の講義で学んだ知識を、チームマネジメントとコミュニケーションに役立てることができる V 医学、医療、保健、社会への貢献 移植・再生医学に関連した医学、医療、保健、社会との関わり合いを説明することができる VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、移植・再生医学に関連した疾患などに対しアプローチすることができる
評価方法	■ 受講態度 (20%) ■ 定期試験等 (レポート含む) (80%) 本試験予定：2025年4月17日 (木) 4限目 再試験予定：2025年6月2日 (月) 6限目
授業計画	2025年1月31日 (金) 1時限目 移植免疫 I (免疫学：伊藤 利洋先生) 【C-3-2)-(2)-①、C-4-5)-(2)】 2時限目 移植免疫 II (免疫学：伊藤 利洋先生) 【C-3-2)-(2)-④、C-3-2)-(3)-③】 3限目 心移植：概念、適応と術式 (反転授業) (胸部・心臓血管外科学：福場 遼平先生) 【D-5-3)-(2). ⑨. ⑩、D-5-4)-(1)-①】 2025年2月13日 (木) 4時限目 整形外科領域における各種移植術の基礎と臨床 (手の外科学講座：面川 庄平先生) 【D-4-1)-(4)-⑥】 5時限目 多能性幹細胞と組織幹細胞の生物学 (発生・再生医学：栗本 一基先生) 【C-1-1)-(1)-②、C-2-3)-(1)-①. ③、C-2-3)-(4)-①、D-1-1)-(2)】 6限目 肺移植：概念、適応と術式 (胸部・心臓血管外科学：濱路 政嗣先生) 【D-6-1)-(1)-③】 2025年2月18日 (火) 4時限目 皮膚移植：概念、適応と術式 (形成外科：桑原 理充先生) 【F-2-9)-(1)-④】 5時限目 皮膚及び外表異常における形成再建外科：概論 (形成外科：桑原 理充先生) 【D-3-4)-(8)-⑦】 2025年3月7日 (金)

	<p>1時限目 腎臓移植：概念、適応と術式 (透析部：米田 龍生先生) 【D-8-4)-(1)-⑥、F-2-13)-(⑤-⑧】</p> <p>2時限目 臓器移植と社会システム (透析部：米田 龍生先生) 【F-2-13)-(⑤-⑥】</p> <p>3限目 整形外科領域における再生医療の基礎と臨床 (リハビリテーション医学：稲垣 有佐先生) 【D-4-1)-(①-③】</p> <p>2025年3月18日 (火)</p> <p>1時限目 口腔疾患における移植・再生(I) (口腔外科学：柳生 貴裕先生) 【D-14-1)-(③】</p> <p>2時限目 口腔疾患における移植・再生(II) (口腔外科学：柳生 貴裕先生) 【F-2-12)-(①-②】</p> <p>3限目 小児の造血幹細胞移植 (小児科学：石原 卓先生) 【D-1-1)-(②. ④、D-2-1)-(③】</p> <p>2025年4月9日 (水)</p> <p>1時限目 造血幹細胞移植の臨床 (血液内科学：田中 晴之先生) 【C-1-1)-(1)-①-⑧、C-1-1)-(2)-①-⑥、C-3-2)-(1)-①-④、C-3-2)-(2)-①-④、 C-3-2)-(3)-①-③、C-3-2)-(4)-①-④、D-1-1)-(②】</p> <p>2時限目 肝移植、小腸移植、膵島移植：概念、適応と術式 (消化器・総合外科学：金廣 裕道先生) 【D-7-1)-(⑥. ⑩、D-7-4)-(5)-④、D-12-4)-(5)-④】</p> <p>3時限目 角膜移植、人工角膜など (眼科学：平井 宏昌先生) 【D-13-1)-(①-③】</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	
テキスト	<p>教科書： 輸血・造血幹細胞移植学：特に指定なし 臓器・細胞移植学：標準形成外科 (医学書院) 生体材料・人工臓器学：小野尊睦 著 口腔外科学 1994 (金芳堂) 第4版</p>
参考書	<p>参考書： 輸血・造血幹細胞移植学 ○全国国立大学附属病院輸血部会議 輸血医学カリキュラム委員会編 輸血医学 (金芳堂) ○日本小児血液・がん学会 編 小児血液・腫瘍学 改訂第2版 (診断と治療社) ○森下剛久 他著 造血幹細胞移植マニュアル (日本医学館) 臓器・細胞移植学 ○厚生省保健医療局臓器移植対策室 監修 脳死判定・臓器移植ハンドブック 1998/1999 ○日本移植学会、日本病理学会 編 ヒト移植臓器拒絶反応の病理組織診断基準：鑑別診断と生検標本の取扱 (図譜) 1998 ○Thomas E. Starzl, Ron Shapiro, Richard L. Simmons. Atlas of organ transplantation, over 1992 ○S. Thirn & H. Waldmann. Pathology and Immunology of Transplantation and Rejection. Blackwell Science 2001 ○B. D. Kahan & C. Ponticelli. Principle and Practice of Renal Transplantation. Martin Dunitz 2000 ○Ronald W. Busuttil, Goran B. Klintmalm. Transplantation of the liver, 1996 ○Howard, Idezuki, Ihse, Prinz. Surgical Diseases of the Pancreas. 3rd ed. Williams & Wilkins 1998 ○William A. Baumgartner, Bruce A. Reitz, Stephen C. Achuff. Heart and heart-lung transplantation, 1990 ○泌尿器科 Gabriel M. Danovitch. Handbook of Kidney Transplantation. 4th ed. Lippincott Williams & Wilkins ○高橋公太 編：腎移植のすべて. 2009 (メディカルビュー社・東京) ○眼科診療プラクティス51巻 角膜移植とアイバンク (文光堂) ○形成外科手術書 (南江堂) ○標準形成外科 (医学書院) 生体材料・人工臓器学 ○標準整形外科学 第15版 (医学書院) 2023 ○奥津芳夫、磨田裕 編：改訂新版 図説ICU 呼吸管理編 真興交易医書出版部 2007年 ○3学会 (日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔学会) 合同呼吸療法認定士認定委員会編集 呼吸療法テキスト改訂第2版 克誠堂出版 2005 移植免疫学 ○Basic Medical Science 2nd Yearで推薦した本</p>
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
田中 康仁			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：整形外科学
概要	1) 運動器疾患の原因の知識を得るため、機能解剖に精通し、病因および病態を理解して診断を組み立てる。 2) 整形外科疾患の診断をたてるため、系統的な検査方法や治療方法を理解する。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 全講義を通して、診療を行う上で患者への向き合い方や、新たな治療法確立や研究に対する向き合い方といった医師として目指すべき姿について考える。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □運動器の解剖学的構造とその機能について理解し、各疾患の病態について理解し、適切な検査を理解しその結果を読み解く。 □運動器疾患の保存療法の種類や手法、理論を学び、運動器疾患の観血療法について基礎的な手技から最先端の治療手技や理論を学ぶ。 □スポーツ障害、関節リウマチ、先天性疾患など運動器に障害を来す関連疾患についての理解を深める。</p> <p>III 医療の実践 運動器疾患の診療に関して臨床症状を的確に把握したうえで、必要な検査や治療を系統的に組み立てるための知識を獲得する。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 運動器疾患の治療に関連する看護師、理学療法士や義肢装具士の活動を理解し、説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 運動器疾患の治療に加えて、予防の必要性を学び、ロコモティブシンドロームなど社会生活機能を落とす疾患に対する対応を学ぶ。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 最先端の治療や疾患理論を理解し、国際的に公表しうる研究活動の基礎となる探求心を育む。</p>
評価方法	<p>■定期試験 (90%) 《Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅵ》</p> <p>■受講態度 (10%) 《Ⅰ》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年2月4日 (火)</p> <p>1時限目 骨軟部腫瘍 朴木寛弥【D-4-4-3-1, 3】</p> <p>2時限目 整形外科概論 田中康仁【D-4-1-1, 2, 3, 4, 5, 6, D-4-3-3】</p> <p>3時限目 整形外科診断学 田中康仁【D-4-1-1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, D-4-2-1, 2, D-4-3-1, 2】</p> <p>2025年2月7日 (金)</p> <p>2時限目 上肢1 面川庄平【D-4-4-1-2, 6, 7】</p> <p>3時限目 上肢2 面川庄平【D-4-4-1-1, 8】</p> <p>2025年2月10日 (月)</p> <p>4時限目 リハビリテーション医学と運動器・骨系統疾患 城戸 顕【D-4-3-1, D-4-4-1-15, E-3-5-4】</p> <p>5時限目 足関節疾患【反転授業】 谷口 晃【D-4-4-1-2, 7】</p> <p>6時限目 小児整形 藤井宏真【D-4-3-1, D-4-4-1-2, 6】</p> <p>2025年2月28日 (金)</p> <p>1時限目 股関節疾患 内原好信【D-4-4-1-5, 7】</p> <p>2時限目 関節リウマチ 原 良太【D-4-4-1-6】</p> <p>3時限目 骨髄炎、骨端症 河村健二【D-4-4-2-1】</p>

	<p>2025年4月1日（火）</p> <p>2時限目 脊椎・脊髄疾患（1） 重松英樹【D-4-2-1, 2、D-4-3-1、D-4-4-1-9, 14】</p> <p>3時限目 脊椎・脊髄疾患（2） 重松英樹【D-4-2-1, 2、D-4-3-1, 3、D-4-4-1-11, 12, 13、D-4-4-2-2、D-4-4-3-2】</p> <p>2025年4月8日（火）</p> <p>1時限目 末梢神経 清水隆昌【D-4-4-1-8】</p> <p>2時限目 膝関節・スポーツ傷害疾患 小川宗宏【B-1-6、D-4-3-2、D-4-4-1-2, 7】</p> <p>3時限目 人工関節の現況 稲垣有佐【D-4-4-1-7、D-4-4-2-1、F-2-12-2】</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	足関節疾患に関してはあらかじめ指示した約30分程度で完結する事前学習を行い、学んだことに対する補完的な講義を行うことでこの分野での理解度を深める。 事後学習は講義内容をもとに試験に備える。
テキスト	教科書：標準整形外科学（医学書院）
参考書	参考書： 整形外科クルズス（南江堂） 整形外科シラバス（南江堂） 新図説臨床整形外科講座（メジカルビュー社） 図解整形外科診察の進め方（医学書院） 最新整形外科学大系（中山書店） Edmonson and Crenshaw: Campbell's Orthopaedics (Mosby) 足の臨床（メジカルビュー社） 肩の臨床（メジカルビュー社）
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
上田 哲生			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：眼科学 上田哲生、西智、辻中大生、宮田季美恵、水澤裕太郎、平井宏昌、藤原克彦
概要	人間は外界情報の8割以上を視覚情報として得ている。眼疾患には、内科、小児科、外傷といった横断的な知識とその複雑性を理解することが必要である。当科目では、臨床実習に必要な眼疾患の知識の習得及び活用を目標とし、系統的な教育を行う。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を理解することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/>眼疾患の病態生理を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/>眼疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/>各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 眼症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 視能訓練士・看護師との円滑なコミュニケーションをとるための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 眼疾患予防や眼と全身疾患や加齢との関係について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、眼と全身疾患の関係や疫学的研究に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■定期試験（100%）《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年2月4日（火）</p> <p>4時限目 解剖、発生（眼科学講座：上田哲生） 視覚器の構成、眼球、視路、眼球付属器、眼の器官発生 視機能検査 分光感度色覚、光覚、視力、屈折、視野、眼位、 細隙灯顕微鏡、隅角検査、眼圧、眼底検査、蛍光眼底撮影、網膜電図、超音波、CT 【D-13-1）-①, ②, ③, ④、D-13-1）-④、D-13-2）-①、D-13-4）-（1）-①, ②, ③, ④】</p> <p>5時限目 斜視弱視、屈折矯正、ロービジョンケア（眼科学講座：水澤裕太郎） 斜視弱視の診断と治療、屈折異常の手術的矯正 【D-13-2）-①、D-13-3）-（1）-①】</p> <p>6時限目 外眼筋疾患、眼窩疾患、眼外傷（眼科学講座：水澤裕太郎） 【D-13-4）-（1）-⑨】</p> <p>2025年2月14日（金）</p> <p>1時限目 網膜疾患 I（眼科学講座：宮田季美恵） 網膜血管（糖尿病）、高血圧網膜症、加齢性黄斑変性 【D-13-4）-（1）-⑥, ⑩】</p> <p>2時限目 網膜疾患 II（眼科学講座：宮田季美恵） 網膜剥離、ウイルス感染、未熟児網膜症 【D-13-4）-（1）-⑤】</p> <p>3時限目 緑内障（眼科学講座：宮田季美恵） 緑内障の定義、眼圧の検査、緑内障の分類、治療 【D-13-4）-（1）-④】</p> <p>2025年2月20日（木）</p> <p>1時限目 前眼部疾患 I（眼科学講座：辻中大生） 眼瞼疾患（眼瞼の構造、形態の異常、眼瞼の炎症、眼瞼の腫瘍） 涙器の構造と生理、検査、涙道疾患、涙腺疾患、涙器の外傷 【D-13-3）-（1）-①、D-13-2）-①】</p>

	<p>2時限目 前眼部疾患Ⅱ（眼科学講座：辻中大学生） 角膜・強膜・結膜疾患 【D-13-4）-（1）-②】</p> <p>3時限目 眼科再生医療（眼科学講座：辻中大学生） 【D-13-1）-①, ②, ③, ④、D-13-2）-①】</p> <p>2025年3月6日（木）</p> <p>4時限目 神経眼科（眼科学講座：西智） 視覚路、眼球運動、瞳孔、視神経疾患、眼球運動障害、複視、脱髄疾患、鬱血乳頭 【D-13-4）-（1）-⑧】</p> <p>5時限目 水晶体、白内障【反転授業】（眼科学講座：西智） 白内障、水晶体脱臼、白内障手術、後発白内障 【D-13-4）-（1）-③】</p> <p>6時限目 自己学習時間</p> <p>2025年3月7日（金）</p> <p>4時限目 脈絡膜、ぶどう膜炎（眼科学講座：平井宏昌） 脈絡膜、ぶどう膜炎、眼内炎、続発緑内障、脈絡膜腫瘍 全身疾患と眼 【D-13-4）-（1）-④, ⑦、D-13-4）-（2）-①、D-13-3）-（2）-①, ②, ③】</p> <p>5時限目 遺伝性眼疾患（眼科学講座：藤原克彦） 網膜色素変性、網膜芽細胞腫、家族性角膜変性症、遺伝性視神経疾患、色覚異常 【D-13-4）-（2）-①】</p> <p>6時限目 まとめ講義【反転授業】（眼科学講座：上田哲生） 【-】</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>■2025年3月6日（木）</p> <p>5時限目 水晶体、白内障【反転授業】（眼科学講座：西智） 以下のとおり反転授業を実施するので、 教務システムの授業掲示板からアクセスし、授業開始までに各自事前学修を行う。</p> <p>①事前学修（自宅）講義動画と講義動画内の内容に対応したビデオを視聴する。 ②Formsを活用した小テスト（授業） ③小テストの解説、症例を交えた講義（授業）</p> <p>■2025年3月7日（金）</p> <p>6時限目 まとめ講義【反転授業】（眼科学講座：上田哲生） 以下のとおり反転授業を実施するので、 教務システムの授業掲示板からアクセスし、授業開始までに各自事前学修を行う。</p> <p>①事前学修（自宅）小テスト ③小テストの解説、症例を交えた講義（授業）</p>
テキスト	なし
参考書	<p>■標準眼科学 第14版 著者：中澤満/村上晶/園田康平（編集） 出版社：医学書院</p> <p>■現代の眼科学 第13版 著者：所敬（監修）/吉田晃敏/谷原秀信（編集） 出版社：金原出版</p> <p>■病気がみえる vol.12 眼科 著者：医療情報科学研究所（編集） 出版社：メディックメディア</p> <p>■眼科疾患最新の治療2022-2024 著者：村上晶/白石敦/辻川明孝（編集） 出版社：南江堂</p> <p>■エッセンシャルシリーズ NEWエッセンシャル 眼科学 第8版 著者：丸尾敏夫 出版社：医歯薬出版</p> <p>■眼疾患アトラスシリーズ 著者：大鹿哲郎（編集） 出版社：総合医学社</p>
学生へのメッセージ等	<p>私たちは外界情報の8割以上を視覚情報として得ています。“見る”ことは生活に欠かせない要素であり、眼科は未熟児から高齢者まで広く対象としています。高齢化が進むなか眼科の役割はより重要になってきており、全身疾患との関わりも深く、基本的な眼科知識は医師としての能力を高めます。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
岡田 俊			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：精神医学講座
概要	1) 精神疾患の病態・診断・治療について基本的な知識を習得する。 2) 患者を生物-心理-社会的な視点から多面的に理解し接近する基本姿勢を習得する。 3) 最新医学や社会が直面する諸問題の解決に果たす精神医学の役割を習得する。
目標	I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医として果たすべき責任や使命感をもち、倫理観に基づく行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 精神疾患の病態・診断・治療について理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 新生児・周産期医療、移植、がん治療などにおける心理社会的側面を理解し活用できる。 <input type="checkbox"/> ライフステージにおける発達課題とそのつづき、虐待や心理的外傷、不登校やひきこもり、自殺の増加、高齢化などの諸問題における精神医学の役割を理解し活用できる。 III 医療の実践 患者や家族から病歴を聴取するとともに、問診や観察、諸検査に基づき、精神症状ならびに心理社会的状況を多面的に把握し、適切な診断および治療計画を立案することができる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 <input type="checkbox"/> 患者および家族との適切なコミュニケーション技法を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 精神科治療やリハビリテーションにおける多職種チームの役割を理解し活用できる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 家庭・学校・職場のメンタルヘルスを理解し、精神疾患の予防や健康増進に活用できる。 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉、司法領域と関連、精神科医療に関する法制度について理解し説明できる。 VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドをもち、精神疾患に対する臨床疑問の解決、基礎・臨床レベルでの病態解明や介入手法の開発などにアプローチすることができる。
評価方法	■ 定期試験 (80%) 《Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ》 ■ 受講態度 (20%) 《Ⅰ, Ⅳ, Ⅴ》 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載
授業計画	2025年2月5日(水) 1時限目 精神医学の症候学と診断学 (精神医学：岡田 俊) 【D-15-1)-①～②、D-15-2)-①～②】 2時限目 うつ病と双極症 (精神医学：山内 崇平) 【D-15-3)-⑤～⑥、F-1-31)-①～③】 3時限目 統合失調症とその他の精神病的障害 (精神医学：高田 涼平) 【D-15-3)-④】 4時限目 パーソナリティ障害/強迫症 (精神医学：水井 亮) 【C-5-6)-①～⑤、D-15-3)-⑩、C-5-4)-①～④、D-15-2)-③、D-15-3)-⑦、F-1-31) ①～③】 5時限目 認知行動療法 (精神医学：中尾 智弘) 【C-5-2)-①～③、C-5-8)-①～⑤】 6時限目 脳と精神症状 (精神医学：三村 将) 【C-5-1)-①～③、C-5-7)-①～⑧、D-15-1)-⑤】 2025年2月19日(水) 1時限目 トラウマ関連障害 (精神医学：山内 崇平) 【D-15-3)-⑦】 2時限目 てんかんと精神医学 (精神医学：水井 亮) 【D-2-4)-(7)-①、F-1-8)-①～③】 3時限目 リエゾン精神医学 (精神医学：本多 将人) 【D-15-1)-④】 4時限目 失語・失認 (精神医学：松岡 究) 【C-5-1)-①～③、C-5-7)-①～⑧】 5時限目 認知症と老年精神医学 (精神医学：松岡 究) 【B-1-8)-②～③、D-2-4)-(2)-①～②、D-15-3)-②、E-8-1)-①～⑫、F-1-32)-①～③】 6時限目 不安症、解離症および身体症状症 (精神医学：法山 勇樹) 【C-5-3)-①～④、C-5-4)-①～④、D-15-2)-③、D-15-3)-⑦～⑨、F-1-31)-①～③】 2025年3月5日(水) 1時限目 知的・発達障害と児童精神医学 (精神医学：岡田 俊) 【C-5-5)-①～③、D-15-3)-⑪～⑫、E-7-3)-①、⑥、⑦、⑧、E-7-4)-①～③】 2時限目 摂食障害 (精神医学：山室 和彦) 【F-1-3)-①～③】 3時限目 物質関連障害および嗜癮性障害 (精神医学：高田 涼平) 【B-1-5)-⑤、D-15-3)-③】 4時限目 法と精神医学 (精神医学：藤本 侑花) 【D-15-1)-③、B-1-8)-⑬】 5時限目 精神科リハビリテーション (精神医学：本多 将人) 【C-5-8)-①～⑤】 6時限目 器質性・症状精神病 (精神医学：中村 祐) 【D-15-3)-①】 2025年3月19日(水) 1時限目 生物学的特性とジェンダー、性別違和 (精神医学：太田 豊作) 【C-5-6)-①～⑤】 2時限目 薬物療法とニューロモジュレーション (精神医学：山室 和彦) 【C-3-3)-(1)-①～③、C-3-3)-(2)-①～③、C-3-3)-(3)-①】 3時限目 自殺予防【反転授業】 (精神医学：池原 実伸) 【B-1-5)-④】 4時限目 睡眠-覚醒障害 (精神医学：西 佑記) 【B-1-5)-④、D-15-1)-④】

	5時限目 災害精神医学/産業精神保健 (精神医学; 奥村 和生) 【A-7-1)-⑥、B-1-7)-⑥、B-1-8)-⑬】 6時限目 予防精神医学 (精神医学: 紀本 創兵) 【A-8-1)-①~④、C-4-1)-①~⑦、C-5-5)-③、E-7-4)-②、C-2-3)-①-①~③、C-2-3)-②- ①~③】
授業外学修 (事前学修・事後学修)	
テキスト	なし
参考書	尾崎紀夫、三村將、水野雅文、村井俊哉 (編) 標準精神医学 第8版 (医学書院) (2021年) R. Boland & M. L. Verduin (eds.) Kaplan & Sadock's Synopsis of Psychiatry, 12th. Edition (Wolters Kluwer) (2022年) American Psychiatric Association(編) 高橋三郎、大野裕 (監訳) DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル (医学書院) 2023年
学生へのメッセージ等	精神医学は、精神疾患の病態理解、診断・治療にとどまらず、身体疾患を含むすべての患者の多面的理解や心理社会的な配慮を伴うコミュニケーションなど、臨床医としての基本姿勢や倫理を形作る学問です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
浅田 秀夫			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：皮膚科学 担当教員：浅田秀夫、新熊 悟、宮川 史、小川浩平、正嶋千夏、西村友紀、濱田健吾、福本隆也
概要	皮膚は人体で最大の臓器である。様々な皮膚症状は、皮膚腫瘍のように単に皮膚疾患から生じるものだけでなく、様々な全身疾患の一症状として生じるものも多数ある。当コースでは、臨床実習に必要な皮膚疾患の知識の習得及び活用を目標とし、皮膚疾患だけでなく全身疾患としての皮膚症状についても理解を深める。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □皮膚疾患の病態生理を理解し活用することができる。 □皮膚疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 □各皮膚疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 皮膚症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 チームマネジメントとコミュニケーションをとるための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 皮膚疾患の疾病予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、皮膚科領域における希少疾患や難病に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	■ 定期試験（100%）《I、II、III、IV、V、VI》
《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載	
授業計画	<p>2025年2月6日（木） 5時限目 皮膚の構造と発疹の見方（正嶋千夏） 【D-3-1）-①、D-3-1）-②、D-3-1）-③、D-3-3）-①】</p> <p>6時限目 自己免疫性水疱症（新熊 悟） 【D-3-4）-⑤-①、D-3-4）-⑤-②、D-3-4）-⑤-③】</p> <p>2025年2月14日（金） 4時限目 非上皮系腫瘍 血液疾患の皮膚病変（小川浩平） 【D-3-4）-⑧-①、D-3-4）-⑧-②、D-3-4）-⑧-③、D-3-4）-⑧-⑥】</p> <p>5時限目 蕁麻疹、内臓疾患と皮膚病変（宮川 史） 【D-3-4）-②-①、D-3-4）-②-②、D-3-4）-②-③、D-3-4）-③-①】</p> <p>6時限目 紫外線と皮膚（濱田健吾） 【D-3-4）-⑨-①、D-3-4）-⑨-②】</p> <p>2025年3月3日（月） 4時限目 角化症・炎症性角化症（新熊 悟） 【D-3-4）-⑥-①、D-3-4）-⑥-②】</p> <p>5時限目 湿疹群（西村友紀） 【D-3-4）-①-①、D-3-4）-①-②】</p> <p>6時限目 上皮系腫瘍（福本隆也） 【D-3-4）-⑧-②、D-3-4）-⑧-④】</p> <p>2025年3月6日（木） 2時限目 皮膚疾患まとめ【反転授業】（濱田健吾） 【D-3-1）-①-③、D-3-2）-①-③、D-3-3）-①、D-3-4）-①-⑨】</p> <p>3時限目 皮膚科診断学（浅田秀夫） 【D-3-2）-①、D-3-2）-②、D-3-2）-③】</p>
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	標準皮膚科学(第10版)（富田 靖 監修、医学書院） あたらしい皮膚科学(第3版)（清水 宏 著、中山書店）
参考書	最新皮膚科学大系（全20巻、中山書店） 皮膚科臨床アセット（全20巻、中山書店） 皮膚病理組織診断学入門（斎田 俊明 著、南江堂） Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine, The McGraw-Hill Companies
学生へのメッセージ等	講義には皮膚科学の最新のエッセンスが凝縮されています。必ず出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学Ⅰ	-	必修
担当教員			
北原 紘			
添付ファイル			

全担当教員	北原紘、上村裕和、西村忠己、山下哲範、岡安唯、森本千裕、木村隆浩、山中敏彰、望月隆一、宮坂俊輝
概要	<p>科目担当講座：耳鼻咽喉・頭頸部外科学 関連担当講座：放射線診断・IVR学</p> <p>耳鼻咽喉・頭頸部外科では、感覚器を中心とした神経学から頭頸部領域全体にわたる疾患を広く扱うため、多くの基礎的な知識を習得し活用できるようになることが必要である。 当コースでは臨床実習に必要な耳鼻咽喉・頭頸部外科疾患の知識の習得と機能ならびに形態の修復を目的とした頭頸部外科学の理解、活用を目標とし、系統的な教育を行う。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 基礎となる知識の習得で臨床医として相応しい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/>耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の病態生理を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/>耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/>各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 頭頸部感覚器や耳鼻咽喉科領域の機能および形態の障害を理解し、その知識を活用することで、適切な診断にたどり着くために必要な検査を想定し、治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 耳鼻咽喉・頭頸部外科疾患を通じて、患者・家族・メディカルと良好な関係を築き、その上でチームマネジメントを行うことの重要性を理解することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/>耳鼻咽喉・頭頸部外科疾患の疾病予防や健康増進について説明することができる。 <input type="checkbox"/>感覚器の障害における社会活動の負担を理解し、日常生活を行う中で問題になる障壁を軽減するための態度を示すことができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 国際的に通用する臨床医をめざし、英語論文や報告を活用することで最新の臨床・研究情報を取り入れ、耳鼻咽喉・頭頸部外科疾患に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■受講態度 (10%) 《Ⅰ》 ■定期試験 (90%) 《Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年2月3日(月)</p> <p>4時限目 耳鼻咽喉科総論とめまい救急トリアージ (耳鼻咽喉科：北原 紘) 【D-14-3】-(1)-①② 【D-14-3】-(1)-① 【D-14-3】-(2)-①】</p> <p>5時限目 耳鼻咽喉科から見ためまいの検査と治療 (耳鼻咽喉科：北原 紘) 【D-14-1】-(1)-②⑤ 【D-14-1】-(2)-①】</p> <p>6時限目 耳鼻咽喉科と音声言語医学 (耳鼻咽喉科：望月 隆一) 【D-14-1】-(④) 【D-14-4】-(1)-⑩】</p> <p>2025年2月18日(火)</p> <p>1時限目 聴覚生理と検査法 (耳鼻咽喉科：西村 忠己) 【D-14-2】-(①)】</p> <p>2時限目 難聴疾患とその治療 (耳鼻咽喉科：西村 忠己) 【D-14-4】-(1)-①②】</p> <p>3時限目 口腔・咽頭・唾液腺疾患、顔面神経麻痺 (耳鼻咽喉科：岡安 唯) 【D-14-4】-(1)-⑧】</p> <p>2025年3月4日(火)</p> <p>4時限目 伝音難聴と中耳炎 (耳鼻咽喉科：森本 千裕) 【D-14-4】-11-①②】</p> <p>5時限目 平衡生理とめまい疾患 (耳鼻咽喉科：山中 敏彰) 【D-14-2】-(①) 【D-14-3】-(2)-①】</p> <p>6時限目 鼻・副鼻腔疾患 (耳鼻咽喉科：山下 哲範) 【D-14-4】-(⑤⑥⑦)】</p>

	<p>2025年4月1日(火)</p> <p>4時限目 頭頸部腫瘍総論 (耳鼻咽喉科:上村 裕和) 【D-14-4)-(1)-⑩】</p> <p>5時限目 耳下腺・上顎・口腔腫瘍 (耳鼻咽喉科:上村 裕和) 【D-14-4)-(2)-②】</p> <p>6時限目 咽頭・喉頭腫瘍 (耳鼻咽喉科:木村 隆浩) 【D-14-4)-(2)-①】</p> <p>2025年4月7日(月)</p> <p>6時限目 頭頸部の画像診断 (放射線・核医学科:宮坂 俊輝) 【D-14-4)-(2)-①②】</p> <p>2025年4月10日(木)</p> <p>4時限目 甲状腺疾患 (耳鼻咽喉科:木村 隆浩) 【D-12-3)-(2)-①】</p> <p>本試験:2025年4月24日(木)2時限目 再試験:2025年5月4日(水)1時限目</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	特に指定しない
参考書	<p>① 野村恭也 編著: 新耳鼻咽喉科学 南山堂</p> <p>② 八木聰明ら編: 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 Vol.1, 2, 3, 4, 5 メジカルビュー社</p> <p>③ Byron J. Bailey: Head and Neck Surgery—Otolaryngology 2nd ed volume 1, 2 Lippincott—Raven</p>
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			
全担当教員			
コース担当講座：教育開発センター、泌尿器科学 関連担当講座：大和漢方医学薬学センター、麻酔科学、産婦人科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学			
概要	現代医療で必要とされる漢方の考え方、基本用語、副作用、診断法などの基本的知識および技能を習得することならびに症例に応じて漢方を適正に処方できることを目標とする。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医として相応しい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □漢方の基本用語を説明することができる。 □陰陽、虚実、悪寒、表裏、六病位、血気水について概説できる。 □各疾患における漢方療法を概説できる。</p> <p>III 医療の実践 □漢方処方と「証」の関係、主な漢方薬の構成生薬や副作用について説明できる。 □四診を理解し、実践できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 東洋医学における多職種チームの役割を理解し、説明することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 現代医療の中での漢方の役割について説明できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 □漢方薬とEBMについて説明できる。 □漢方関連の論文を検索し、治療に応用することができる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度 (20%) 《I、IV》 ■定期試験 (80%) 《II、III、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンシ番号を記載</p>		
授業計画	<p>2025年4月3日(木) 2限 漢方医学 基礎1 (大和漢方医学薬学センター 三谷和男) 【F-2-8)-⑬】</p> <p>3限 漢方医学 応用1 (耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岡安唯) 【F-2-8)-⑬】</p> <p>4限 漢方医学 応用2 (耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岡安唯) 【F-2-8)-⑬】</p> <p>5限 漢方医学 発展1 婦人科疾患と漢方 (産婦人科学 市川麻祐子) 【F-2-8)-⑬】</p> <p>6限 漢方医学 発展2 疼痛疾患と漢方 (麻酔科学 藤原亜紀) 【F-2-8)-④, ⑧】</p> <p>2025年4月7日(月) 4限 漢方医学 発展3 泌尿器科疾患と漢方 (泌尿器科学 後藤大輔) 【F-1-28)-①, ②, ③】</p> <p>2025年4月10日(木) 5限 漢方医学 グループワーク (大和漢方医学薬学センター 三谷和男、教育開発センター 若月幸平) 【F-2-8)-⑬】</p> <p>【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>		
授業外学修(事前学修・事後学修)	積極的に事前学習をすること。		
テキスト	学生のための漢方医学テキスト 編集：日本東洋医学会(南江堂)		
参考書	漢方医学 大塚敬節著(創元社) 漢方医学のABC 編集：日本医師会(医学書院) 基本がわかる漢方医学講義 編集：日本漢方医学教育協議会(羊土社)		
学生へのメッセージ等	コアカリキュラムの中にも「漢方薬の特徴や使用の現状について概説できる」が入っています。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
笠原 敬			
添付ファイル			

全担当教員	科目担当講座：感染症内科学 関連担当講座：小児科学、泌尿器科学、薬理学、病原体・感染防御医学、微生物感染症学、免疫学
概要	臨床実習に必要な感染症診療および感染対策の基本的な考え方を習得し、活用することを目標とし、系統的な教育を行う
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □感染症の診断・治療の総論、各論を理解し、説明することができる □標準予防策や感染経路別予防策を理解し、活用することができる □抗菌薬や薬剤耐性菌について理解し、説明することができる</p> <p>III 医療の実践 臨床情報から感染症の診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画や感染予防策を立案することができる</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 チーム医療における医師の役割を理解することができる</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 ワクチンの種類や有効性について理解し、説明できる</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 新興再興感染症の歴史・疫学・病態を理解することができる</p>
評価方法	<p>■受講態度 (10%) 《I》</p> <p>■定期試験 (90%) 《II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年4月30日 (水)</p> <p>1時限目 HIV感染症/AIDS (南奈良総合医療センター：宇野健司) 【E-2-4)-(1)-(6)】</p> <p>2時限目 消化器・腹腔内感染症 (病原体・感染防御医学：西村知子) 【D-7-4)-(3)-(12)、D-7-4)-(4)-(1)~(4)、D-7-4)-(7)-(1)】 【E-2-2)-(2)、E-2-2)-(3)、E-2-2)-(4)】</p> <p>3時限目 ワクチン (大阪医科薬科大学：小川 拓) 【E-2-2)-(7)】</p> <p>2025年5月13日 (火)</p> <p>1時限目 中枢神経系感染症・頭頸部感染症 (堺市立総合医療センター：小川吉彦) 【D-2-4)-(3)-(1), (2)】</p> <p>2時限目 微生物概論と感染症検査 (微生物感染症学：矢野寿一) 【E-2-2)-(2)、E-2-2)-(3)、E-2-2)-(4)】</p> <p>3時限目 寄生虫疾患 (平成記念病院：吉川正英) 【E-2-4)-(3)-(3)、E-2-4)-(3)-(4)】</p> <p>2025年5月21日 (水)</p> <p>4時限目 抗菌化学療法薬総論 (薬理学：京谷陽司) 【E-2-2)-(5)】</p> <p>5時限目 小児感染症 (小児科学：大西智子) 【E-7-3)-(3)、E-7-3)-(4)】</p> <p>6時限目 呼吸器感染症 (免疫学：古川龍太郎) 【D-6-4)-(2)-(1)~(7)】</p> <p>2025年5月26日 (月)</p> <p>1時限目 薬剤耐性菌総論 (微生物感染症学：中野竜一) 【E-2-1)-(4)】</p> <p>2時限目 感染管理【反転授業】 (感染症内科学：今北菜津子) 【E-2-1)-(2), (3)、E-2-2)-(6)、E-2-4)-(5)-(1), (2)】</p> <p>3時限目 皮膚軟部組織・骨関節感染症 (感染症内科学：今北菜津子) 【D-3-4)-(7)、D-4-4)-(2)、E-2-4)-(2)-(1), (2)】</p> <p>2025年6月6日 (金)</p> <p>4時限目 感染症概論 (感染症内科学：笠原 敬) 【E-2-1)-(1)~(7)、E-2-2)-(1)~(8)、E-2-3)-(1)~(23)、E-2-4)-(1)-(1)~(10)、E-2-4)-(2)-(1)~(13)、E-2-4)-(3)-(1)~(4)、E-2-4)-(4)-(1)~(4)、E-2-4)-(5)-(1)~(3)】</p>

	<p>5時限目 職業感染, ウイルス感染症 (感染症内科学: 笠原 敬) 【A-6-3)-①~⑤、E-2-4)-(1)-①~⑩】</p> <p>6時限目 新興再興感染症, 新型コロナウイルス感染症 (大阪大学大学院医学系研究科・医学部 感染制御学: 忽那賢志) 【E-2-1)-⑦、E-2-4)-(2)-⑫】</p> <p>2025年6月12日 (木)</p> <p>1時限目 菌血症・敗血症 (感染症内科学: 笠原 敬) 【E-2-1)-①】</p> <p>2時限目 性器・尿路感染症 (前立腺小線源治療学: 田中宣道) 【D-8-4)-(5)-①、D-8-4)-(8)-②】</p> <p>本試験: 2025年7月15日 (火) 10:10 ~ 11:10 (2時限目) 再試験: 2025年9月11日 (木) 9:00 ~ 10:00 (1時限目)</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	なし
テキスト	<p>【感染症全般】 笠原敬の感染症の教室 https://www.youtube.com/@keikasahara (笠原のYouTubeチャンネルです)</p> <p>【感染症全般】 抗菌薬テキスト (ダウンロード版) MBT感染対策支援コンサルティング株式会社 笠原敬 https://mbtinfection.base.shop/items/65386933</p> <p>【感染症全般】 UpToDate(R) http://www.uptodate.com (言わずと知れたUpToDate. 学生レベルならこれを読めばほぼ十分です)</p> <p>【感染症全般】 Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 9th ed (2019) Saunders John E. Bennett 他 (編集) (英語ですが、臨床感染症の教科書の王道です)</p> <p>【感染症全般】 レジデントのための感染症診療マニュアル (第4版、2020年) 医学書院 青木眞 (著) (日本語の臨床感染症の教科書のバイブル的存在です)</p> <p>【抗菌薬】 抗菌薬の考え方、使い方 (ver.5、2022) 中外医学社 岩田健太郎 (著) (抗菌薬を学ぶ教科書のバイブル的存在です)</p> <p>【小児科】 レジデントのための小児感染症診療マニュアル (2022年) 医学書院 斎藤昭彦 (編集)</p> <p>【寄生虫学】 図説人体寄生虫学 (改訂第10版、2021年) 南山堂 寄生虫学会 (編集)</p> <p>【寄生虫学】 寄生虫薬物治療の手引き 2020年改訂版 https://www.nettai.org</p>
参考書	<p>【感染症全般】 感染症専門医テキスト 南江堂 日本感染症学会 (編集)</p> <p>【感染症全般】 感染症の診断・治療ガイドライン 日本医師会 厚生労働省健康局結核感染症課 (監修)</p> <p>【感染症全般】 抗菌薬適正使用生涯教育テキスト 杏林舎 日本化学療法学会 (編集)</p> <p>【感染症全般】 シュロスバーグの臨床感染症学 (第2版、2024年) メディカル・サイエンス・インターナショナル David Schlossberg (著)、岩田健太郎 (翻訳)</p> <p>【感染症全般】 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 (第2版、2018年) メディックメディア</p> <p>【感染症全般】 薬がみえる vol.3 感染症と薬ほか (第2版、2023年) メディックメディア</p> <p>【感染対策】 ねころんで読めるCDCガイドライン 矢野邦夫 メディカ出版 (シリーズ物で、No.1~No.4まであります。名前の通り、ねころんで読みましょう)</p> <p>【感染対策】 感染対策40の鉄則 坂本史衣 医学書院 (聖路加国際病院で感染対策を実践している著者による力作です。読み応えがあります)</p> <p>【抗菌薬】 日本語版 Sanford 感染症治療ガイド2023 ライフサイエンス株式会社 (教科書というよりは、マニュアル的な存在です)</p> <p>【抗菌薬】 感染症プラチナマニュアルVer.8 2023-2024 メディカル・サイエンス・インターナショナル 岡秀昭 (著) (名前通り、マニュアルとしてかなり広い範囲をコンパクトに網羅しています)</p> <p>【抗菌薬】 ケースで学ぶ抗菌薬選択の考え方 小川吉彦 (著)</p> <p>【感染対策】 ICDテキスト メディカ出版 ICD制度協議会 (監修)</p> <p>【小児科】 小児感染症マニュアル 東京医学社 日本小児感染症学会</p> <p>【小児科】 小児感染免疫学 朝倉書店 日本小児感染症学会</p> <p>【小児科】 Nelson Textbook of Pediatrics, 21th ed Elsevier Robert M. Kliegman 他 (編集)</p> <p>【泌尿器科】 Campbell-Walsh Urology, 12th ed. Review, 3rd ed. Elsevier Alan J. Wein 他 (編集)</p> <p>【泌尿器科】 JAID/JSC 感染症治療ガイド2023</p> <p>【泌尿器科】 性感染症 診断・治療ガイドライン2020</p> <p>【薬理学】 ラング・デール薬理学 丸善 渡邊直樹 (著)</p> <p>【薬理学】 New 薬理学 南江堂 田中千賀子 (編集)</p> <p>【薬理学】 Goodman & Gillman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, McGraw-Hill.</p> <p>【寄生虫学】 寄生虫薬物治療の手引き 熱帯病治療薬研究班HP (http://trop-parasit.jp)</p> <p>【細菌学】 Bacterial pathogenesis: a molecular approach ASM Press Abigail A. Salyers 他 (編集)</p> <p>【渡航医学】 診療所で診るトラベルメディスン 日本医事新報社 大越裕文 (著)</p> <p>【渡航医学】 キーストンのトラベル・メディスン メディカルサイエンスインターナショナル 岩田健太郎 (監訳/訳)</p> <p>【熱帯感染症】 Atlas of Tropical Medicine and parasitology 7th Mosby Wallace Peters MD(London) (著)</p> <p>【ワクチン】 予防接種の現場で困らないまるわかりワクチンQ&A<第3版>【電子版付】 日本医事新報社 中野貴司 (編著)</p> <p>【呼吸器感染症】 呼吸器感染症治療ガイドライン 杏林舎 JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会 (編集)</p> <p>【呼吸器感染症】 結核診療ガイド 日本結核病学会 南江堂</p> <p>【健康管理】 医療機関における産業保健活動ハンドブック 公益財団法人産業医学振興財団 相澤好治 (監修) 和田耕治 (編著)</p> <p>【新興再興感染症】 輸入感染症 A to Z ver2 中外医学社 忽那賢志 (著)</p> <p>【HIV】 HIV診療の『リアル』を伝授します 丸善出版 青木眞 (協力) 福武勝幸・山元泰之 (監修)</p> <p>【HIV】 抗HIV治療ガイドライン2024年3月. HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究班 抗HIV治療ガイドライン2024年3月版 (hiv-guidelines.jp)</p> <p>【HIV】 HIV感染症「治療の手引き」第27版 2023年11月発行 hiv_27.pdf (hivjp.org)</p>
学生へのメッセージ等	<p>「感染症」は、微生物学や免疫学、薬理学や内科学などの知識と経験を総動員して「臓器横断的に」患者を診る学問です。手技は少ないですが、その分「アタマ」をフル回転して目の前の患者を診察します。また「感染対策」は、皆さんがどの診療科に行っても必要な知識と技能です。学生の皆さんの積極的な講義への参加と取り組みを期待しています!</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
高橋 裕			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：糖尿病・内分泌内科学 関連担当講座：腎臓内科学、循環器内科学、脳神経内科学、産婦人科学、眼科学、消化器内科学、小児科学、病理診断学
概要	1) 内分泌・代謝系の意義、調節機構を理解するために、恒常性維持における役割、内分泌腺とホルモンの調節機構並びに受容体の作用機構についての知識を修得する。 2) 内分泌疾患代謝疾患の病態、診断と治療について理解するために、内分泌・代謝系の破綻を来す原因と診断に必要な検査法、治療についての知識を修得する。 3) 代謝・栄養疾患（糖尿病、肥満、脂質代謝異常、痛風その他）の病因と病態、及び診断と治療についての知識を修得する。 4) 代謝異常と栄養障害による疾患の診断と治療、並びに予防のための生活習慣について患者に指導ができる知識を修得する。
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 内分泌代謝栄養疾患の病態生理を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 内分泌代謝栄養疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。 III 医療の実践 全身的症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 チーム医療およびスタッフ間のコミュニケーションの重要性を理解できる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 代謝系疾患の疾病予防や健康増進について説明することができる。 VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、内分泌代謝系の稀少疾患や難病に対してアプローチすることができる。
評価方法	■ 受講態度 (30%) 《I》 ■ 定期試験 (70%) 《II、III、IV、V、VI》 《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載
授業計画	2025年5月9日（金） 4限目 内分泌学総論（糖尿病・内分泌内科学：高橋 裕） 【D-12-1)-①②⑥、D-12-2)-①②③④、D-12-3)-(3)-②】 5限目 糖尿病の概念と病型分類・診断（糖尿病・内分泌内科学：高橋 裕） 【D-12-1)-⑨、D-12-4)-(5)-①】 6限目 成長障害、成長ホルモン分泌不全性低身長症（小児科：野上 恵嗣） 【D-12-3)-(1)-①、D-12-4)-(1)-⑤】 2025年5月16日（金） 1限目 視床下部・下垂体（糖尿病・内分泌内科学：高橋 裕）【D-12-1)-③】 2限目 下垂体前葉疾患（糖尿病・内分泌内科学：高橋 裕）【D-12-4)-(1)-①②③④⑥】 3限目 Ca代謝異常、副甲状腺疾患、骨粗鬆症（糖尿病・内分泌内科学：樽松 由佳子） 【D-4-4)-(1)-⑤、D-12-1)-④、D-12-4)-(3)-①②③④】 2025年5月20日（火） 4限目 下垂体後葉疾患、SIADH（糖尿病・内分泌内科学：高橋 裕）【D-12-4)-(1)-⑦】 5限目 糖尿病の治療（糖尿病・内分泌内科学：岡田 定規）【D-12-4)-(5)-②③④】 6限目 肥満とメタボリックシンドローム、痛風（糖尿病・内分泌内科学：岡田 定規） 【D-12-1)-⑧⑨、D-12-2)-⑤、D-12-3)-(3)-①、D-12-4)-(7)-①②】 2025年5月29日（木） 4限目 脂質異常症の診断と治療（循環器内科：中田 康紀）【D-12-4)-(6)-①②、D-12-1)-⑨】

	<p>5限目 糖原病と低血糖 (小児科:長谷川 真理) 【D-12-1)-(9)、D-12-4)-(5)-(5)】</p> <p>6限目 糖尿病性腎症 (腎臓内科:鮫島 謙一) 【D-8-4)-(6)-(1)】</p> <p>2025年6月10日(火)</p> <p>1限目 糖尿病性網膜症 (眼科:上田 哲生) 【D-13-4)-(1)-(6)】</p> <p>2限目 副腎1 (糖尿病・内分泌内科学:紙谷 史夏) 【D-12-1)-(5)、D-12-4)-(4)-(1)③④】</p> <p>3限目 副腎2 (糖尿病・内分泌内科学:紙谷 史夏) 【D-12-1)-(5)、D-12-1)-(7)、D-12-4)-(4)-(2)、D-12-4)-(10)-(2)】</p> <p>2025年6月13日(金)</p> <p>4限目 男性性腺機能低下症 (糖尿病・内分泌内科学:樽松 由佳子) 【D-9-1)-(1)、D-12-1)-(7)】</p> <p>5限目 糖尿病と妊娠 (産婦人科:牧野 祐子) 【D-10-4)-(5)】</p> <p>6限目 重金属代謝異常 (消化器内科:辻 裕樹) 【D-12-4)-(8)-(1)、D-12-4)-(9)-(1)②③】</p> <p>2025年6月19日(木)</p> <p>2限目 甲状腺機能亢進症 (糖尿病・内分泌内科学:中島 拓紀) 【D-12-1)-(4)、D-12-3)-(2)-(2)、D-12-4)-(2)-(1)】</p> <p>3限目 甲状腺機能低下症 (糖尿病・内分泌内科学:中島 拓紀) 【D-12-4)-(2)-(2)③】</p> <p>2025年6月24日(火)</p> <p>1限目 糖尿病性神経症 (脳神経内科:小林 正樹) 【D-2-4)-(5)-(1)】</p> <p>2限目 脂質異常症と動脈硬化 (循環器内科:妹尾 絢子) 【D-5-4)-(7)-(1)】</p> <p>3限目 内分泌疾患の病理 (病理診断学:武田 麻衣子) 【D-12-4)-(10)-(1)②③】</p> <p>2025年6月27日(火)</p> <p>2限目 NET、MEN、APS (糖尿病・内分泌内科学:樽松 由佳子) 【D-12-1)-(6)】</p> <p>3限目 未知の病態に遭遇した時の考え方 (糖尿病・内分泌内科学:高橋 裕) 【A-2-1)、A-3-1)、A-8-1)、B-4-1)、D-12-4)】</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	
参考書	<p>Williams Textbook of Endocrinology 15th Ed. (Willson & Foster : Saunders)</p> <p>Endocrinology 3rd Ed. (Leslie J. DeGroot : Saunders)</p> <p>内分泌代謝科専門医研修ガイドブック (日本内分泌学会編 診断と治療社)</p> <p>糖尿病学—基礎と臨床(門脇孝他 西村書店)</p> <p>内科学I・II (金澤一郎他編 医学書院)</p> <p>Harrison's Principles of Internal Medicine 20th Ed.</p> <p>Joslin's Diabetes Mellitus 13th Ed. (Kahn & Weir : Lea & Febiger)</p> <p>糖尿病専門医研修ガイドブック (日本糖尿病学会編 診断と治療社)</p>
学生へのメッセージ等	<p>糖尿病・内分泌学では、インスリンをはじめとするホルモンによる全身の恒常性維持機構とその破綻による疾患について学びます。</p> <p>内分泌臓器から分泌されるホルモンには極めて精緻な制御機構があり内外のストレスに適切に応答することによって、心と体を調節しています。そして適切なホルモン分泌が起らなくなると様々な内分泌疾患が生じます。また種々の代謝栄養疾患、特に糖尿病の病態・合併症・治療について解説します。</p> <p>内分泌代謝学はロジックな学問ですので、知性と感性を磨いて楽しんでください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
山川 延宏			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：口腔外科学		
概要	口腔疾患は、内科、外科、病理診断、画像診断さらには発生的な知識の習得が必要である。当コースでは、臨床実習に必要な口腔疾患の知識の習得を目指した系統的な教育を行う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □口腔疾患の病態生理を理解し活用することができる。 □口腔疾患の診断法や治療法を理解し活用することができる。 □各疾患の治療法の選択やその成績を疾患別に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 口腔症状やその付随症状から臨床推論により、診断に必要な検査を想定し、適切な治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 口腔疾患における多職種チームの役割を理解し、説明することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 口腔疾患の予防や健康増進について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、顎口腔領域の希少疾患や治療成績の改善に対してアプローチすることができる。</p>		
評価方法	定期試験 (80%) 《II, III, IV, V, VI》 受講態度 (20%) 《I》 本試験予定：2025年7月16日 (水) 2時限目 《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載		
授業計画	2025年5月9日 (金) 1限目 歯・口腔の構造・う蝕・歯周病 (山川延宏) 【D-14-4)-(1)-⑨】 2限目 口腔疾患の病理 (腫瘍・非腫瘍) (笹平智則) 【D-14-4)-(2)-①, F-3-2)-③】 3限目 唾液腺疾患の病理 (笹平智則) 【D-14-4)-(1)-⑫, D-14-4)-(2)-①, E-3-2)-③】 2025年5月15日 (木) 1限目 口腔疾患と全身疾患のかかわり (中村泰士) 【D-14-4)-(1)-⑨】 2限目 唾液腺疾患 (中村泰士) 【D-7-1)-⑬, D-14-4)-(1)-⑫】 3限目 顎発育と異常【反転講義】 (川上正良) 【D-14-4-1)-⑨】 2025年5月20日 (火) 1限目 顎関節疾患・薬剤関連顎骨壊死 (大澤政裕) 【D-4-4)-(1)-②, D-14-3)-11)-①】 2限目 歯牙外傷・顎顔面外傷 (仲川洋介) 【D-7-1)-⑬, D-4-4)-(1)-③】 3限目 口腔の先天異常【反転講義】 (山川延宏) 【D-14-1)-③】 2025年5月28日 (水) 1限目 口腔潜在的悪性疾患と悪性腫瘍 (山川延宏) 【D-14-4)-(2)-①, E-3-1)-③, F-3-5)-(3)-⑩, E-3-3)-①, E-3-3)-②, E-3-3)-③, E-3-3)-④】 2限目 口腔顎顔面再建 (山川延宏) 【D-7-1)-⑭, D-14-4)-(1)-⑨, D-14-4)-(2)-①】 3限目 歯原性腫瘍・歯原性嚢胞 (仲川洋介) 【D-7-1)-⑬】		

	2025年6月9日（月）	
	4限目 摂食と嚥下機能（館村 卓）	【D-7-1)-(14), D-14-3)-(2), E-8-1)-(3), E-8-1)-(7)】
	5限目 口腔疾患まとめ講義（山川延宏）	【D-7-1)-(13), D-14-1)-(3), D-14-4)-(1)-(9), F-3-5)-(3)-(6)】
授業外学修（事前学修・事後学修）		
テキスト	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議 編： 口の中がわかるービジュアル歯科口腔科学読本ー2017 クインテッセンス出版 第1版 白砂兼光・古郷幹彦 編：口腔外科学 2020（医歯薬出版）第4版	
参考書	Kirita, T., Omura, K. : Oral Cancer. 1st. ed. 2015, Springer El-Nagger, A., Chan J. K. C., et al : WHO Classification, Head and Neck Tumours. 2017, IARC. Shah, J. P. : Oral Cancer. 1st. ed. 2003, Martin Dunitz Shah, J. P. : Head & Neck Surgery & Oncology. 4th. ed, 2012, Mosby. 石川悟朗 : 口腔病理学I 1989（永末書店）第3版、口腔病理学II 1982（永末書店）第2版 日本口腔腫瘍学会、日本口腔外科学会/編：口腔癌診療ガイドライン 2023金原出版 日本口腔腫瘍学会/編：口腔癌取扱い規約 2019（金原出版）第2版 桐田忠昭・原田浩之 編集：口腔癌 OEAL CANCER 上巻 下巻 2023医歯薬出版株式会社 第1版	
学生へのメッセージ等		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
木村 文則			
添付ファイル			

全担当教員	<p>コース担当講座：産婦人科学 担当教員：木村文則、前川 亮、市川麻祐子、木村麻衣、河原直紀、杉本 澄美玲 関連担当講座：総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門</p>
概要	<p>1) 女性は新しい生命を育む性であるとの認識のもとに、その尊厳を守るために健全な生殖現象の成立に必要な生理機能とこれを阻害する因子を理解する。 2) 次世代を担う新しい生命の健やかな成長を守るために、妊娠・分娩・産褥という一連の生殖過程における母体および胎児・新生児の生理・病理を理解する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 周産期医療に携わる臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 性周期、女性内分泌、排卵の仕組みを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 正常および異常の妊娠・分娩・産褥の病態生理について理解し、診断法・治療法に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 産科手術について理解し、説明することができる。 <input type="checkbox"/> 正常新生児、新生児の感染症・呼吸障害・感染症・血液疾患について理解し、診断法・治療法を説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 妊婦および新生児の症状・訴えから、診断に必要な検査を想定し、適切な治療方針を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医師、助産師、看護師との円滑なコミュニケーションを築くための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 妊娠前・妊娠時期・産褥期にかけて包括的に女性の健康管理を説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、周産期領域における疾患や疫学的研究に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (25%) 《I》 ■ レポート (25%) 《II、III、IV、V、VI》 ■ 定期試験 (50%) 《II、III、IV、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年5月8日(木)</p> <p>1時限目 新生児学総論（新生児集中治療部門：内田優美子） 【E-7-1】</p> <p>2時限目 低出生体重児の特徴（新生児集中治療部門：内田優美子） 【E-7-1）-⑦⑩】</p> <p>3時限目 胎児超音波診断、妊娠と薬（産婦人科学：市川麻祐子） 【D-10-1）-③、D-10-3）-⑧】</p> <p>2025年5月26日(月)</p> <p>4時限目 性周期と女性生殖内分泌・排卵（産婦人科学：木村文則） 【D-9-1）-⑧、D-9-2）-(2)-①】</p> <p>5時限目 妊娠の成立と維持・妊娠時の母体の変化（産婦人科学：前川 亮） 【D-10-1）-①②、D-10-2）-③、D-10-3）-①】</p> <p>6時限目 胎児胎盤ユニット・分娩の三要素（産婦人科学：前川 亮） 【D-10-3）-②⑥】</p> <p>2025年5月30日(金)</p> <p>1時限目 新生児仮死と成熟児の呼吸障害（新生児集中治療部門：釜本智之） 【E-7-1）-⑤⑧】</p> <p>2時限目 感染・血液疾患（新生児集中治療部門：釜本智之） 【D-1-4）-(2)-④、D-10-4）-⑤】</p> <p>3時限目 産科感染症、母体保護法（産婦人科学：杉本澄美玲）</p> <p>2025年6月10日(火)</p>

	<p>4時限目 正常分娩の機序 (産婦人科学: 木村麻衣) 【D-10-2)-①②、D-10-3)-④】</p> <p>5時限目 妊娠初期の異常 (産婦人科学: 木村麻衣) 【D-10-2)-①②、D-10-4)-①】</p> <p>6時限目 胎児機能不全、胎児発育遅延、胎児胎盤機能診断法 (産婦人科学: 木村麻衣) 【D-10-1)-③、D-10-4)-①、E-7-1)-④】</p> <p>2025年6月23日(月)</p> <p>1時限目 前置胎盤、常位胎盤早期剥離 (産婦人科学: 前川 亮) 【D-10-4)-②】</p> <p>2時限目 分娩時期の異常、前期破水、羊水量の異常 (産婦人科学: 前川 亮) 【D-10-4)-②】</p> <p>3時限目 多胎妊娠、ハイリスク妊娠、妊娠高血圧症候群 (産婦人科学: 前川 亮) 【D-10-4)-①】</p> <p>2025年6月27日(金)</p> <p>4時限目 胎位・胎勢の異常、娩出力の異常、遷延分娩、分娩停止 (産婦人科学: 河原直紀) 【D-10-4)-②】</p> <p>5時限目 産科出血、産道損傷、産科手術学 (産婦人科学: 河原直紀) 【D-10-4)-④、D-10-5)-①②】</p> <p>2025年7月1日(火)</p> <p>1時限目 産褥期、出生前診断 (産婦人科学: 市川麻祐子) 【D-10-1)-④、D-10-3)-⑤、⑥、D-10-4)-③】</p> <p>2時限目 周産期医学のまとめ【反転授業】 (産婦人科学: 市川麻祐子)</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前資料の熟読
テキスト	病気がみえる 産科 医療情報科学研究所 (編集) メディックメディア (発行) ウィリアムス臨床産科マニュアル メジカルビュー社
参考書	Williams Obstetrics, 24th ed. F. G. Cunningham他 著 McGrawhill社
学生へのメッセージ等	次世代を担う新しい生命の健やかな成長を守るためには必要な知識となる周産期の学習を、学生の皆様に解かりやすく、ご提供します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
木村 文則			
添付ファイル			

全担当教員	<p>コース担当講座：産婦人科学 担当教員：木村文則、川口龍二、岩井加奈、山田有紀 関連担当講座：放射線診断・IVR学、病理診断学</p>
概要	<p>1) 女性は新しい生命を育む性であるとの認識のもとに、その尊厳を守るために健全な生殖現象の成立に必要な生理機能とこれを阻害する因子を理解する。 2) 全世代の女性の健康を守るために、女性生殖器の発育・形成・機能・腫瘍などについて包括的に理解する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 婦人科疾患に携わる臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 女性生殖器の発育・形成・機能・先天異常について理解することができる。 <input type="checkbox"/> 婦人科腫瘍（良性・悪性ともに）の病態生理について理解し、診断法・治療法に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 不妊症・不育症について理解し、診断法・治療法に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 卵巣機能障害、月経異常、更年期障害について理解し、診断法・治療法を説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 若年女性から高齢女性まで、その症状・訴えから、診断に必要な検査を想定し、適切な治療方針を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医師、看護師との円滑なコミュニケーションを築くための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 全世代の女性に対して包括的に健康管理を説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、婦人科疾患や疫学的研究に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (25%) 《I》 ■ レポート (25%) 《II、III、IV、V、VI》 ■ 定期試験 (50%) 《II、III、IV、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年5月1日(木)</p> <p>1時限目 女性生殖器の発育、形成、機能、生殖器の先天異常（産婦人科学：川口龍二） 【D-9-1)-(6)、(7)、D-9-2)-(2)-(4)、D-9-4)-(2)-(1)】</p> <p>2時限目 性器脱、更年期障害、骨粗鬆症、婦人科感染症（産婦人科学：川口龍二） 【D-9-1)-(9)、D-9-3)-(3)-(1)、D-9-4)-(2)-(2)、D-9-4)-(2)-(6)】</p> <p>3時限目 婦人疾患の画像診断 MRIを中心に（放射線診断・IVR学：伊藤高広） 【D-9-2)-(2)-(2)】</p> <p>2025年5月12日(月)</p> <p>4時限目 卵巣機能障害、月経異常、産婦人科漢方医学（産婦人科学：木村文則） 【D-9-2)-(2)-(1)、(3)、D-9-3)-(4)-(5)、D-9-4)-(2)-(2)、D-9-4)-(2)-(6)】</p> <p>5時限目 子宮筋腫・子宮腺筋症・子宮内膜症（産婦人科学：木村文則） 【D-9-3)-(4)-(1)、(2)、(3)、D-9-4)-(2)-(4)、D-9-4)-(2)-(5)】</p> <p>6時限目 不妊症、不育症（産婦人科学：木村文則） 【D-9-4)-(2)-(3)】</p> <p>2025年5月16日(金)</p> <p>4時限目 子宮頸部上皮異形成と子宮頸癌（産婦人科学：山田有紀） 【D-9-4)-(3)-(3)】</p> <p>5時限目 子宮内膜増殖症と子宮体癌（産婦人科学：川口龍二） 【D-9-4)-(3)-(3)】</p> <p>6時限目 卵巣腫瘍（産婦人科学：川口龍二） 【D-9-3)-(4)-(2)、(3)、D-9-4)-(3)-(4)】</p> <p>2025年5月27日(火)</p> <p>1時限目 産婦人科領域の病理診断学（病理診断学：内山智子）</p>

	<p>【D-9-4)-(3)-③、④、⑤】</p> <p>2時限目 産婦人科領域の病理診断学（病理診断学：内山智子） 【D-9-4)-(3)-③、④、⑤】</p> <p>3時限目 婦人疾患のまとめ【反転授業】（産婦人科学：岩井加奈）</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前資料の熟読
テキスト	病気がみえる 婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所（編集）メディックメディア（発行） 標準産科婦人科学（標準医学シリーズ） 岡井 崇, 綾部 琢哉 出版 医学書院
参考書	Berek and Novak's Gynecology, 15th ed. J. S. Berek他編 出版 Lippincott Williams & Wilkins
学生へのメッセージ等	女性生殖器の解剖と機能、および女性特有の内分泌生理、さらにはこれらに生ずる機能的ならびに器質的疾患を学び、女性が一生を通じて生活の質（QOL）を維持できるよう支援可能となる知識を身につけましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
磯橋文明			
添付ファイル			

全担当教員	<p>コース担当講座： 放射線腫瘍医学 関連担当講座・部門： がんゲノム・腫瘍内科学、放射線診断・IVR学、医療情報部、消化器・統合外科学、中央内視鏡部、中央放射線部、呼吸器内科学、薬理学、免疫学、疫学・予防医学、病理診断学、分子病理学、緩和ケアセンター、精神医学、中央臨床検査部</p>
概要	<p>悪性腫瘍の診断、治療等、臨床腫瘍学を総論的、各論的に修得するために、関連する分野の基礎医学から臨床医学までの広範囲に亘る領域を系統的に理解する事を目標とする。そのため、腫瘍に関連する疫学、病理・病態、分子生物学、検診、検査、診断、外科療法、放射線療法、薬物療法、ゲノム医療、免疫療法、IVR、緩和ケア、サイコオンコロジーなどについて総合的に学習する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍の診断から治療までの概要を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍の病理・病態の概要を理解し活用することができる。 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍の代表的な治療（外科療法、放射線療法、薬物療法など）の原則と概要を理解し活用することができる。</p> <p>III 医療の実践 代表的な悪性腫瘍症例の画像診断、病期診断を行い、適切な治療方針を検討・立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 各診療科、各医療職からなるチーム医療の一員としての役割を理解し、説明することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 主要な悪性腫瘍の危険因子と予防に関する疫学的知見を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍に対する適切な検査、治療について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、悪性腫瘍に対してアプローチすることができる。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《I》 ■ 定期試験 (90%) 《II, III, IV, V, VI》 本試験：2025年7月17日(木) 4限目 追試験：2025年9月18日(木) 3限目</p>
授業計画	<p>2025年4月28日(月) 1限目 悪性腫瘍の診断から治療までの概要と集学的癌治療(放射線腫瘍医学：磯橋文明) 【C-4-6)-⑤、E-3-1)-①②③、E-3-2)-①②、E-3-3)-①】 2限目 癌の外科治療の原則(消化器・統合外科学：庄 雅之) 【E-3-3)-②】 3限目 抗腫瘍薬の分類と概要(薬理学：京谷陽司) 【C-4-1)-⑦、E-3-3)-④、F-2-8)-⑥】</p> <p>2025年5月7日(水) 4限目 薬物療法の原則・適用と支持療法(がんゲノム・腫瘍内科学：吉井由美) 【E-3-3)-④⑥、F-2-8)-⑥】 5限目 癌の緩和医療(緩和ケアセンター：四宮敏章) 【E-3-3)-⑦、E-3-4)-②③、E-9-1)-⑦⑨⑩、F-2-8)-⑦、F-2-16)-①②③④⑤⑥】 6限目 微小環境における腫瘍-宿主相互作用(分子病理学：國安弘基) 【C-4-6)-②】</p> <p>2025年5月19日(月) 4限目 臨床腫瘍学における病理診断学の役割(病理診断学：吉澤明彦) 【C-4-2)-①②③、C-4-6)-③、E-3-2)-③、F-2-3)-⑩、F-2-4)-①②】 5限目 免疫学的腫瘍制御理論と免疫療法(免疫学：伊藤利洋) 【C-3-2)-③-①③、C-3-2)-④-⑤】 6限目 放射線治療の原則・適用、放射線の生体への影響・障害(放射線腫瘍医学：磯橋文明) 【E-3-3)-③、E-6-1)-①②③④⑥⑦、E-6-2)-③④、E-6-4)-①、F-2-5)-③④】</p> <p>2025年5月22日(木) 1限目 癌の増殖進展と転移機転(消化器・統合外科学：中村広太) 【C-4-6)-⑥】 2限目 放射線治療における放射線物理学と治療機器(放射線腫瘍医学：若井展英) 【E-3-3)-③、F-2-5)-③】 3限目 がん検診の意義(中央放射線部：伊藤高広) 【B-1-4)-⑤】</p> <p>2025年5月27日(火) 4限目 分子標的治療、ゲノム医療の現状と展開(がんゲノム・腫瘍内科学：武田真幸)</p>

	<p>【C-3-2)-(4)-⑤、D-6-4)-(9)-①、E-3-3)-④、F-2-8)-⑫】</p> <p>2025年5月29日(木) 5限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：脳、造血器(放射線腫瘍医学：八巻香織) 【D-1-4)-(4)-⑧⑨、D-2-4)-(10)-①、E-3-5)-①②】 6限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：乳腺、皮膚(放射線腫瘍医学：八巻香織) 【D-3-4)-(8)-③④⑤、D-11-4)-(2)-①、E-3-5)-③⑩】</p> <p>2025年6月5日(木) 4限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：婦人科、泌尿器(放射線腫瘍医学：浅川勇雄) 【D-8-4)-(9)-①②、D-9-4)-(3)-①②③、E-3-5)-⑧⑨】 5限目 化学療法、免疫療法の現状と併用療法(呼吸器内科学：本津茂人) 【D-6-4)-(9)-①、E-3-3)-④、E-3-5)-⑥、F-2-8)-⑥】 6限目 進行期悪性腫瘍症例の鑑別、病期診断、治療、有害事象【反転授業】(がんゲノム・腫瘍内科学：武田真幸) 【C-4-6)-⑤、E-3-1)-①②③、E-3-2)-①②③、E-3-3)-①④⑥⑦、F-2-2)-⑦、F-2-5)-②、F-2-8)-⑥⑫】</p> <p>2025年6月11日(水) 1限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：肺、縦隔(放射線腫瘍医学：三浦幸子) 【D-6-4)-(9)-①③、E-3-5)-⑥】 2限目 サイコオンコロジー(精神医学：本多将人) 【D-15-2)-①】</p> <p>2025年6月16日(月) 4限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：骨軟部、緩和(放射線腫瘍医学：浅川勇雄) 【D-4-4)-(3)-①②③、E-3-5)-②、E-3-5)-④】 5限目 がんの危険因子と予防(疫学・予防医学：佐伯圭吾) 【B-1-4)-⑤、B-1-5)-①⑤】</p> <p>2025年7月1日(火) 4限目 腫瘍マーカー(中央臨床検査部：山崎正晴) 【E-3-2)-①】 5限目 癌治療におけるIVR(放射線診断・IVR学講：西尾福英之) 【D-7-4)-(8)-⑧⑨、D-8-4)-(9)-①、E-3-3)-⑦、E-6-2)-①、F-2-5)-④⑤、F-2-7)-④、F-2-16)-④】 6限目 《反転授業》局所進行期悪性腫瘍症例の鑑別、病期診断、治療、有害事象(放射線腫瘍医学講座：磯橋文明) 【C-4-6)-⑤、E-3-1)-①②③、E-3-2)-①②③、E-3-3)-①③④、F-2-5)-②③④】</p> <p>2025年7月7日(月) 5限目 腫瘍学各論(治療全般～放射線治療)：頭頸部、消化管(医療情報部：玉本哲郎) 【D-7-4)-(8)-①②⑥⑨⑩、D-14-4)-(2)-①②、E-3-5)-⑦⑬】</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	
参考書	放射線腫瘍医学 ・やさしくわかる放射線治療学 日本放射線腫瘍学会 秀潤社 ・放射線治療計画ガイドライン2020年版 日本放射線腫瘍学会 金原出版 ・がん・放射線療法2017 大西洋, 他 秀潤社 ・放射線基礎医学 第12版 青山喬, 他 金芳堂 がんゲノム・腫瘍内科学 ・新臨床腫瘍学 改定第6版 日本臨床腫瘍学会編 南江堂 ・がん診療レジデントマニュアル 第8版、国立がん研究センター内科レジデント編 医学書院 薬理学 ・ラング・デール薬理学 丸善 ・New薬理学(改定第7版) 田中千賀子, 他 南江堂 疫学・予防医学 ・科学的根拠にもとづく最新がん予防法 津金昌一郎 祥伝社新書 中央臨床検査部 ・腫瘍マーカーハンドブック(改訂版) 石井勝 医薬ジャーナル社
学生へのメッセージ等	悪性腫瘍は日本人の死因の第1位で、2人に1人は罹患します。そのため、直接治療には携わらない診療科に進んでも遭遇する事も多いかと思えます。そのため、病態や治療法等について基本的な事項を学習しておく事は必要と考えます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	麻酔・疼痛管理
担当教員			
川口 昌彦			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：麻酔科学 関連担当講座：薬理学
概要	周術期や疼痛時の心身の危機的状況を緩和・制御するために、各種疾患の病態生理と麻酔・鎮痛薬の薬理とを理解し、安全で質の高い周術期管理と鎮痛法の基礎を修得する。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/>患者、手術に応じた麻酔方法を理解し、説明することができる。 <input type="checkbox"/>疼痛の原因を理解し、適切な鎮痛法を説明することができる。 <input type="checkbox"/>重症患者の病態を理解し、適切な治療法を説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 麻酔、集中治療に必要な医療手技を選択し、麻酔、治療計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 <input type="checkbox"/>多職種医療におけるそれぞれの役割を理解し、説明することができる。 <input type="checkbox"/>多職種間でのコミュニケーションをとるための技能と方法を説明することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 周術期医療における麻酔科医の役割について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、周術期領域の研究にアプローチすることができる。</p>
評価方法	受講態度 (10%) 《I》 レポート (20%) 《II, III, IV, V, VI》 定期試験 (70%) 《II, III, IV, V, VI》 <small>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</small>
授業計画	2025年6月16日(月) 1時限目 全身麻酔薬、麻薬鎮痛薬 (薬理学：中平毅一) 【F-2-8-④、F-2-8-⑦、F-2-8-⑧、F-2-10-③】 2時限目 全身麻酔薬、麻薬鎮痛薬 (薬理学：中平毅一) 【F-2-8-④、F-2-8-⑦、F-2-8-⑧、F-2-10-③】 3時限目 局所麻酔薬・筋弛緩薬 (薬理学：中平毅一) 【F-2-8-④、F-2-8-⑧、F-2-10-③、F-2-10-⑥】 2025年6月18日(水) 1時限目 麻酔について (麻酔科学：川口昌彦) 【F-2-10-①、F-2-10-④】 2時限目 伝達麻酔 (麻酔科学：吉村季恵) 【F-2-10-②、F-2-10-⑥】 3時限目 気道管理 (麻酔科学：阿部龍一) 【F-2-10-②、F-2-10-⑦】 2025年6月20日(金) 1時限目 術前患者管理 (麻酔科学：西和田 忠) 【F-2-10-②、F-2-9-(2)-⑤、F-2-9-(2)-⑥】 2時限目 血管確保と安全管理 (麻酔科学：中川雅史) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑦】 3時限目 周術期合併症 (麻酔科学：内藤祐介) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑤、F-2-9-(2)-⑦、F-2-9-(2)-⑧】 2025年6月24日(火) 4時限目 小児麻酔・産科麻酔 (麻酔科学：位田みつる) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑤、F-2-10-②、F-2-10-⑦】 5時限目 神経麻酔 (麻酔科学：林 浩伸) 【F-2-10-⑦、F-2-8-④】 6時限目 心臓血管手術の麻酔 (麻酔科学：吉谷健司) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑤、F-2-9-(2)-⑦、F-2-10-②、F-2-10-⑦】

	<p>2025年6月 26日(木)</p> <p>1時限目 痛みとペインクリニック (麻醉科学: 渡邊恵介) 【F-1-35-①、F-1-35-②、F-1-35-③、F-2-10-⑥】</p> <p>2時限目 心肺蘇生法 (麻醉科学: 甲谷太一) 【D-5-3-⑳、F-1-6-①、F-1-6-②、F-1-6-③、F-3-6-(4)-①、F-3-6-(4)-②】</p> <p>3時限目 術中モニタリング (麻醉科学: 田中暢洋) 【F-2-9-(2)-②、F-2-10-⑦】</p> <p>2025年6月 30日(月)</p> <p>4時限目 術後疼痛管理 (麻醉科学: 中本達夫) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑤、F-2-9-(2)-⑧、F-2-10-⑥】</p> <p>5時限目 集中治療と急変対応 (麻醉科学: 安宅一晃) 【F-2-9-(2)-③、F-2-9-(2)-⑧、F-2-9-(2)-⑨、F-2-12-①、F-3-6-(4)-①、F-3-6-(4)-②】</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	
テキスト	
参考書	<p>Anesthesia : Miller Churchill Livingstone (南江堂)</p> <p>麻醉科レジデントマニュアル第2版: 川口昌彦 編集 (医学書院)</p> <p>麻醉科診療プラクティス: 稲田英一 編集 (文光堂)</p> <p>ペインクリニック診断・治療ガイド 大瀬戸清茂 監修 (日本医事新報社)</p>
学生へのメッセージ等	<p>周術期管理や疼痛管理の基礎を勉強しましょう。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
福島 英賢			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：救急医学 関連担当講座：脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、整形外科、集中治療部
概要	外傷・救急医学では心停止や多発外傷といった緊急性の高い病態に加えて、集中治療管理を要する多臓器不全といった重症病態について理解し、医師として緊急を要する病態に対応するための知識の習得および活用を目指して系統的に学ぶ。また急性中毒や熱中症、偶発性低体温症といった環境要因による病態についてもこのコースで学ぶ。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム どの診療科へ将来進もうとも、医師として救急疾患に対応しなければならないことを理解し、初期対応するために必要な姿勢について学ぶ。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □心肺停止、外傷、急性中毒、環境要因によって生じる生体への侵襲を理解し、説明することができる。 □緊急性の高い病態を見極め、治療法を理解し、オーバートリアージを許容して診療することの重要性を理解して説明することができる。 □臓器不全に至った重症例の病態の理解と集中治療について理解し、説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 救急診療における病態推論を実施することができ、初期治療として必要な項目を想定して立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 緊急性の高い病態や重症病態では、医師一人で診療することは不可能であり、救急隊をはじめ、看護師や臨床工学士、薬剤師、検査技師、理学療法士などの職種と連携し適切にコミュニケーションをとることの重要性を理解する。また専門診療科との連携においても同様であることを理解する。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 救急医療体制は地域医療の要であることを理解し、医師はその役割を担い、社会へ貢献しなければならないことを理解する。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 外傷・救急医学は他の診療領域に比べて歴史が浅い。しかしながら多くの研究によって地域のみならず、世界の救急医療に貢献してきていることを理解し、学術的探究が外傷・救急医学においても重要であることを理解する。</p>
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《 I 》</p> <p>■ 小テスト (10%) 《 II 》</p> <p>■ ミニレポート (10%) 《 V, VI 》</p> <p>■ 定期試験 (70%) 《 I, II, III, IV, V 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>
授業計画	<p>2025年4月30日(水)</p> <p>4時限目 救急医学総論 (救急医学:福島 英賢) 【A-7-1)-⑤ A-7-1)-⑥ B-1-7)-5 B-1-7)-⑥ E-8-1)-⑫】</p> <p>5時限目 急性中毒および環境障害 (救急医学:鶴田 啓亮) 【E-5-1) E-5-2) E-5-3)-(1) E-5-3)-(2)-①, ②, ④】</p> <p>6時限目 急性腹症 (救急医学:畑 倫明) 【D-7-4)-(3)-①, ②, ⑫ D-7-4)-(4)-② D-7-4)-(6)-1 D-7-4)-(7) F-1-20) F-1-22)】</p> <p>2025年5月8日(木)</p> <p>4時限目 四肢外傷 (四肢外傷センター:河村 健二) 【D-4-4)-(1)-①, ③, ④】</p> <p>5時限目 循環不全の病態と治療 (胸部・心臓血管外科学:平賀 俊) 【C-4-4)-③ D-5-4)-(7)-②, ③】</p> <p>6時限目 頭部外傷 (脳神経外科学:朴永銖) 【D-4-4)-(4)-②】</p> <p>2025年5月14日(水)</p> <p>1時限目 心肺停止 (救急医学:福島 英賢) 【D-5-4)-⑫ E-9-1)-④, F-1-1)-(6) F-3-6)-(4)-②】</p> <p>2時限目 症候・緊急度判定 (救急医学:福島 英賢) 【D-6-4)-① E-2-3)-①, ② E-4-3)-(6)-②, F-1-1)-(1), (5), F-3-5)-(2)-②, ④, ⑥, F-3-6)-(4)-①, ②】</p>

	<p>3時限目 集中治療医学総論 (集中治療部:後藤 安宣) 【C-4-4)-⑤ E-2-1)-①, ③, ④, ⑤, ⑥ E-2-4)-(2)-①, ②, ③ F-2-9)-(2)-⑩】</p> <p>2025年5月23日(金) 1時限目 腎不全・肝不全の急性期管理 (集中治療部:園部 奨太) 【D-7-4)-(5)-③ D-8-3)-(1)-①, ② D-8-3)-(2)-①, ② D-8-4)-(4)-①】</p> <p>2時限目 呼吸不全の急性期管理(集中治療部:恵川 淳二) 【D-6-4)-(1)-①, ② D-6-4)-(4)-②】</p> <p>3時限目 中枢神経系救急 (救急医学:古家一 洋平) 【D-2-3)-①, ②, ③, ④, ⑤ D-2-3)-(2), (4) D-2-4)-(1) D-5-3)-⑥, ⑦, ⑧, ⑱ E-2-3)-③, ④, ⑯ F-1-7) F-1-8) F-1-9) F-1-33)】</p> <p>2025年6月6日(金) 1時限目 骨盤骨折 (救急医学:前川 尚宜) 【D-4-4)-(1)-①, ③】</p> <p>2時限目 外傷学総論 (救急医学:川井 廉之) 【F-1-37)-①, ②, ③】</p> <p>3時限目 腹部外傷 (救急医学:宮崎 敬太) 【F-1-37)-①, ②, ③】</p> <p>2025年6月19日(木) 4時限目 脊椎外傷 (救急医学:奥田哲教) 【D-4-4)-(1)-①, ③, ⑩】</p> <p>2025年6月25日(水) 4時限目 広範囲熱傷 (救急医学:浅井 英樹) 【E-5-3)-(3), F-1-37)】</p> <p>6時限目 胸部外傷 (救急医学:小延 俊文) 【F-1-37)-①, ②, ③】</p>
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前に提供する資料を確認すること。
テキスト	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ●救急診療指針：へるす出版 (日本救急医学会編集) ●Emergency Medicine—A comprehensive study guide—5th Edition :Tintinalli JE 編著 McGraw-Hill (図書館指定参考書)
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
吉本 清巳			
添付ファイル			

全担当教員	総合医療学 教授：吉本清巳 講師：矢田憲孝 大野史郎 松原正樹 助教：宮本真紀子 川島浩正 米今諒 非常勤講師：明日香村国民健康保険診療所 武田以知郎 名誉教授：西尾健治
概要	総合診療は、幅広い医療ニーズに対応する医療であり、2018年の新専門医制度から総合診療専門医が新設されている。 家庭医療、地域医療、病院総合診療総合診療など総合診療のフィールドについての理解し、総合診療を实践する上で重要な、患者中心の医療、生物心理社会的モデル、全人的医療に、家族志向のケア、地域志向のケア、ついて理解し実践できることを目的とする。 また、どの診療科でも共通する医療面接、身体診察、臨床推論について理解し実践できることを目的とする。 介護保険制度、CGA、医療保険制度、地域の健康と医療費、プロフェッショナリズムについて理解する
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム □プロフェッショナリズムについて理解し説明できる。 □臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 □総合診療について理解し、地域医療、家庭医療、病院総合診療について理解し、説明できる。 □医療面接、身体診察を理解し実践でき、頻度、重症度、緊急度を意識した臨床推論ができる。 □介護保険制度、CGA、医療保険制度について理解し、説明できる。 III 医療の実践 □総合診療について理解し、地域医療、家庭医療、病院総合診療について理解し、説明できる。 □医療面接、身体診察を理解し実践でき、頻度、重症度、緊急度を意識した臨床推論ができる。 □介護保険制度、CGA、医療保険制度について理解し、説明できる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □患者中心の医療の方法、医療面接、身体診察について理解し、説明できる。 □多職種連携、チーム医療について理解し、説明できる。 □病院総合診療の横断的役割について理解し、説明できる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 □介護保険制度、CGA、医療保険制度について理解し、説明できる □地域の健康と医療費について理解し説明できる。 VI 国際的視野と科学的探究 □海外の総合診療について理解し説明できる。 □エビデンスに基づいた臨床推論ができる。 □リサーチマインドを持ち、総合診療の成果に対してアプローチすることができる。
評価方法	■ 受講態度 (10%) 《I》 ■ 小テストまたは事前課題 (15%) 《I, II, III, IV, V, VI》 ■ レポートまたは事前課題 (15%) 《I, II, III, IV, V, VI》 ■ 定期試験 (60%) 《II, III, IV, V, VI》
授業計画	5月1日 (木) 4-6限 ①総合診療総論1 (吉本) 4限 【A-1-1)①医の倫理と生命倫理、A-3-1)①～⑧全人的実践的能力、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科、A-3-1全人的実践的能力、A-5-1)①～④患者中心のチーム医療、F-2-1)①～⑧臨床推論】 総合診療とは 家庭医療とは 家庭医療の魅力 家庭医療の実践 病院総合診療とは 病院総合診療医の魅力 病院総合診療の実践 事例を通して学ぶ総合診療 ②医療面接 (総合医療学教員) 5限 【A-4-1)①～③コミュニケーション、C-5-7)①～⑧対人関係と対人コミュニケーション、F-3-2)①～⑤医療面接、F-3-3)①～④診療録 (カルテ)】 ③身体診察 (総合医療学教員) 6限 【F-3-1)①～④問題志向型システムと臨床推論、F-3-4)①②臨床判断、F-3-5)-(2)①～⑦身体診察、F-3-5)-(3)身体診察、F-3-5)-(4)身体診察、F-3-5)-(5)身体診察、F-3-5)-(6)身体診察、F-3-5)-(7)身体診察】

	<p>5月14日(水) 4-5限 ④患者中心の医療(総合医療学教員) 4限 【A-1-2)①～④患者中心の視点、A-4-2)①～⑦患者と医師の関係、A-5-1)①～④患者中心のチーム医療、C-5-7)①～⑧対人関係と対人コミュニケーション、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科】 BPS(生物心理社会的)モデル 患者中心の医療 家族志向のケア</p> <p>⑤臨床推論(総合医療学教員)【反転授業】 5限 【A-9-1)①～⑤生涯学習への準備、F-2-1)①～⑧臨床推論、F-3-1)①～④問題志向型システムと臨床診断推論】</p> <p>5月22日(木) 4限-5限 ⑥家族志向のケア/EBM/海外への医療支援(総合医療学教員) 4限 【A-7-1)①～⑦地域医療への貢献、B-1-6)①～④社会・環境と健康、B-1-7)①～⑦地域医療・地域保健、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科、B-4-1)①～④医師に求められる社会性】</p> <p>⑦地域医療・家庭医療(明日香村国保診療所 武田先生) 5限 【A-7-1)①～⑦地域医療への貢献、B-1-6)①～④社会・環境と健康、B-1-7)①～⑦地域医療・地域保健、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科、B-4-1)①～④医師に求められる社会性】 地域医療・家庭医療の魅力 地域医療の実践 在宅医療、ワクチン、母子保健、学校保健、ヘルスプロモーション等</p> <p>5月23日(金) 4限-6限 ⑧病院総合診療、総合診療学(西尾先生) 4限 【A-1-1)①医の倫理と生命倫理、A-3-1)①～⑧全人的実践的能力、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科】 ・総合診療の魅力 ・総合診療の役割 ・医療の歴史、総合診療の歴史 ・海外の医療制度、海外の総合診療医 ・救急医療、災害医療、医学研究</p> <p>⑨地域志向のケア・予防と健康増進(吉本) 5限 【A-7-1)①～⑦地域医療への貢献、B-1-6)①～④社会・環境と健康、B-1-7)①～⑦地域医療・地域保健、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科、B-4-1)①～④医師に求められる社会性】</p> <p>⑩介護保険・医療制度・地域の健康と医療費、プロフェッショナリズム(吉本) 6限 【A-1-2)①～④患者中心の視点、A-4-2)①～⑦患者と医師の関係、A-5-1)①～④患者中心のチーム医療、B-1-8)①～③保健・医療・福祉・介護の制度、C-5-7)①～⑧対人関係と対人コミュニケーション、G-4-1)-(6)①～⑥総合診療科】 介護保険制度、CGA 訪問看護、多職種連携 在宅医療、健康増進 医療費、プロフェッショナリズム</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	反転授業の事前課題
テキスト	
参考書	新・総合診療医学(家庭医療学編) 藤沼康樹 カイ書林 新・総合診療医学(病院総合診療医学編) 徳田安春 カイ書林
学生へのメッセージ等	外部講師の先生方の講義は、忙しい中来ていただきますので、積極的に出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
吉本 清巳			
添付ファイル			
全担当教員			
総合医療学講座 教授 吉本清巳 総合医療学講座 在宅医療支援センター 特任助教 西村信城 非常勤講師：南奈良総合医療センター 在宅医療支援センター 明石陽介 健生会大福診療所 朝倉健太郎 天理よろづ相談所 白川分院 在宅世話どりセンター 次橋幸男 ゆい訪問看護ステーション 所長 訪問看護師 森本広子			
概要	本講義は2018年度から新設された講義である。在宅医療は古くから行われてきたが、1976年に病院死数が在宅死数を越え、日本では病院で最期を迎えるのが当然になりつつあった。しかし、高齢化社会を迎える現在、自分らしく自宅で最期を迎える在宅医療が再び見直されつつある。2000年から介護保険制度が開始され、多職種が関わるようになり、在宅で療養する仕組みが整備されるようになった。2006年の医療保険制度改正から在宅療養支援診療所制度が開始され、医療保険制度としても在宅医療に重点が置かれるようになり、現在は、地域包括ケアが推進され、医療政策的にさらに在宅医療を進める方向になっている。在宅医療は悪性腫瘍の緩和ケア・終末期医療、脳梗塞後の半身麻痺などだけではなく、神経難病、小児神経疾患などその幅は広がっている。本講義では、在宅医療について、その制度、現状について、実際に在宅医療を実践している講師による講義を交えて理解を深める。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> □臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 □ACPについて説明ができ、実践できる。 □看取りの方法に対して、本人の希望、家族の希望を聞き、選択肢を提示できる。 <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <ul style="list-style-type: none"> □在宅医療制度について理解し活用することができる。 □在宅医療における多職種連携について理解し活用することができる。 □在宅での看取りについて理解し説明することができる。 <p>III 医療の実践</p> <p>在宅医療の計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <ul style="list-style-type: none"> □患者や家族が豊かな人生を送れるよう、家族指向でコミュニケーション重視の医療を理解する。 □在宅医療における多職種とのコミュニケーションを理解する。 <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>在宅医療と地域包括ケアシステムについて説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>リサーチマインドを持ち、在宅医療の成果に対してアプローチすることができる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (20%) 《I》</p> <p>■ 当日のディスカッション、小テストまたはレポート (20%) 《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (60%) 《II, III, IV, V, VI》</p>		
授業計画	<p>6月12日(木) 【反転授業】</p> <p>4限 在宅医療と看取り、在宅世話どりセンターの在宅医療 (天理よろづ相談所 白川分院 在宅世話どりセンター 次橋幸男) 【F-2-15 ①～⑦、F-2-16 ①～⑥、E-9-1①～⑩】</p> <p>5限 在宅医療と多職種連携、クリニックの在宅医療 (大福診療所 朝倉健太郎) 【F-2-15 ①～⑦、A-4-1、A-5-1、B-4-1①～⑭】</p> <p>6限 在宅医療と地域医療、南奈良総合医療センターの在宅医療 (南奈良総合医療センター 明石陽介) 【F-2-15 ①～⑦、B-1-7 ①～⑦、A-7-1①～⑦】</p> <p>6月26日(木)</p> <p>4限 在宅医療に関わる制度やシステムについて (在宅医療支援センター 特任助教 西村信城) 【F-2-15 ①～⑦】</p> <p>5限 在宅医療 家族の立場の在宅医療 (総合医療学講座 吉本清巳) 【F-2-15 ①～⑦】</p> <p>6限 在宅医療 訪問看護師の立場から (ゆい訪問看護ステーション 所長 訪問看護師 森本広子) 【F-2-15 ①～⑦】</p>		
授業外学修 (事前学修・事後学修)	6月12日の授業については、事前資料を配布するので予習すること。		
テキスト	特に指定しない		
参考書	特に指定しない		

学生へのメッセージ等	外部講師の先生方の講義は、忙しい中来ていただきますので、積極的に出席してください。6月12日の講義では、実際の症例に基づいて、グループワークをします。在宅診療について、予習をしてきてください。
------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学Ⅰ	-	必修
担当教員			
今村知明			
添付ファイル			

全担当教員	<p>コース担当講座：公衆衛生学（責任者：今村 知明） 教授：今村知明 准教授：野田龍也 講師： 助教：西岡祐一 非常勤講師：甲田勝康、康永秀生、町田宗仁、神奈川芳行、小川俊夫、赤羽 学、林修一郎、佐野友美、明神大也</p>
概要	<p>1) 個体および集団を取りまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響を把握するため、社会と健康・疾病との関係や地域医療について学ぶ。 2) 保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。 3) 生活習慣に関連した疾病の種類、病態と予防治療について学ぶ。 4) 保健・医療・福祉と介護の制度の内容を学ぶ。 5) 健康政策、医療政策について学ぶ。 6) 医療経済・医療経営について学ぶ。 7) 医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 医療者としての法的責任・規範を理解し、遵守することができる。 <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 社会と医学・医療との関係、死と法について説明できる。</p> <p>III 医療の実践 EBMを活用し、患者の安全性を確保した医療を実践できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 レポートや診療情報などの文書を規定に従って適切に作成し、プレゼンテーションができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉・介護に関連する法規・制度等を理解したうえで活用することができる。 <input type="checkbox"/> 健康・福祉に関する問題を評価し、地域や国際社会の疾病予防や健康増進の活動に参加できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/> 国際的視野で医療と医学研究を考えることができる。 <input type="checkbox"/> 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解し、説明できる。</p>
評価方法	<p>■定期試験（75%）≪ I, II, III, IV, V, VI ≫ ■受講態度（5%）≪ I, II, III, IV, V, VI ≫ ■実習（20%）≪ I, II, III, IV, V, VI ≫ 注）試験、実習の両方合格することを必須とする</p> <p>本試験予定 2025年7月24日（木）4時限目 再試験予定 2025年9月19日（金）3時限目</p>
授業計画	<p>2025年5月7日（水） 1限目 社会と医療・衛生行政（今村知明） <input type="checkbox"/> 行政の役割としくみ <input type="checkbox"/> 衛生行政の光と影（薬害エイズやBSE問題） <input type="checkbox"/> 医療圏、基準病床数、資源の有効利用と国民皆保険、全国保健所 <input type="checkbox"/> 人口構造の変化、疾病構造の変化 【A-7-1）-③、A-8-1）-①-④、B-1-4）-①-⑤、B-1-8）-①-⑩、B-4-1）-⑧-⑨】</p> <p>2限目 公衆衛生概論 人口動態統計（今村知明） <input type="checkbox"/> 健康・疾病・障害の概念と社会環境、社会環境の変動と国民の健康について <input type="checkbox"/> 日本の保健・医療、福祉・介護制度の特徴や地域保健・地域医療と医師の役割について 【A-7-1）-①-⑤、⑦、B-1-1）-①-④、B-1-3）-①-⑦、B-1-7）-①-④】</p> <p>3時限目 シミュレーション講義（今村知明） <input type="checkbox"/> 公衆衛生上の重要な判断 <input type="checkbox"/> 個人による意見の相違 <input type="checkbox"/> 公人としての判断と私人としての判断 【A-1-3）-①-⑤、A-4-1）-①-③、A-4-2）-①-⑦】</p> <p>2025年5月13日（火） 4時限目 福祉政策と医療・在宅医療、へき地医療、災害医療（野田龍也）</p>

- 障害者福祉について（制度と障害者認定）
 - 生活保護について（制度と生活保護での医療）
 - 児童相談書の役割と児童虐待防止法
 - 在宅医療、へき地医療、災害医療について
- 【A-7-1）-①-⑦、B-1-7）-①、④-⑥】

- 5時限目 精神保健福祉、麻薬・向精神薬（野田龍也、奈良県精神保健福祉センター 伊東千絵子先生）
- 現状と動向
 - 精神保健福祉相談、地域精神保健福祉活動
 - 精神障害者の保健・医療・福祉
 - 医師の麻薬および向精神薬の取り扱いに関する法規を説明できる
- 【A-7-1）-③、B-1-4）-⑤、B-1-5）-④-⑤、B-1-8）-⑬、B-3-1）-④】

- 6時限目 医療保険制度（厚生労働省 林修一郎）
- 社会保障の概念、社会福祉、社会保険、公衆衛生と医療受給について
 - 医療保険の種類と対象、公費医療の種類と対象
 - 医療経済について
 - 国民医療費、医療費負担と給付、医療の包括評価
- 【B-1-8）-②、⑧-⑩】

2025年5月19日（月）

- 1時限目 感染症対策（今村知明）
- 感染症の疫学と流行状況について
 - 1類感染症、2類感染症、3類感染症、4類感染症、5類感染症、指定感染症、新感染症
 - 結核や主な感染症の疫学と流行状況、感染源・感染経路対策、感染者の人権への配慮
 - 学校等における感染症、予防接種
 - 感染症発生動向調査〈サーベイランス〉
- 【B-1-4）-①-⑤、B-1-8）-⑪-⑫】

- 2時限目 保健医療論（今村知明）
- わが国における医療に関係する団体や医師としての関わりについて
 - 社会保障制度のしくみについて
 - 診療報酬の仕組みやこれがどのようにして決まるのかについて
 - 混合診療の禁止と選定療養、先進医療
- 【B-1-8）-①、⑨-⑩】

- 3時限目 医療行政と地域医療・病院経営（地域での公立病院での立場から）（元 公立野辺地病院 一戸和成先生）

2025年5月30日（金）

- 4時限目 医療・衛生関係法規、診療録（明神大也）
- 医師法、医療法
 - 刑法〈秘密漏示の禁止、堕胎の禁止、虚偽私文書作成の禁止〉
 - 診療録、医療記録
- 【B-1-8）-⑤-⑦、⑩、B-2-1）-①-③、B-2-2）-①-③】

- 5時限目 産業保健（疫学・予防医学講座 教授 佐伯圭吾）
- 現状と動向、業務上疾病の発生状況
 - 産業医と労働安全衛生管理
 - 管理体制、産業医の資格と職務、健康管理、作業環境管理、作業管理
 - 労働災害
- 【B-1-6）-④、B-1-8）-④】

- 6時限目 産業医（J R 東日本健康推進センター労働衛生科 担当部長 神奈川芳行）
- 産業医について、産業衛生の目的
 - 産業保健分野における現状、産業保健現場における課題
 - 四管理一教育
- 【B-1-6）-④、B-1-7）-③、B-1-8）-④】

2025年6月5日（木）

- 1時限目 医の倫理、倫理審査委員会（生命倫理管理室 伊藤雪絵）
- 医の倫理、インフォームドコンセント、倫理審査委員会
- 【A-1-1）-①-③、A-4-1）-①-②、B-3-1）-①-③】

- 2時限目 医師と患者関係・末期患者への対応（医療事故、医事紛争も含む）（岡本左和子）
- 医師と患者および家族との関係、末期患者への対応
- 【A-1-2）-①、④、A-5-1）-①、A-6-1）-①、B-1-8）-⑤、B-3-1）-①-⑤、B-4-1）-④-⑥、B-4-1）-⑧-⑩、⑬-⑭】

- 3時限目 国際保健、国際疾病分類と様々な分類（厚生労働省 町田宗仁）（元WHO西太平洋地域事務局 渉外担当医官）
- 世界の保健・医療問題、国際保健・医療協力
 - 国際連合〈UN〉、世界保健機関〈WHO〉、国際労働機関〈ILO〉、国連食糧農業機関〈FAO〉、国際協力機構〈JICA〉、政府開発援助〈ODA〉、非政府機関〈NGO〉
 - 国際疾病分類
 - ICD10と11
 - 国際生活機能分類
 - 他の国際分類やユニバーサルデザイン
- 【A-7-2）-②-⑤、B-1-4）-①、B-1-9）-①-②】

2025年6月11日（水）

- 4-5時限目 小児保健（母子保健・学校保健）（関西医科大学 教授 甲田勝康）
- 現状と動向
 - 出生、妊産婦死亡、死産、周産期死亡、新生児・乳児死亡、人工妊娠中絶
 - 母性保健

	<p>○小児の保健、新生児マスキング、小児期のスクリーニング ○母子保健・学校保健の現状と動向 【A-7-1) -③、B-1-6) -④、B-1-7) -③】</p> <p>6時限目 実習オリエンテーション (全教官) ○県内保健所、保健センター、保健研究センター・景観環境総合センターおよび厚生行政機関における実習内容と事前学習および実習諸注意</p> <p>2025年6月17日 (火) 1時限目 奈良県の衛生行政 (奈良県郡山保健所所長 水野文子) ○衛生行政の体系と法律 ○結核対策にみる公衆衛生行政 ○奈良県の現状と取り組みなど 【A-7-1) -①-⑦、B-1-8) -⑪-⑫】</p> <p>2時限目 医療経営 (今村知明) ○病院経営の現状、DPC制度、原価管理、減価償却 ○病院経営のポイント、社会制度と病院経営 【B-1-8) -⑨、B-4-1) -⑩】</p> <p>3時限目 介護保険と地域包括ケアシステム (西岡祐一) ○保健・医療・福祉・介護の施設と機能 ○在宅ケア、在宅医療、在宅介護 ○地域包括ケアシステムについて 【B-1-7) -③-④、B-1-8) -②】</p> <p>2025年6月23日 (月) 4時限目 保健・医療・福祉の資源 (明神大也) ○保健、医療、福祉の各種の社会資源 ○施設：医療施設の数と役割、老人福祉施設の数と役割、障害福祉施設の数と役割 ○従事者：各専門職の数と役割 【B-1-7) -②、B-1-8) -①-②】</p> <p>5時限目 高齢者保健、生活習慣病 (西岡祐一) ○高齢化・少子化社会・障害児(者)への対応 ○廃用症候群、高齢者虐待 ○高齢者の保健・福祉・介護 ○地域保健福祉活動 ○生活習慣とリスク ○ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善 【A-7-1) -③、B-1-5) -⑥、B-1-6) -④、B-1-7) ③-④、B-1-8) -③】</p> <p>6時限目 食品保健・国民栄養 (西岡祐一) ○国民栄養の現状と対策について ○国民健康・栄養調査など統計情報について ○食品の安全性や機能性、食生活指針などについて 【B-1-5) -②-④、B-1-8) -⑩】</p> <p>2025年7月2日 (水) 1時限目 環境保健 (明神大也) ○公害健康被害補償制度 ○環境基準、排出規制、環境モニタリング、環境影響評価(アセスメント) ○一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物、リサイクル 【B-1-6) -①-③】</p> <p>2-3時限目 まとめ講義 (野田龍也) 【反転講義】 ○社会・環境と健康(健康概念、母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健) ○保健・医療・福祉・介護の制度(社会保障制度と医療経済、医療保険、介護保険、公費医療、医療関連法規、感染症法、予防接種、食中毒) ○国際保健 ○診療情報と諸証明書(診断書、検案書、診断書、出生証明書、死産証書、死胎検案書、死亡診断書、死体検案書) 【A-7-1) -③、A-7-2) -②-⑤、B-1-4) -①、B-1-6) -①-④、B-1-7) -③、B-1-8) -①-②、④-⑩、B-1-9) -①-②、B-2-1) -①-③、B-2-2) -①-③】</p> <p>実習オリエンテーション 2025年9月29日 (月) 実習 2025年9月30日 (火) -10月3日 (金) 実習発表会 2025年10月23日 (木) 出席必須</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	厚生統計協会編、『国民衛生の動向』最新版(毎年9月頃発行)
参考書	1. 今村知明、康永秀生、井出博生 医療経営学(第2版)、東京:医学書院、2011 2. 今村知明ら監修、公衆衛生がみえる 2024-2025、メディックメディア 3. 中西 康裕、今村 知明 中堅どころが知っておきたい医療現場のお金の話:イラストでわかる病院経営・医療制度のしくみ メディカ出版 その他、当教室指定図書(本学図書館)
学生へのメッセージ等	医療や衛生行政の最前線で戦っておられる先生方を招いて、できるだけ現場での臨場感あふれる話をしておうと思っています。他の大学ではこのような多様な人々の話を聞く機会さえ少ないと思っています。また、それら講師の方々の人間性も見所です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
粕田 承吾			
添付ファイル			

全担当教員	コース担当講座：法医学
概要	
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム</p> <p><input type="checkbox"/> 医師としての法的責任および義務を理解し、実際に行動できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療事故とは何か、それに対する対応を説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 人の死とは何か、脳死とは何かについて説明できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p><input type="checkbox"/> 解剖の種類と様々な異状死体について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 死体現象、死体検案の仕方および損傷の種類について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 死亡診断書と死体検案書の違いを理解し、正しく記載できる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>遺族に死因を適切に説明できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>解剖時に必要な検査を技術スタッフに指示できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>児童虐待・高齢者虐待に対して適切に対応できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>解剖事例から得られた知見を公衆衛生の向上へ還元できる。</p>
評価方法	<p>■受講態度 (20%) 《I, III, IV》</p> <p>■定期試験 (80%) 《I, II, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p> <p>法医学の講義全24コマ中で、2/3以上の出席が必須である。出席回数が満たないものは定期試験を受験できない。</p> <p>本試験予定：2025年7月25日（金） 2時限目</p> <p>再試験予定：2025年9月19日（金） 4時限目</p>
授業計画	<p>2025年4月28日(月) 粕田 承吾</p> <p>4時限目 法医学総論 【B-1-8）-⑥、B-2-1）-①②⑤、E-9-1）-①②】</p> <p>5時限目 早期死体現象 【B-2-1）-②】</p> <p>6時限目 後期死体現象 【B-2-1）-②】</p> <p>2025年5月2日(金) 粕田 承吾</p> <p>1時限目 損傷（鈍器）【F-1-37）-①】</p> <p>2時限目 損傷（鋭器）【F-1-37）-①】</p> <p>3時限目 損傷（銃器）【F-1-37）-①】</p> <p>2025年5月2日(金) 羽竹 勝彦</p> <p>4時限目 窒息（縊頸）【B-2-1）-②】</p> <p>5時限目 窒息（絞頸、扼頸）【B-2-1）-②】</p> <p>6時限目 窒息（溺死、その他）【B-2-1）-②】</p> <p>2025年5月12日(月) 粕田 承吾</p> <p>1時限目 嬰兒殺 【E-7-3）-⑥】</p> <p>2時限目 児童虐待 【E-7-3）-⑥】</p> <p>3時限目 乳幼児突然死症候群 【E-7-2）-④、E-9-1）-④】</p>

	<p>2025年5月21日(水) 粕田 承吾 1時限目 焼死 【E-5-3) - (1) -②、E-5-3) - (2) -①、 E-5-3) - (3) -①】</p> <p>2時限目 凍死、感電死 【E-5-3) - (2) -②、E-5-3) - (2) -④】</p> <p>3時限目 内因性急死 【E-9-1) -③、E-9-1) -④】</p> <p>2025年6月9日(月) 1時限目 交通外傷 (粕田 承吾) 【F-1-37) -①】</p> <p>2時限目 医事法学 (粕田 承吾) 【A-1-3) -⑤、A-6-2) -①②③、B-1-8) -⑥⑦、 E-9-1) -⑤】</p> <p>3時限目 物体検査 (工藤 利彩) 【B-2-1) -④】</p> <p>2025年6月18日(水) 羽竹 勝彦 4時限目 頭部損傷 【D-2-4) - (4) -①②】</p> <p>5時限目 中毒 【E-5-3) - (1) -③④⑤⑥】</p> <p>6時限目 高齢者虐待 【E-8-1) -①】</p> <p>2025年6月25日(水) 粕田 承吾 1時限目 死体検案書の書き方【反転授業】 【B-2-1) -③、B-2-2) -③】</p> <p>2時限目 死体検案書の書き方【反転授業】 【B-2-1) -③、B-2-2) -③】</p> <p>3時限目 死体検案書の書き方【反転授業】 【B-2-1) -③、B-2-2) -③】</p> <p>実習期間 2025年10月6日(月)～10月10日(金) アルコール検査、CO測定、死体検案書の作成等の実習を行う。 その評価を法医学試験の点数に反映する。</p>
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	教科書： 特に指定しない
参考書	参考書： 現代の法医学 改訂第3版増補 永野 耐造・若杉 長英 編集 金原出版 死体検案ハンドブック 第4版 近藤稔和・木下博之 著 金芳堂 標準法医学 第8版 池田 典昭・木下 博之 編集 医学書院
学生へのメッセージ等	法医学は臨床医にとっても必要な知識です。将来必ず役に立つときが来ます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
吉澤 明彦			
添付ファイル			

全担当教員	【教育スタッフ】 吉澤明彦、武田麻衣子、内山智子、佐々木翔、松岡未奈巳 中峯寛和(非常勤講師)、畠山金太(非常勤講師)、伊丹弘恵(非常勤講師)、森田剛平(非常勤講師)
概要	【概要】 病理学実習では、領域別に疾患を解説するとともに、各々の病理標本(主に日本病理学会コア画像)を用いて観察する。 所見を描写・記載することで、診断のポイントを習得する。
目標	I 倫理観とプロフェッショナルリズム 臨床医としてふさわしい行動を示すことができる。 II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 正常組織を理解したうえで、何が、どの様に異常か知る。 <input type="checkbox"/> 炎症疾患における組織反応や炎症細胞の形態的特徴や病態を理解する。 <input type="checkbox"/> 腫瘍において構造や細胞の異型とは何かを理解する。 III 医療の実践 形態学診断の限界を知り、診断に必要な精査として免疫組織化学の意義や標本の判定方法を理解する。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 臨床像と病理診断とを結びつけるための臨床医との連携、よりの確な診断に到達するための標本作成過程におけるコメディカルとの連携の重要性を理解できる。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 病理学的観点から得られる疾病の組織学的変化を通して、疾病予防や健康増進について説明することができる。 VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、遺伝子異常がもたらす希少疾患や難病に対して分子病理学的にアプローチすることができる。
評価方法	■ 受講態度 (10%) 《I, IV》 ■ レポート (領域別実習標本の所見記載) (90%) 《II, III, V, VI》
<small>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</small> 授業計画	【実習内容】 2025年9月22日(月) 1時限目～6時限目 解剖症例を用いた統合的病理実習① (吉澤、武田、内山、佐々木、松岡) 【D-6-1)、D-6-2)-③、D-6-4)-(9)-①】 【E-3-5)-⑬】 【E-3-5)-⑦、D-7-4)-(2)-③、D-7-4)-(8)-①、③】 【E-3-2)-③】 【D-2-4)-(10)-①、E-3-5)-②】 【E-3-5)-⑨、D-9-4)-(3)-③、④】 【E-3-5)-⑩、D-11-4)-(2)-①、D-12-4)-(10)-①】 4時限目 「腎系球体」 伊丹 【D-8-4)-(9)-①、E-3-5)-⑧】 5時限目 「内分泌」 伊丹 【D-11-1)-①、②、③、D-12-1)-②】 6時限目 「循環器」 畠山 【D-4-4)-(3)-①、③、D-5-4)-(11)-①】 2025年9月25日(木) 1時限目 「肝・胆・膵①」 森田 【D-7-4)-(5)-④、E-3-5)-⑦】 2時限目 「リンパ節・骨髄①」 中峯 【E-3-5)-①、D-1-4)-(4)-①～⑨】 3時限目 「リンパ節・骨髄②」 中峯 【E-3-5)-①、D-1-4)-(4)-①～⑨】 2025年9月26日(金) 1時限目～6時限目 解剖症例を用いた統合的病理実習② (吉澤、武田、内山、佐々木、松岡) 【D-6-1)、D-6-2)-③、D-6-4)-(9)-①】 【E-3-5)-⑬】 【E-3-5)-⑦、D-7-4)-(2)-③、D-7-4)-(8)-①、③】 【E-3-2)-③】 【D-2-4)-(10)-①、E-3-5)-②】 【E-3-5)-⑨、D-9-4)-(3)-③、④】 【E-3-5)-⑩、D-11-4)-(2)-①、D-12-4)-(10)-①】
授業外学修(事前学修・事後学修)	
テキスト	【教科書・参考書】 ①青笹克之 編「解明病理学」(第2版)、医歯薬出版、2013

	②鈴木利光 ほか監訳「ルービン病理学 - 臨床医学への基盤 -」、西村書店、2007 ③小田義直 ほか監修「組織病理アトラス (第6版)」、文光堂、2015 ④鷹橋浩幸 ほか監訳「ロビンス&コトラン病理学アトラス」、エルゼビア・ジャパン、2009 ⑤Kumar V, et al "Robbins Pathology", (9th ed.) Saunders Elsevier, 2014 ⑥Rubin R, et al "Rubin's Pathology", (7th ed.) Wolters Kluwer, 2014
参考書	【教科書・参考書】 ①青笹克之 編「解明病理学」(第2版)、医歯薬出版、2013 ②鈴木利光 ほか監訳「ルービン病理学 - 臨床医学への基盤 -」、西村書店、2007 ③小田義直 ほか監修「組織病理アトラス (第6版)」、文光堂、2015 ④鷹橋浩幸 ほか監訳「ロビンス&コトラン病理学アトラス」、エルゼビア・ジャパン、2009 ⑤Kumar V, et al "Robbins Pathology", (9th ed.) Saunders Elsevier, 2014 ⑥Rubin R, et al "Rubin's Pathology", (7th ed.) Wolters Kluwer, 2014
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学Ⅰ	-	必修
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			
全担当教員	コース担当講座：教育開発センター、精神医学講座 コーディネーター：精神医学講座教授 講義担当：岡田俊（精神医学講座）、山室和彦（健康管理センター）、太田豊作（看護学科人間発達学）、片山充哉（独立行政法人国立病院機構東京医療センター総合内科 医長）		
概要	行動変容における理論と技法を修得するとともに、マルチモーダル・コミュニケーションについて学ぶ。		
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 行動の背景にある認知や感情を理解し、心を支える基本的視点を理解する。 <input type="checkbox"/> 患者の心のケアや行動変容を促進するチームアプローチの重要性を理解する。 II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 精神疾患が認知や行動に及ぼす影響について概説できる。 <input type="checkbox"/> 精神疾患の予防やリハビリテーションについて概説できる。 III 医療の実践 <input type="checkbox"/> メンタルヘルスを保つ健康行動を促進する取り組みや技法について概説できる。 IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 <input type="checkbox"/> 医療者に求められる患者の行動理解と支援のための基本的視点を理解する。 <input type="checkbox"/> 患者の心のケアや行動変容を促進するチームアプローチの重要性を理解する。 V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> メンタルヘルス領域における一次予防、二次予防、三次予防について概説できる。 VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/> 精神疾患における行動障害とその基盤について概説できる。 <input type="checkbox"/> メンタルヘルスを保つ健康行動とその実装について概説できる。		
評価方法	■ 受講態度（10%）《Ⅰ》 ■ レポート（90%）《Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載		
授業計画	行動科学Ⅱ-1 【D-15-1）⑤、D-15-3）④、⑪、⑫】 2025年4月2日（水）4時限～6時限 講師：岡田俊（精神医学講座教授）【反転授業】、山室和彦（健康管理センター講師）、太田豊作（看護学科人間発達学教授） 行動科学Ⅱ-2,3 【A-4-1）①、②、A-4-2）①～③、C-5-1）①、C-5-8）②、③】 2025年4月4日（金）1時限～6時限 講師：片山充哉（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 総合内科 医長） 林智史（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 総合内科 医師） ※相当するコア・カリキュラム分類を記載している。		
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	講義内で紹介予定。		
参考書	講義内で紹介予定。		
学生へのメッセージ等			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			
全担当教員	関連担当講座：教育開発センター、循環器内科学、腎臓内科学、呼吸器内科学、消化器内科学、糖尿病・内分泌内科学、脳神経内科学、消化器・総合外科学、脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、整形外科、産婦人科学、精神医学、泌尿器科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、放射線診断IVR学、救急医学、口腔外科学、麻酔科学、放射線腫瘍医学、小児科学、総合医療学、がんゲノム腫瘍内科学、感染症センター、中央内視鏡・超音波部、総合画像診断センター、女性研究者・医師支援センター		
概要	臨床実習に入る前に、患者本位の医療の実践を学習し、学生医（student doctor）として患者診察の基本を身につけ、本学附属病院の診療システムの概要を把握するために、臨床各科に共通する基本的臨床技能、知識、態度・習慣を修得する。詳細は最新版の「診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習・評価項目」に準拠して行う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床現場での基本的態度・習慣、患者へのマナーを理解し実践することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 臨床各科に共通する基本的臨床知識を理解し活用できる。</p> <p>III 医療の実践 臨床各科に共通する基本的臨床技能を理解し実践できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 患者へのマナー、インタビュー（面接）技法の基本を理解し、臨床現場で実践できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 —</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	■受講態度（100%）《I、II、III、IV》 《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載		
授業計画	<p>2025年9月1日（月）～9月10日（水）の8日間で実施する。 共用試験実施機構のOSCE学習評価項目に準拠した学習をする。</p> <p>【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p> <p>少人数グループに分かれて下記項目をローテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接（教育開発センター、ロールプレイと模擬患者） 2. 頭頸部（耳鼻咽喉・頭頸部外科学） 3. 胸部（心臓、肺）・バイタルサイン（循環器内科学と呼吸器内科学） 4. 腹部（消化器内科学） 5. 神経診断（脳神経内科学） 6. 蘇生・呼吸管理（救急医学、麻酔科学） 7. 基本的臨床手技・清潔操作、縫合、抜糸、血管確保（外科学4講座のいずれか） 8. 四肢、脊柱（整形外科） <p>1～8は診断学実習ガイドラインに準拠する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療面接 面接技法の実習では、患者へのマナー、インタビュー（面接）技法の基本を理解し、臨床現場で実践できる。 2) 頭頸部診察 頭頸部・全身診察の実習では、頭部、頸部、全身的診察の基本を理解し、臨床現場で実践できる。 3) 胸部診察 胸部診察の実習では、胸部の診察の基本を理解し、臨床現場で実践できる。 4) 腹部診察 腹部診察の実習では、腹部の診察の基本を理解し、臨床現場で実践できる。 5) 神経学的診察 神経診察の実習では、神経系の診察の基本を理解し、臨床現場で実践できる。 6) 基本的臨床手技 基本的臨床手技実習では、簡単な皮膚切開・縫合の基本を理解し実践できる。 7) 蘇生・呼吸管理 蘇生呼吸管理実習では、救急蘇生と呼吸管理の基本を理解し実践（モデル人形など）できる。 8) 四肢脊柱診察 四肢脊柱診察実習では、四肢と脊柱診察の基本を理解し実践できる。 		
授業外学修（事前学修・事後学修）			

テキスト	臨床手技実習ガイドラインを用いる。 「診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学習・評価項目」 共用試験OSCE教育・学習用DVD（実習期間中閲覧可能）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> (1) 内科診断学：武内重五郎著、南江堂 (2) A Guide to Physical Examination and History Taking : Barbara Bates, Lippincott (3) 新外科学体系：中山書店 (4) 図説 救急医学講座：メディカルビュー社
学生へのメッセージ等	実習期間中に欠席のないように、健康管理に気を付けて下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	臨床医学 I	-	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧 (奈良医大教養教育部門)		
概要	臨床現場ではさまざまな倫理的な問題に直面する。本講義では具体的な事例の検討を通じて、倫理的な問題の所在を理解し、問題解決をはかるために必要な臨床倫理の考え方を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>□臨床現場で必要となる臨床倫理の考え方を説明できる。 □臨床現場で直面する具体的な事例を分析し、自分で対応策を立てることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>—</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>□臨床実習に臨む医学生にふさわしい倫理的な態度を説明できる。 □多様な価値観を理解し、グループ討論を通して適切な解決策を導き出すことができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>—</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (50%) 《I, IV》</p> <p>■ レポート (50%) 《I, IV》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2025年9月16日 (火) オリエンテーション、医学的無益性について 【A-1-1-②、A-1-2-②③、A-1-3-②③④】	講義	池邊 寧
	第2回 2025年9月16日 (火) 事例検討のあり方について (1) —原則論の視点から— 【A-1-1-②、A-1-2-②③、A-1-3-②③④、A-4-2-③】	講義	池邊 寧
	第3回 2025年9月16日 (火) 事例検討のあり方について (2) —手順論の視点から— 【A-1-1-②、A-1-2-②③、A-1-3-②③④、A-4-2-③】	講義	池邊 寧
	第4回 2025年9月17日 (水) 事例検討のあり方について (3) —物語論の視点から— 【A-1-1-②、A-1-2-②③、A-1-3-②③④、A-4-2-③】	講義	池邊 寧
	第5回 2025年9月17日 (水) 事例検討 【A-1-1-②、A-2-1-①②③④、A-2-2-①②③】	グループワーク	池邊 寧
	第6回 2025年9月17日 (水) 討論 【A-1-1-②、A-2-1-③④、A-2-2-②③】	討論	池邊 寧
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	使用しない。適宜、プリントを配布する。		
参考書	宮坂道夫『医療倫理学の方法』第3版, 医学書院 その他、講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	臨床医学の知識を踏まえて、臨床医にとって重要な臨床倫理の基本的な考え方を理解してください。		

共用試験 CBT (Computer Based Testing)

実施責任者：教育開発センター 教育教授
実施団体：医療系大学間共用試験実施評価機構

■概要

医学知識（基礎医学・臨床医学）の総合的到達度を、コンピュータを用いた全国共通テストで評価する

■目標

臨床実習を始める前に備えるべき必要最低限の総合的医学知識を評価する

■評価方法

共用試験実施評価機構から示される評価方法を採用

■合否判定

能力値（ θ ）が 396 以上をもって合格とする。不合格者は再試験を受験することができる。

■計画

日：令和7年8月27日（水）、28日（木）
（※学籍番号順に学生を前半・後半に分け、2日間で実施）
於：奈良県立医科大学
※詳細は別途通知

■受験料

33,000円（予定）
※ CBT及び臨床実習前OSCEを併せた料金

共用試験 臨床実習前 OSCE

(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination)

実施責任者：教育開発センター 教育教授
実施団体：医療系大学間共用試験実施評価機構

■概要

臨床実習で診療に参加するために必要な基本的技能・態度の修得度を評価する全国共通の臨床技能試験

■目標

臨床実習を始める前に備えるべき必要最低限の基本的診療技能・態度を評価する。

■評価方法

共用試験実施評価機構から示される評価方法を採用

■合否判定

共用試験実施評価機構が定める合否基準を採用
不合格者は再試験を受験することができる。

■教科書・参考書

臨床手技実習ガイドライン（授業前に配布します）

■計画

日：令和7年9月13日（土）・14日（日）
（予備日）令和7年10月18日（土）・19日（日）
於：教育研修棟
※詳細は別途通知

■受験料

33,000円（予定）
※ CBT及び臨床実習前 OSCEを併せた料金

実務経験のある教員による授業科目一覧

順不同・敬称略

授業科目名	授業方法	授業時間数	実務経験内容(職種)	担当教員名
循環器疾患	講義	26	医師	彦惣俊吾、中川仁、武輪能明、西田卓、渡邊真言、尾上健児、橋本行弘、上田友哉、吉栖正典、妹尾絢子、市橋成夫、細野光治、中田康紀、辻井信之、殿村玲、山岸正明
呼吸器疾患	講義	26	医師	室繁郎、長澄人、山内基雄、荻原健一、本津茂人、川口剛史、澤端章好、山本佳史、伊藤武文、玉置伸二、甲斐吉郎、徳山猛、丸上重希、中村孝人、吉栖正典、吉澤明彦、長敬翁、坂口和宏、谷村和哉、吉川雅則
肝・胆・膵疾患	講義	17	医師	吉治仁志、森田剛平、鍛冶孝祐、庄雅之、美登路昭、浪崎正、田中利洋、北川洸、西村典久、安田里司、調憲、佐藤慎哉、南口貴世介、太地良佑
消化管・乳腺疾患	講義	29	医師	小山文一、松本壮平、若月幸平、伊藤高広、美登路昭、古川晶子、北川雄光、國重智裕、長井美奈子、横谷倫世、中出裕士、緒方瑠衣子、洲尾昌伍、松尾泰子、赤堀宇広、岩佐陽介、高木忠隆、佐藤慎哉
小児疾患	講義	12	医師	野上恵嗣、柳原崇文、長谷川真理、荻原健一、石原卓、辻井信之、利根川仁、濱田匡章
腎疾患・尿路系疾患	講義	29	医師	藤本清秀、鶴屋和彦、赤井靖宏、江里口雅裕、鮫島謙一、田中宣道、藤井智美、大西健太、米田龍生、三宅牧人、石川智朗、西山成、岡本恵介、中井靖、後藤大輔、森澤洋介、堀俊太、立入哲也
画像診断・IVR	講義	7	医師	田中利洋、伊藤高広、丸上永晃、宮坂俊輝、山内哲司、越智朋子、市橋成夫
膠原病・アレルギー疾患	講義	10	医師	鮫島謙一、浅田秀夫、石川智朗、原良太、小川浩平、友田恒一、江浦信之、阪上雅治
血液疾患	講義	24	医師	松本雅則、田中晴之、中峯寛和、石原卓、八木秀男、野上恵嗣、酒井和哉、中村文彦、笠原敬、久保政之、長谷川淳、森岡友佳里
神経疾患	講義	33	医師	杉江和馬、中川一郎、形岡博史、桐山敬生、斎藤こずえ、江浦信之、小林恭代、竹島靖浩、山田修一、松田良介、朴永録、泉哲石、古家一洋平、金泰均、西村文彦、木次将史、七浦仁紀、中村光利、佐々木亮太、後藤大輔、中瀬健太、横山昇平、松岡龍太
移植・再生医学	講義	17	医師	伊藤利洋、米田龍生、面川庄平、桑原理充、石原卓、柳生貴裕、金廣裕道、稲垣有佐、田中晴之、平井宏昌、濱路政嗣、福場遼平
運動器疾患	講義	16	医師	田中康仁、原良太、面川庄平、重松英樹、城戸顕、朴木寛弥、谷口晃、小川宗宏、藤井宏真、清水隆昌、河村健二、稲垣有佐、内原好信
眼疾患	講義	14	医師	上田哲生、西智、水澤裕太郎、平井宏昌、藤原克彦、辻中大生、宮田季美恵
精神・行動疾患	講義	24	医師	岡田俊、中村祐、三村将、紀本創兵、山室和彦、山内崇平、中尾智弘、高田涼平、水井亮、太田豊作、松岡究、本多将人、法山勇樹、藤本侑花、池原実伸、西佑記、奥村和生
皮膚疾患	講義	10	医師	浅田秀夫、小川浩平、福本隆也、宮川史、西村友紀、正島千夏、新熊悟、濱田健吾
耳鼻咽喉疾患	講義	14	医師	北原礼、山中敏彰、西村忠己、上村裕和、宮坂俊輝、山下哲範、岡安唯、木村隆浩、望月隆一、森本千裕
東洋医学	講義	7	医師	三谷和男、藤原亜紀、岡安唯、市川麻祐子、若月幸平、後藤大輔
感染症	講義	17	医師	笠原敬、忽那賢志、田中宣道、小川拓、宇野健司、矢野寿一、中野竜一、今北菜津子、西村知子、小川吉彦、大西智子、吉川正英、古川龍太郎
			その他	京谷陽司(薬剤師)
内分泌代謝栄養疾患	講義	25	医師	高橋裕、野上恵嗣、樽松由佳子、中島拓紀、中田康紀、妹尾絢子、武田麻衣子、上田哲生、長谷川真理、鮫島謙一、岡田定規、牧野佑子、小林正樹、紙谷史夏、辻裕樹
口腔疾患	講義	14	医師	山川延宏、館村卓、川上正良、仲川洋介、中村泰士、大澤 政裕
			その他	笹平智則(歯科医師)
産科医学	講義	19	医師	木村文則、内田優美子、市川麻祐子、前川亮、杉本澄美玲、木村麻衣、釜本智之、河原直紀
婦人疾患	講義	12	医師	木村文則、山田有紀、伊藤高広、内山智子、岩井加奈、川口龍二
臨床腫瘍学・放射線治療学	講義	26	医師	磯橋文明、武田真幸、伊藤利洋、本津茂人、庄雅之、山崎正晴、八巻香織、玉本哲郎、若井展英、浅川勇雄、三浦幸子、國安弘基、佐伯圭吾、吉井由美、吉澤明彦、伊藤高広、西尾福英之、四宮敏章、中村広太、本多将人
			その他	京谷陽司(薬剤師)
麻酔・疼痛管理	講義	17	医師	川口昌彦、阿部龍一、中本達夫、吉谷健司、安宅一晃、中川雅史、内藤祐介、中平毅一、吉村季恵、西和田忠、田中暢洋、林浩伸、位田みつる、渡邊恵介、甲谷太一
外傷・救急医学	講義	18	医師	福島英賢、川井康之、園部奨太、恵川淳二、浅井英樹、河村健二、後藤安宣、古家一洋平、宮崎敬太、朴永録、前川尚宜、畑倫明、小延俊文、平賀俊、奥田哲教、鶴田啓亮
総合診療	講義	10	医師	吉本清巳、西尾健治、武田以知郎
在宅医療学	講義	6	医師	吉本清巳、朝倉健太郎、次橋幸男、明石陽介、西村信城
			その他	森本広子(看護師)
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講義	27	医師	今村知明、野田龍也、佐伯圭吾、町田宗仁、水野文子、甲田勝康、神奈川芳行、林修一郎、西岡祐一、明神大也、一戸和成、伊東千絵子
			その他	伊藤雪絵(看護師)、岡本左和子(米国ジョンス・ホプキンス大学病院国際部 アジア地域担当部長)
法医学	講義	24	医師	柏田承吾、羽竹勝彦
			その他	工藤利彩、勇井 克也
計		530		

地域基盤型医療教育コース

コース責任者：教育開発センター 教育教授
コーディネーター：教育開発センター 教育教授
対象学生：緊急医師確保枠学生

1. 授業の概要

地域基盤型医療教育コースは、第1学年4月1日から開始される。

2. 授業のねらい

奈良県立医科大学は、高度先進医療を担う専門医を養成するとともに奈良県の地域医療を担う人材を養成する責務を負っている。学生諸君は一般教育で教養を涵養し、基礎医学を学んでリサーチマインドを身に付け、そして医師としての自覚とともに1000を超える疾患の病態生理、診断、治療について学ぶことが求められている。

しかし、大学附属病院は3次医療機関として高度先進医療を行なうことが責務であるため、来院する患者は特殊なあるいは稀な疾患であることが多く、また、治療のための在院期間が非常に短いのが通例である。つまり、特殊な疾患に求められる高度で核心的な治療を短期間に集中して行っている。いわゆるCommon diseaseや特定の疾患の治療を時間軸全体（初診から治療完結まで）で学ぶこと、そして、患者医療を支える社会的資源（福祉、介護など）を学ぶためにはキャンパス内での学習では不十分である。この地域基盤型医療教育コースはキャンパス内では学ぶことが難しいこれらの学習課題を学ぶために企画されている。このカリキュラムを通じて学生諸君が、地域住民の健康管理および医療の実態を知るとともに、プライマリケアの在り方、全人的医療の重要性を学び、同時に住民との触れ合いを通じて人間性を涵養することを願っている。

3. 授業計画

1) 正規プログラム

医学・医療入門講義（1年次）、早期医療体験実習（1年次）は準備教育として学内で実施する。

地域医療実習1（3年次）および地域医療実習2（臨床医学Ⅲ）は地域診療所、地域基幹病院など学外施設を利用して行われる。

キャリアパス・メンター実習は卒後のキャリア形成支援の一環として学内で実施する。

2) 休暇中特別プログラム

緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）のうち、地域診療所等で実習する「地域医療メンター実習」は夏季・冬季・春季のいずれかの休暇中等に実施する緊急医師確保枠学生のためのプログラムである。

コンソーシアム実習は夏季休業中に早稲田大学と連携して隔年で「地域医療学概論」として本学で開講されるプログラムであり、緊急医師確保枠学生は原則1年次～4年次までの間に1回、その他の1年次～6年次までのすべての学生は選択科目として受講できる。

詳しい授業内容については、シラバス「緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ、Ⅱ」を参照してください。

4. 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5. 推奨する教科書

特になし

6. 参考図書

特になし

7. 学生へのメッセージ等

実習の詳細については、事前に説明会を開催して説明します。緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

研究医養成コース

コース責任者：医学部長

コーディネーター：教育開発センター 教育教授

対象学生：研究医養成コース学生

1 授業の概要

1) 学部における実施の概要

研究医養成コースは、第2学年4月1日から開始される。

2) 大学院における実施の概要

卒業後2年以内に医師免許を取得し、奈良県立医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）、関西医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）または早稲田大学大学院（先進理工学研究科後期課程、3年間）のいずれかに進学し、博士の学位を取得する。奈良県立医科大学または関西医科大学では3年での取得を目指す。（医師免許取得後、直ちに臨床研修（2年間）に従事することは可能）

2 授業のねらい

基礎医学・社会医学の分野において、世界的に貢献する研究者となるための基礎を身に付ける。

3 授業計画

1) 正規プログラム

本コース学生は6年一貫教育の基本単位をもとに特別の単位を加えた学部課程と大学院課程から構成される「研究医養成プログラム」を履修する。

学部課程においては、2年次リサーチ・クラークシップを必修履修し、研究マインドを醸成する。

また、研究医メンター実習では各自が将来専門にしたいと希望する基礎医学・社会医学系教室で指導を受ける。

2) 休暇中特別プログラム

夏季・冬季・春季の休暇中にも、「研究医特別メンター実習」を必修履修し（2～4年生対象）、基礎医学・社会医学系教室で5日間の実習を履修する。

なお、研究医養成コースの学生は、毎年1回は、研究発表会を学内で開催し、医学部長、指導担当教員、教育開発センター教員から評価を受けることが義務付けられる。

コンソーシアム実習は夏季休暇中に早稲田大学と連携して開講されるプログラムであり、本コースの学生は隔年で早稲田大学で開講されるコンソーシアム実習「先端医療工学と生命科学」を在学期間中に必修履修する。

3) 早稲田大学 Writing Scientific Papers

本コースでは、在学中に英語のライティングの基礎を学び、英語の論文や文書に対応できるようにする。このコースも研究医養成コースの学生について必修とする。

ホームページ参照

<https://led.w-as.jp/gogaku/wsp.html>

4 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5 推奨する教科書

特になし

6 参考図書

特になし

7 学生へのメッセージ等

メンター実習の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～4年	-	必修（緊急医師確保枠の学生）
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			
全担当教員			
若月幸平（教育開発センター）、地域基盤型医療教育協力施設担当者			
概要			
奈良県の地域医療の充実に必要な医師の養成及び確保を図るため、医師の確保が困難な県内の地域に所在する医療機関又は医師の確保が困難な診療科等において、将来、医師として業務に従事しようと意欲を持って「緊急医師確保入学試験枠」で入学した学生に対し、地域で教育し、地域での交流の成功体験を増やすことによって地域への定着を促進することを目的とする			
目標			
<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 私たちのプロフェッショナル宣言を遵守し、医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □高血圧や糖尿病といったCommon diseaseの基本知識を説明することができる。 □社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解し、説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 実習において各医療現場の役割を理解し、説明することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □実習を通して他職種の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら協働することができる。 □患者さんおよび家族と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 □社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解する。 □地域医療の担い手となるための心構えを身につける。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 経験した症例に対してリサーチマインドを持ってより理解を深めることができる。</p>			
評価方法			
<p>■レポート（80%）《Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》</p> <p>■受講態度（20%）《Ⅰ》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>			
授業計画			
<p>【Ⅰ】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p> <p>1) 対象者 医学科1年～4年次の緊急医師確保入学試験枠学生全員</p> <p>2) メンター実習 休暇中の平日の4日間、奈良県立医科大学教育協力施設等の医療施設で実習をおこなう</p> <p>3) メンター実習報告会（年2回） 夏休み明け、春休み明けに開催する報告会で実習レポートの発表をする （1年次は実習に参加していないが入学後すぐに開催する報告会に出席し先輩の発表を聞く）</p> <p>4) 研修等 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが緊急医師確保入学試験枠学生のために企画する会議、研修に参加する</p> <p>5) 面談 緊急医師確保入学試験枠学生として大学生活を充実して送っているかを確認する。また学生が制度を理解し健やかな生活ができるよう助言する （面談者：教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センター、奈良県担当者）</p> <p>〔モデル・コアカリキュラム対応番号〕 【A-1-2)-③④, A-1-3)-②③④⑤, A-2-1)-①②③④⑤ A-2-2)-②③, A-3-1)-①②, A-4-1)-①②③ A-4-2)-①②④⑥⑦, A-5-1)-①②③④, A-6-1)-④⑤ A-6-2)-①, A-7-1)-①②③④⑤⑥⑦, A-7-2)-①② A-9-1)-①②⑤, B-1-7)-①②③④⑤⑦, B-1-8)-①②③⑩⑫ E-7-2)-①②③, E-7-3)-③④⑤⑥, E-9-1)-①⑥⑦⑨⑩】</p>			
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト			
特になし			
参考書			
特になし			
学生へのメッセージ等			
メンター実習や面談、研修の日程調整は、教育開発センターと県費奨学生配置センターが対応しています			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～6年	-	選択（緊急医師確保枠学生、研究医養成コースの学生は必修）
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			
全担当教員			
若月幸平（教育開発センター）、コンソーシアム実習担当教員（早稲田大学、奈良県立医科大学）			
概要			
1. 「医工学と医学」医学と工学が融合した医工学と医療の関わりについて医学、工学の両側面から学ぶ。 2. 「地域医療学概論」地域医療に関わる行政、経営、予防医学、医療の現状について学ぶ。			
目標			
<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p><input type="checkbox"/>医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>地域医療や医工学の知識を理解することができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>コンソーシアム実習で得た知識を医療の実践に活用することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>他学の学生や教員と適切なコミュニケーションをとり、積極的にグループワークに参加することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p><input type="checkbox"/>医学・医療の研究と開発が社会に貢献することを理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域医療に関わることの必要性を理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p><input type="checkbox"/>実習で経験した内容をさらに深く学ぶための自己学習ができる。</p>			
評価方法			
<p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■受講態度（60%）《I、II、III、IV、V、VI》</p> <p>■レポート（40%）《I、II、III、V、VI》</p>			
授業計画			
<p>【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p> <p>1) 対象：医学科1～6年次 自由選択科目 開講される科目、日時などの詳細は別途周知する。</p> <p>2) 実習内容 夏季休業中に早稲田大学（東京）あるいは本学で開講される4日間の集中講義、ワークショップを履修する。 講義は、早稲田大学と本学の両方の教員が分担する。 ※令和7年度は本学で「地域医療学概論」開講予定。</p>			
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト			
特になし。授業中に資料を配布します。			
参考書			
特になし。			
学生へのメッセージ等			
他大学の学生と触れ合う貴重な機会です。奮ってご参加ください。			

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

(目的)

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

(公欠の理由)

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- (2) 気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- (3) 学生の親族が死亡した場合（忌引）
- (4) 学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- (5) 学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、教員が必要と認める学会等に参加する場合
- (6) その他学長が必要と認めた場合

(公欠の基準)

第4条 前条第1号及び第3号における公欠の基準については、別表第1に定めるとおりとする。

(公欠の手続)

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合には、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。

ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(公欠時の定期試験等の取扱い)

第7条 公欠を許可された期間は、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第3項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第7条に規定する定期試験等の受験に係る授業時間数には含めないものとする。ただし、前条に規定する補講等が実施された場合は、当該時間数に含めるものとする。

2 公欠を許可された学生に対する定期試験等の取扱いにおいて、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第4項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条第2項に規定する疾病その他やむを得ない理由については、第3条各号を適用するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

感染症について(第3条第1号関係)

	対象疾病	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、MERS、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清型がH5N1、H7N9であるものに限る)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザH5N1を除く)	発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	病状により本学健康管理センター医師、その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで
	感染性胃腸炎(ノロ・ロタ等)	症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が消失してから48時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他感染症	病状により本学健康管理センター医師、その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで

忌引について(第3条第3号関係)

親等	対象範囲	日数(土日・祝祭日を含む)
	配偶者	最長7日
1親等	父母、子	最長7日
2親等	祖父母、兄弟姉妹、孫	最長3日

別表第2（第5条関係）

手続方法について

以下の理由により欠席する場合は、公欠届及び以下の添付書類を提出すること。

欠席理由	添付書類	申出時期
感染症等(第3条第1号)	医師の診断書	診断書による療養期間終了後すみやかに
忌引(第3条第3号)	会葬の案内状、礼状等	事後1週間以内
裁判員制度(第3条第4号)	用務内容が記載された書類	招集日の1週間前まで
学会等参加(第3条第5号)	学会等の概要がわかる書類	学会等参加の1週間前まで
その他(第3条第6号)	理由が証明できる書類	事後1週間以内

※(第3条第2号関係)

気象警報の発令、交通機関の運休等社会的要因によるものについては、添付書類の提出は不要とする。

別紙様式(第5条関係)

公 欠 届

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

医学部 (医学科・看護学科)

第 学年 (学籍番号)

氏 名 _____

下記の理由により講義、実習等を欠席したいので、公欠の取扱いをお願いします。

記

1 理 由 (該当理由にレを入れること)

- 感染症等
- 気象警報、交通機関運休等
- 忌引 (続柄)
- 裁判員制度
- 学会等参加
- その他 ()

2 公欠期間及び公欠扱いを希望する講義・実習等名

年 月 日 ~ 年 月 日

講義・実習等名 (詳しく記載すること)

※別表第2に定める書類を添付すること

奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部医学科に在籍する学生（以下、「学生」という。）が履修するすべての科目について、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第7条第6項に規定する成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2条 学生は、成績に対して確認すべき事項がある場合は、授業科目担当教員に、直接確認することができるものとする。

(確認依頼受付期間)

第3条 前条による確認依頼の受付期間は、成績開示後、一定期間を設けるものとする。

(確認に伴う措置)

第4条 第2条による確認依頼を受けた授業科目担当教員は、所定の期間内に確認結果を回答するものとする。

2 前項の回答に当たっては、授業科目担当教員が直接当該学生に確認結果を回答するものとする。

(異議申立て)

第5条 前条の規定による確認結果に異議がある学生で、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、別に定める「成績に対する異議申立書」（以下「異議申立書」という。）を学長あてに提出することにより、異議申立てができるものとする。

(1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

(2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

2 前項の異議申立書は教育支援課を通じて提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第6条 前条による異議申立ての受付期間は、当該学生が第4条による回答を受理後、一定期間を設けるものとする。

(受 理)

第7条 学長は、第5条による異議申立書を受理した場合は、医学部教務委員会において当該異議申立ての審査を行うものとする。

2 学長は、異議申立てを受理する事由に該当せず、異議申立てを却下する場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第8条 医学部教務委員会は、当該異議申立ての審査を行い、その結果を学長に報告し、学長が決定するものとする。

2 教育支援課は、学生及び授業科目担当教員に当該結果を成績に対する異議申立てに関する回答書により通知する。この場合において、異議申立てを容認する結果であった場合は、授業科目担当教員に成績について変更する措置を行わせるものとする。

3 異議申立てへの回答に対して再異議申立ては認めない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、必要な要領は別に定める。

附 則

この要領は令和5年4月1日から施行する。

出席確認端末 (Early Bird) について

下記の講義室で講義が行われる際、出席管理システム端末 (Early Bird) で出席をとる場合があります。

1 Early Bird 導入教室

- 教養教育棟 第一～第四講義室、化学実習室、物理実習室
基礎医学棟 第一・第二講義室、生理・薬理・病理実習室、組織実習室、小講義室
臨床講義棟 第一・第二講義室
看護学科棟 第一～第三合同講義室、第一～第三講義室、情報科学室

2 操作手順

- ・出席確認端末 (Early Bird) では、授業開始前の 10 分間(授業開始時刻は含まない)に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。
(例) 1 時間目 (9:00 開始) の場合は 8:50 から 8:59
- ・出席管理端末 (Early Bird) に時刻が表示されている状態が正常な状態です。学生証をかざすことで、出席情報の登録を行います。
- ・端末に向かって右端に学生証をかざし、電子音が鳴り画面下部に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システム (Active Academy) の「修学ポートフォリオ」で各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則 (抜粋)

(懲戒処分)

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1. 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2. 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（教務係直通）
- ③ 0744-29-8805（入試・学生支援係直通）
- ④ 0744-29-8917（入試・学生支援係直通）

※係に関係なく、上記いずれかの番号にご連絡ください。

健康管理

(1) 学生相談

学生が学生生活を送るうえでの様々な相談に応じるため、臨床心理士による学生カウンセリングルームを週1回開設しています（予約制）。カウンセリングを希望する場合は、教育支援課又は教員（学生生活相談担当教員、アドバイザー教員、研究指導教員など）を通じて申し込んでください。教育支援課に申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。教育支援課担当者がカウンセラーと日程調整を行います。なお、相談内容の秘密は固く守られます。

(2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医（内科）による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

(3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し(5)の健康管理センターの指示に従ってください。

(4) 定期健康診断

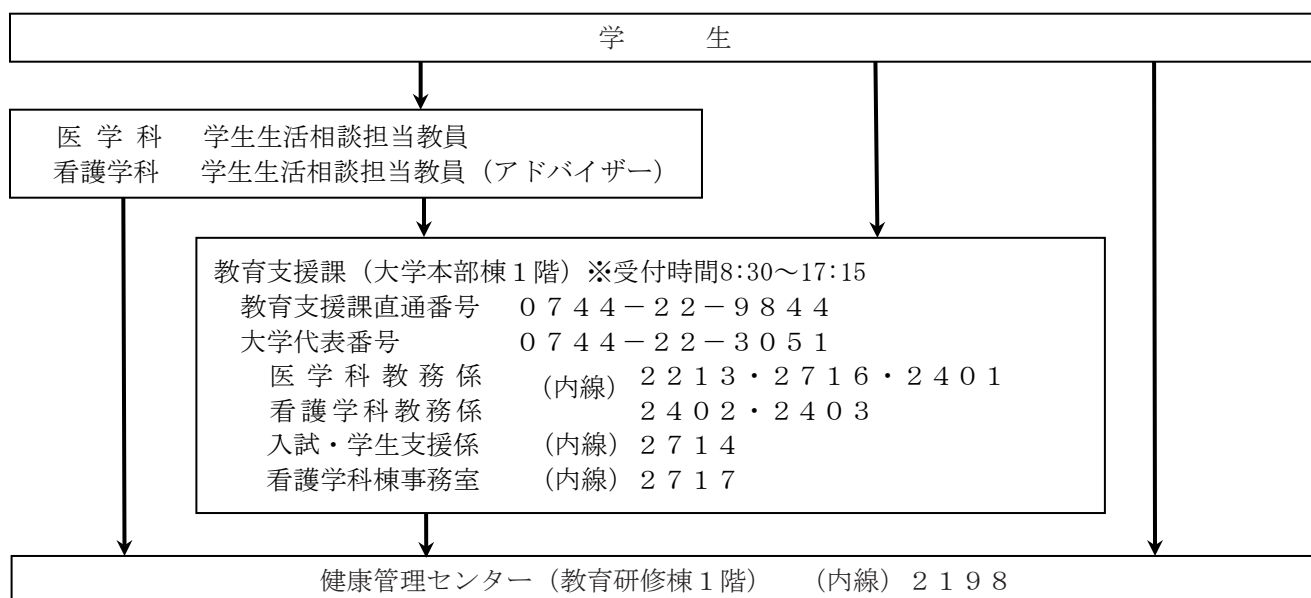
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生については、診断項目について自己責任で受診し(5)の健康管理センターに報告してください。

また、医学科1年生、編入2年生、看護学科1年生・看護学研究科1年を対象に結核感染防止のためのIGRAs検査、麻疹（はしか）・風疹（三日ばしか）・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・水痘（水ぼうそう）の4種感染症抗体価検査及びB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。健康診断の記録は大切に保管しておいてください。

(5) 健康管理センター

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を案内します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことをお勧めします。



(6) 附属病院の受診を希望される方へ

本大学の附属病院を受診される場合、他院もしくは健康管理センターの発行する紹介状を持参されると選定療養費が免除されます。

健康管理センターにて紹介状の発行を希望される方は、平日午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分までに健康管理センターに行き、手続きをしてください。

なお、緊急の場合を除き、附属病院の受付時間（平日午前 8 時 30 分～午前 11 時）外は受診することはできません。また、診療科により外来診療を行っていない曜日があるため、事前に調べておいてください。

(7) 感染症対策

感染性の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡してください。欠席しても公欠が認められますので、登校後に診断書と公欠届を提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症については大学からの対応方針が状況に応じて更新されているので、最新の情報を把握してそれに従ってください。

主な感染症の出席停止期間

(その他の疾患でも教育支援課または健康管理センターの指示に従って下さい)

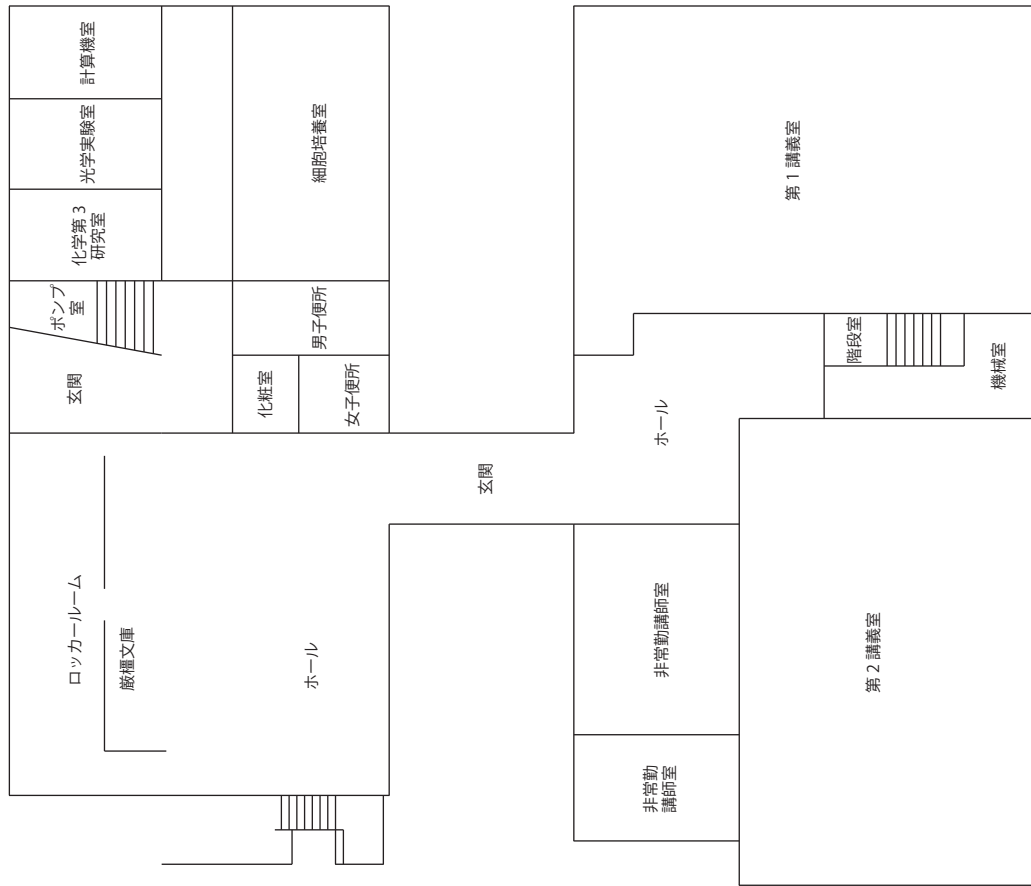
感染症の種類	出席停止期間（登校基準）
インフルエンザ (※)	発症した後（発熱の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで。
百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺等の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
麻疹（はしか）	発疹に伴う発熱が解熱した後 3 日を経過するまでは出席停止。ただし、病状により感染力が強いと認められたときは、さらに長期に及ぶ場合もある。
風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで。
水痘（水ぼうそう）	すべての発疹がかさぶたになるまで。
感染性胃腸炎 (ノロ・ロタ等)	下痢、嘔吐症状が消失してから 48 時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
B 型肝炎	急性肝炎の急性期でない限り登校は可能。HBV キャリアの登校を制限する必要はない。ただし、血液に触れる場合は手袋を着用するなど、予防策を守ることが大切。
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により校医等において感染の恐れがないと認めるまで。

(※) 鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9 など）及び新型インフルエンザ等感染症は別途対応。

附属病院での実習時には、B 型肝炎、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体価およびワクチン接種記録の提出が求められます。また、学外の実習受け入れ施設でもワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。海外留学時にも抗体検査結果やワクチン接種記録が求められます。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。またワクチン接種記録は速やかに健康管理センターに報告するとともに、医療機関に勤める際にも必要になりますので自己管理してください。

教養教育棟

1 階



2 階

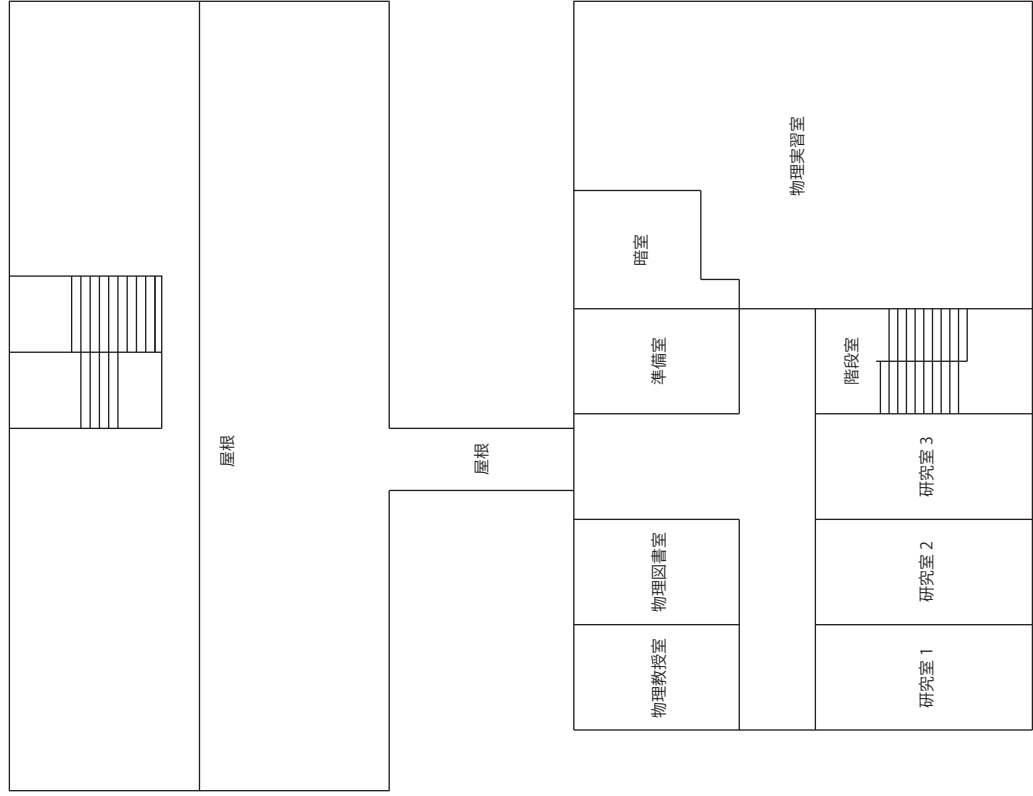


教養教育棟

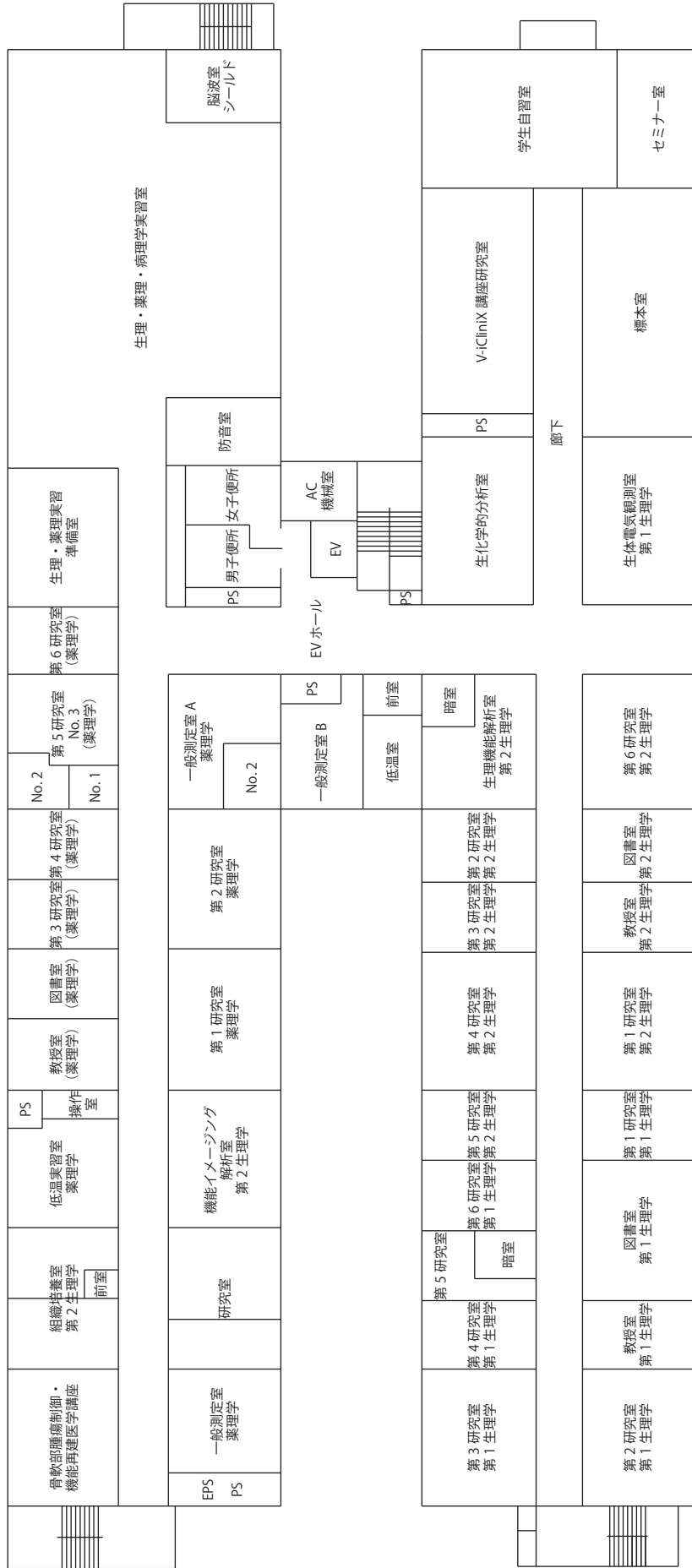
3 階



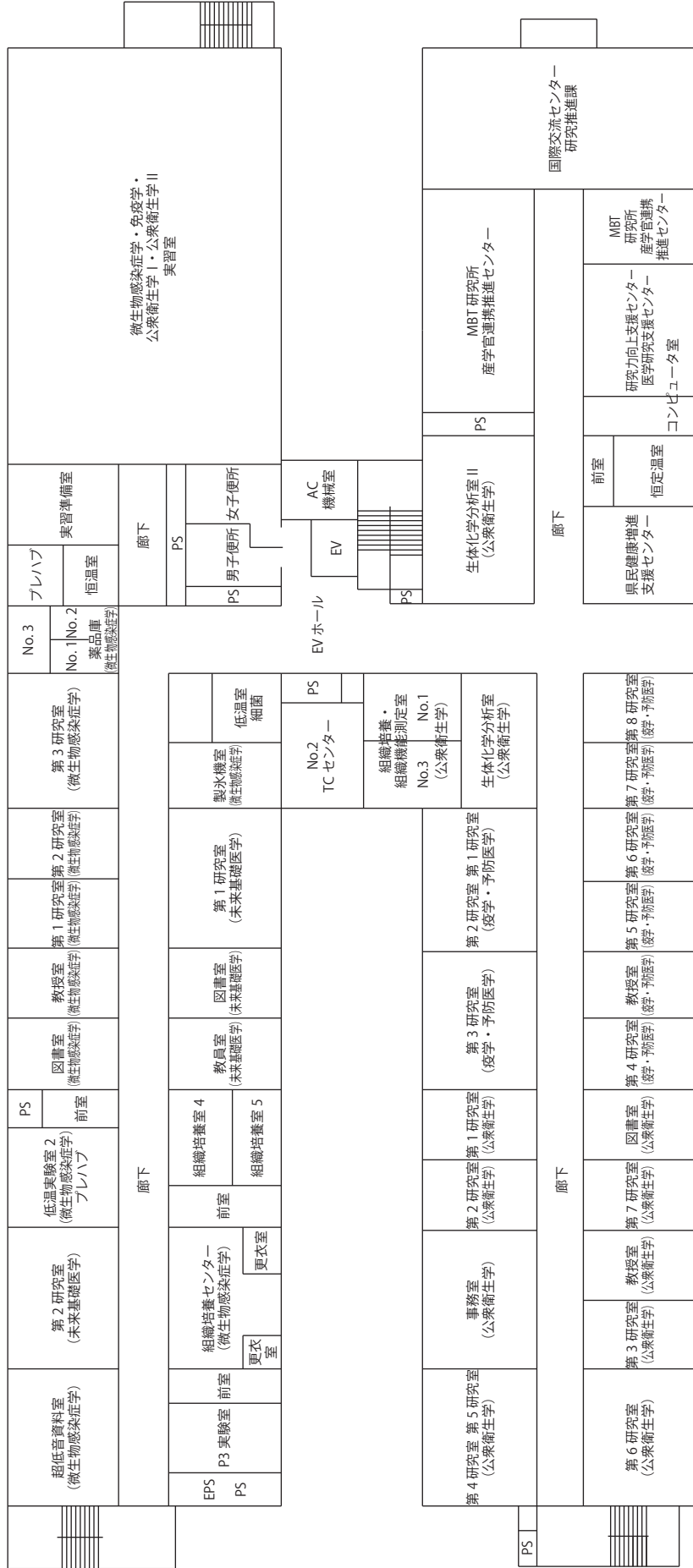
4 階



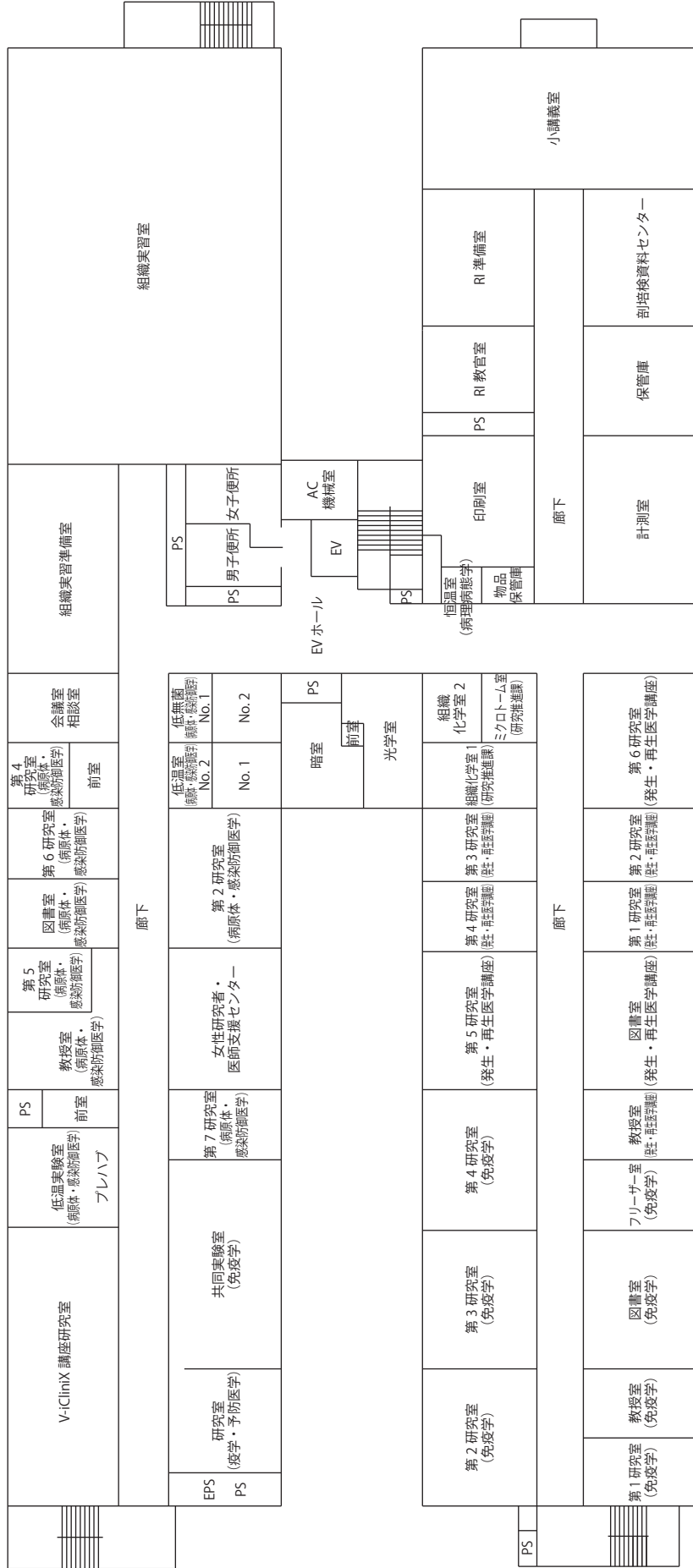
基礎医学棟 3階



基礎医学棟 4階



基礎医学棟 5階



附属病院

医局棟・管理棟 1階



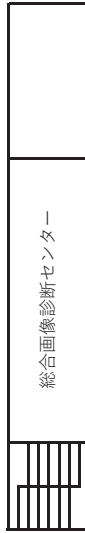
管理棟 廊下



廊下



医局棟 廊下



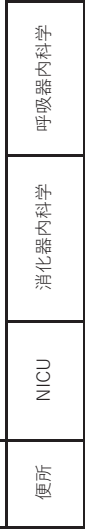
医局棟・管理棟 2階



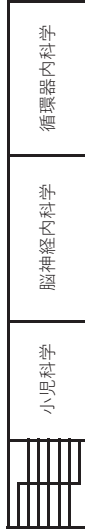
管理棟 廊下



廊下



医局棟 廊下



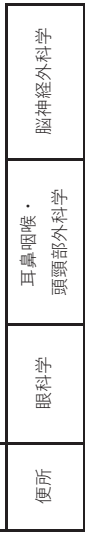
医局棟・管理棟 3階



管理棟 廊下



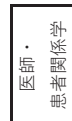
廊下



医局棟 廊下



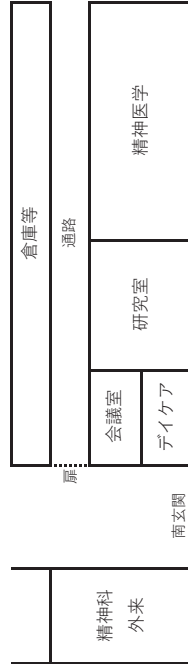
A棟 2階 腎臓内科学



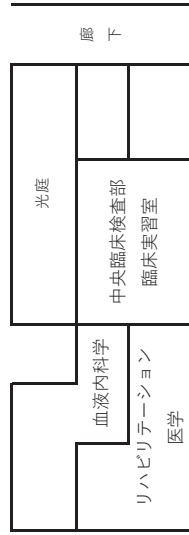
A棟 5階北



D棟 1階



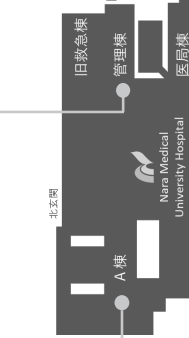
B棟 2階



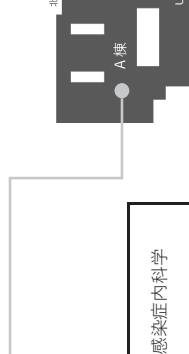
B棟 3階



E棟



D棟



南玄関

北玄関



旧救急棟



管理棟



医局棟



大学花巻キャンパス



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)



南玄関



北玄関



精神医療センター (D棟)